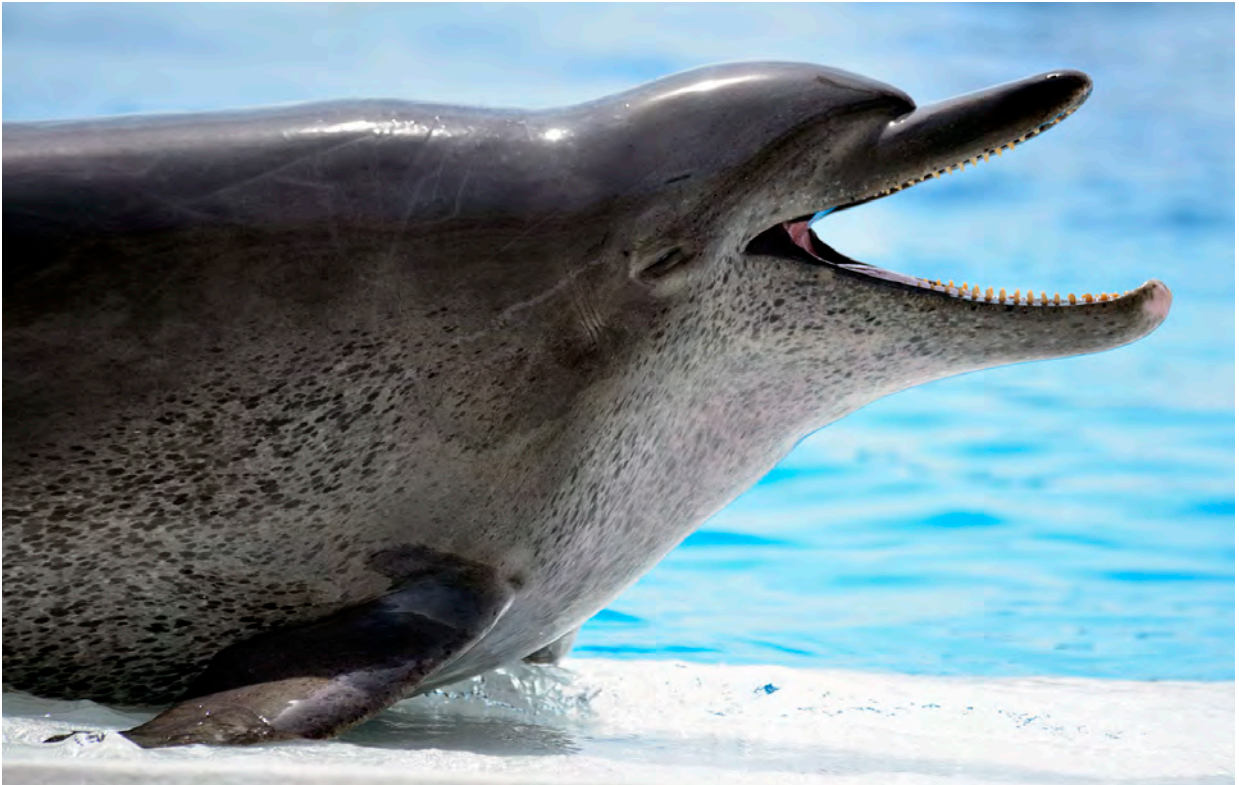


令和 7 年度

沖縄美ら海水族館年報

第 22 号



ANNUAL REPORT OF OKINAWA CHURAUMI AQUARIUM
No.22 April 2025 – March 2026

ミナミバンドウイルカ *Tursiops aduncus* の「オキちゃん」(表紙)と「ムク」(裏表紙)

1975年、奄美大島から沖縄国際海洋博覧会の「いるかの国 オキちゃん劇場」でのショー出演のため本部町へ搬入されたオキちゃんとムクは、その後も1976年に開園した海洋博公園において長年にわたり来訪者に親しまれてきました。オキちゃんは卓越した運動能力を発揮し、ダイナミックなパフォーマンスで多くの人々を魅了する一方、ムクはイルカスタジオでの水中ショーなどを通じて、エコロケーションをはじめとするイルカの能力や生態の奥深さを伝えてきました。

1999年にはオキちゃんが娘イルカを出産し、九州・沖縄サミット開催年にちなみ「サミ(沙美)」と名付けられました。この繁殖によって、国内初となるミナミバンドウイルカの繁殖成功例として、日本動物園水族館協会より繁殖賞を受賞しています。2025年5月には飼育開始から50周年を迎え、国内の飼育下における全鯨類で最長、またミナミバンドウイルカとして世界最長となる飼育記録を達成しました。

オキちゃんは2025年12月にその生涯を終えましたが、長年にわたり自らの名を冠したオキちゃん劇場で活躍し、多くの来訪者に動物を身近に感じる機会を提供してきました。ムクは現在も体験プログラムを通して人とイルカをつなぐ存在として活躍しています。両個体の歩みとそこから得られた知見は、今後の飼育管理と動物福祉のさらなる発展へと受け継がれていきます。

目次

I 名称・所在地・営業資料	3
II 沿革	3
III 管理・運営	
(1) 組織	4
(2) 入館者数	4
(3) 取材等報道一覧	5
(4) 主な長期飼育動物・繁殖動物	5
IV 業務報告	
(1) 調査研究活動	6
(2) 教育普及活動	30
V 付属資料	
(1) 飼育生物一覧	56
(2) 取水海水温	70
(3) 水槽規格	71

I 名称・所在地・営業資料

名 称 沖縄美ら海水族館
設置者 内閣府 沖縄総合事務局
管理許可者 沖縄県
指定管理者 一般財団法人沖縄美ら島財団

所在地 〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川424
(国営沖縄記念公園海洋博覧会地区内)
電話：0980-48-3748 FAX：0980-48-4444 (代表)
H P：<https://churaumi.okinawa>

開館時間 通常期 08:30－18:30 (入館締切 17:30)
延長期間 08:30－20:00 (入館締切 19:00)
ナイト期間 08:30－21:00 (入館締切 20:00)

入館料金

	一般	団体 (20名以上)	年間パスポート
大人	2,180円	1,730円	4,360円
中人(高校生)	1,440円	1,140円	2,880円
小人(小・中学生)	710円	560円	1,420円
6歳未満	無 料		—

II 沿革

昭和63年度 海洋性大規模集客施設整備構想
平成元年度 海洋性大規模集客施設基本計画策定
平成6年度 新水族館基本設計 着手
平成7年度 新水族館実施設計 新水族館工事用道路工事 着手
平成8年度 新水族館基盤整備工事 着手

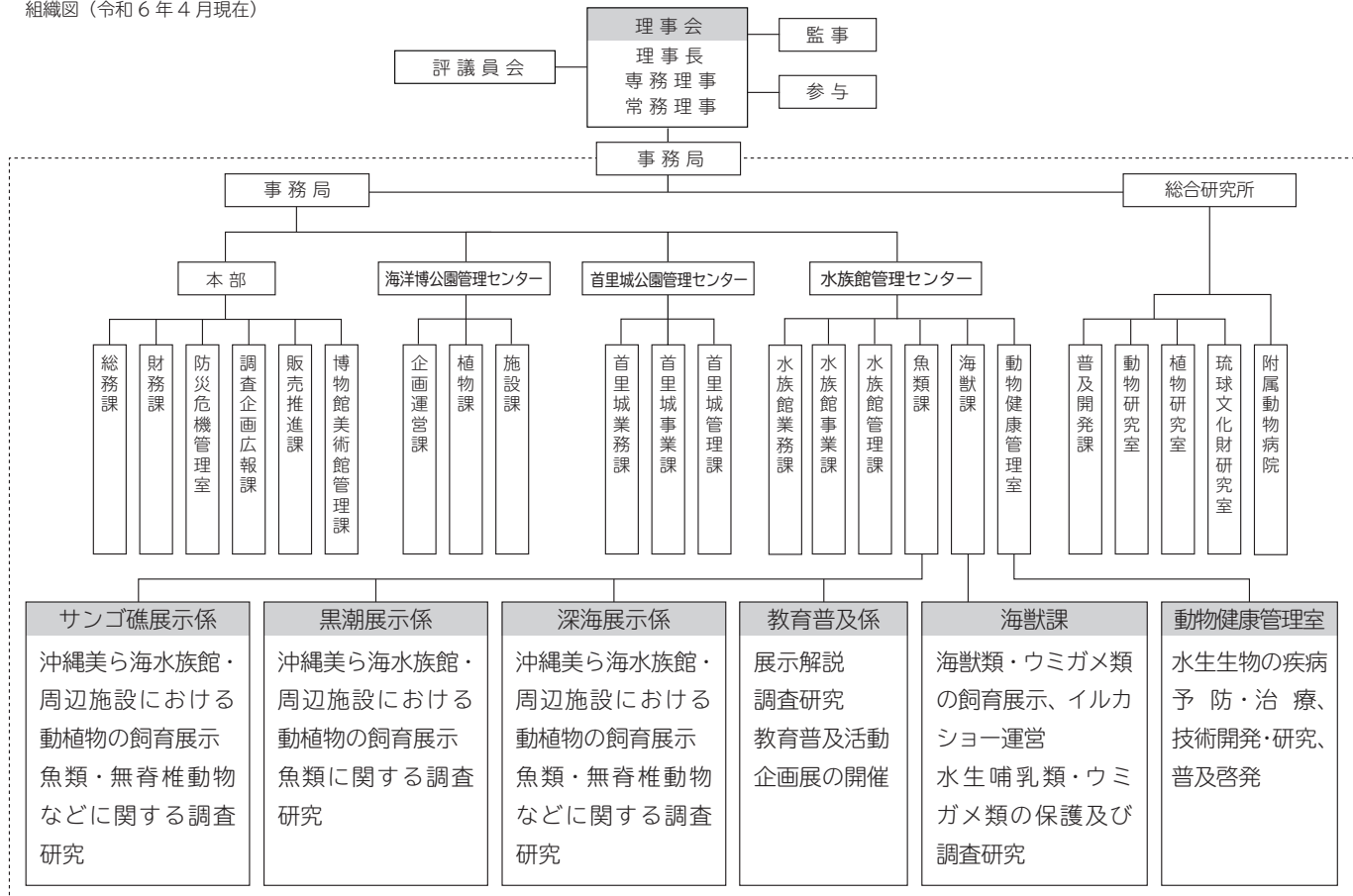
平成14年 11月 1日 新水族館開館、愛称を「沖縄美ら海水族館」とする
平成15年 2月 28日 入館者100万人達成
平成15年 3月 25日 沖縄美ら海水族館博物館登録
平成18年 11月 11日 入館者1,000万人達成
平成22年 3月 30日 入館者2,000万人達成
平成25年 10月 23日 入館者3,000万人達成
平成28年 10月 19日 入館者4,000万人達成
令和元年 6月 29日 入館者5,000万人達成
令和4年 11月 1日 開館20周年記念およびイベント実施
令和6年 8月 16日 入館者6,000万人達成

III 管理・運営

(1) 組織

一般財団法人 沖縄美ら島財団 組織図 並びに 沖縄美ら海水族館 飼育・展示関係業務所掌

組織図 (令和 6 年 4 月現在)



(2) 入館者数

	有料	無料	合計		有料	無料	合計
4	262,018	34,243	296,261	10	302,806	38,931	341,737
5	254,594	32,590	287,184	11	273,044	33,795	306,839
6	230,736	29,970	260,706	12	243,135	30,190	273,325
7	282,410	35,970	318,380	1	230,415	27,216	257,631
8	336,322	31,266	367,588	2	246,431	26,995	273,426
9	244,816	35,440	280,256	3	319,547	34,501	354,048
				計	3,226,274	391,107	3,617,381

(3) 取材報道一覧

カテゴリー	テレビ	新聞	ラジオ	Web
飼育展示	19	36	2	196
調査研究	3	0	0	0
普及啓発	1	4	0	34
イベント	19	27	3	288

(4) 主な長期飼育動物・繁殖動物

【主な長期飼育動物】

(令和8年3月31日現在)

種名	性別	推定年齢	飼育年数	搬入年月日
トゲスギミドリイシ	不明	不明	30年 6ヶ月	1995.09 搬入
フカトゲキクメイシ	不明	不明	36年 5ヶ月	1989.10 搬入
オオテンジクザメ	♂	不明	36年11ヶ月	1989.04.10 搬入
トラフザメ	♂	34	34年 6ヶ月	1991.09.23 心化
ジンバエザメ	♂	不明	31年	1995.03.11 搬入
オオメジロザメ	♂	不明	47年 9ヶ月	1978.06.21 搬入
アカウミガメ	♀	不明	31年11ヶ月	1994.04.15 搬入
アオウミガメ	♀	不明	34年 7ヶ月	1991.08.25 搬入
クロウミガメ	♂	不明	28年10ヶ月	1997.05.07 搬入
タイマイ	♀	32	32年 7ヶ月	1993.08 心化
ヒメウミガメ	♀	不明	39年 8ヶ月	1986.07.01 搬入
ミナミバンドウイルカ	♂	54	50年10ヶ月	1975.05.01 搬入
オキゴンドウ	♀	46	42年 5ヶ月	1983.10.02 搬入
交雑種(ミナミバンドウイルカ×バンドウイルカ)	♀	36	36年 9ヶ月	1989.06.09 出生
アメリカマナティー	♀	38	28年10ヶ月	1997.05.25 搬入

【繁殖動物】

魚類	ホウライザメ	ヒョウモンオトメエイ	クロウミウマ
	ハコアユ	チンアナゴ ※	ナンヨウツバメウオ
	クロコショウダイ	ウメイロモドキ ※	ハナゴイ ※
	スジハナダイ ※	イトヒキコハクハナダイ ※	ホシカイワリ
	コパンアジ	トウアカクマノミ	ズナガアカボウ ※
両生類	ナカモトイロワケハゼ ※	グルクマ	スマ ※
	アイフィンガーガエル	オキナワアオガエル	リュウキュウアカガエル ※
爬虫類	ヤエヤマハラブチガエル	シリケンイモリ	
	タイマイ	アオウミガメ	アカウミガメ
甲殻類	クロイワトカゲモドキ	ミヤコトカゲ	ヨナグニスベトカゲ ※
	リュウグウモエビ ※	アカシマシラヒゲエビ ※	ソリハシコモンエビ ※
	マルゴシミノエビ	アカモンミノエビ ※	バイオレットボクサーシュリンプ ※
	ケスジヤドカリ ※	マツバガニ ※	アサヒガニ ※
クモ・サソリ類	ヒラホモラ ※	トゲハリセンボン ※	
	ヤエヤマサソリ		
クラゲ類	コトクラゲ	サカサクラゲ ※	タコクラゲ
	ナンヨウミズクラゲ	ミズクラゲ ※	ミツデリッポウクラゲ ※
	アマクサクラゲ	フクロクジュクラゲ ※	
サンゴ類	コエダミドリイシ	トゲスギミドリイシ ※	ハイスギミドリイシ ※
イソギンチャク類	ハタゴイソギンチャク		
貝類	ナギレホネガイ	ヨナグニマイマイ ※	オキナワギセル
	リュウキュウギセル		
頭足類	コブシメ	ヒメイカ ※	アオリイカ ※

※ 6カ月未満飼育

IV 業務報告

(1) 調查研究活動

造礁サンゴ等の生態系基盤に関する調査

目的

南西諸島における造礁サンゴ類は生物多様性を支える重要な構成要素であり、その実態を把握することは生物多様性保全の観点から重要である。造礁サンゴ群集は水産業や観光業とも密接に関わっていることから、長期的な消長や白化現象などを把握・予測することを目的としてモニタリング調査を実施する。平成31年度以降は、魚類などサンゴ礁を利用する生物にも焦点を当て、生態系としてのサンゴ礁に着目した調査研究を展開している。また、生態情報に乏しい八放サンゴ（ヤギ類）については、飼育を通して生物学的情報の取得を目指す。さらに、水族館事業で培った造礁サンゴの飼育技術を活用し、野外へのサンゴ幼生の放流や、泡盛粕を利用した漁礁ブロックへのサンゴ移植の有効性についても検討する。

事業内容および結果

- ・モニタリング調査の結果、昨年度に続き本年度も白化現象が確認された。特に浅海域における影響が顕著であり、水深3mではサンゴ被度の大幅な減少がみられた。一方、やや深い海域（水深10m）では白化の影響は限定的であった。調査地点における出現魚種数および個体数は昨年度と同程度であったが、今後、白化の影響が周辺の生物相に波及する可能性があり、注視が必要と考えられた。
- ・水族館に導入した八放サンゴ（ムレヤギ）について、通年での組織観察を行い、卵の形成および成熟過程を追跡した。その結果、本種の産卵生態に関する知見が蓄積されつつある。
- ・泡盛粕を利用した漁礁ブロックへのサンゴ移植について、設置海域の選定および関連機関との調整を実施した。
- ・サンゴ幼生放流効果の検証に不可欠となるサンゴの親子鑑定技術の確立を目指し、マイクロサテライト法およびGRAS-Di法の2手法について有効性の検証を進めている。



白化により死滅したサンゴ群体



深場においては白化の影響は限定的

魚類等の生物多様性に関する調査研究

目的

世界有数の生物多様性を誇る琉球列島だが、その全容はいまだ解明されておらず、近年でも新種や日本初記録などの報告が相次いでいる。一方で、琉球列島の自然環境は急速に変化しており、生物相を簡便に把握する新技術の開発等が求められている。当研究では標本収集や最新技術である環境 DNA などを用いて琉球列島の魚類等の保全や自然史研究の発展に寄与するとともに、水族館における展示解説の充実や環境保全等の情報発信へ活用することを目的としている。

事業内容および結果

- ・令和 7 年度は約 50 点の生物標本を新規に収集した。その中には国内初記録として報告したタスキサクラダイ等の貴重な標本が含まれる。
- ・新種の深海性サンゴ「リュウキュウサンゴ」をはじめ、日本初記録となるクラゲ類や魚類など 5 種を報告。そのうち 2 種は水族館での生体展示に成功。
- ・遺伝子解析技術を用いたオオテンジクザメの食性解析や、コトクラゲの親子鑑定を実施。また、遺伝子から雌個体と判定されたクロマグロのみを水族館に導入することで追尾行動によるリスク低減を図るなど、研究部門で培った DNA 解析技術を水族館の運営に生かす取り組みがなされた。
- ・環境 DNA 研究においては鯨類および頭足類のメタバーコーディングプライマーを開発、論文として発表した。また、ハブクラゲのポリブ探索を目的としたグリッドサンプリングを実施、複数の地点で陽性反応を得た。



日本初記録「タスキサクラダイ」



新種「リュウキュウサンゴ」

深海生物調査

目的

ROV（無人潜水艇）や独自開発した加圧水槽等を用いて、深海生物の採集や映像収集および生息域の調査を行い、展示の充実を図る。

事業内容および結果

- ・沖縄本島周辺の水深 80-350 m で 7 回の ROV 調査を実施し、リュウキュウソコホウボウやケツノサンゴなど多様な分類群の生物 26 種を採集し、16 種を展示した。また、日本初記録種として報告したクガニウミタケハゼの展示や、ワラエビ科の 1 種およびヒノマルクラゲ科の 1 種の当館初展示に成功した。
- ・釣り採集により、計 60 種の深海性魚類を採集し、38 種を展示した。そのうちアラメギンメは当館初飼育に成功。タスキサクラダイの世界初展示、ヒチビキの当館初展示を行った。
- ・長崎大学練習船長崎丸へ乗船し、沖縄本島沖～宮古沖でのトロール・ドレッジ調査に参加した。26 種を採集し、10 種の展示に成功した。
- ・夜間潜水採集によりミナミクマダイの幼魚を採集。形態変化する様子を継続的に展示した。
- ・駿河湾の深海漁業調査を行い、底引き漁で得られたヨロイザメについて人工羊水を用いた飼育試験を行った。
- ・水中ドローンによる深海調査を実施。金武海底谷周辺の水深 500 ～ 800 m 付近では、イトヒキアイトラギスやヒメキチジを採集し、当館初展示を行った。石垣島～西表島沖の水深 350 ～ 800 m 付近の調査ではヒメカンテンナマコやアカグツ科の 1 種など 17 種を採集した。
- ・サメの人工子宮装置の施設改善を行い、育成したヒレタカフジクジラについては餌料改善による育成を試みた。
- ・「深海探検の部屋」のリニューアルを行い、調査・研究中の深海生物の展示を開始した。



タスキサクラダイ



ヒチビキ



ミナミクマダイ幼魚



ユメナマコ



ヒノマルクラゲ科の一種



リニューアルした「深海探検の部屋」

希少魚類等の繁殖技術開発

目的

本調査では、希少種を含めた展示生物の繁殖技術を開発し、種の保存や展示充実に寄与することを目的とする。

事業内容および結果

- ・サンゴ類 3 種：トゲスギミドリイシやハイスギミドリイシの育成を試みた。
- ・クラゲ類 8 種：ナンヨウミズクラゲ、サカサクラゲ等を育成中。
- ・イソギンチャク類 1 種：ハタゴイソギンチャクを育成中。
- ・貝類 4 種：リュウキュウギセルを日動水初繁殖認定に申請中。
- ・頭足類 3 種：コブシメ、ヒメイカ、アオリイカを育成中。
- ・甲殻類 11 種：ケスジヤドカリ、アサヒガニを育成中。
- ・クモガタ類 1 種：ヤエヤマサソリを育成中。
- ・軟骨魚類 2 種：ホウライザメを日動水初繁殖認定に申請中。
- ・硬骨魚類 15 種：ホシカイワリ、クロコショウダイ、ナンヨウツバメウオを日動水初繁殖認定に申請中。
- ・両棲類 5 種：オキナワアオガエルを日動水初繁殖認定に申請中。
- ・爬虫類 6 種：ミヤコトカゲを日動水初繁殖認定に申請中。



リュウキュウギセル 329 日齢



ホウライザメ 142 日齢



ホシカイワリ 111 日齢



ミヤコトカゲ 151 日齢

在来希少種の保全に関する調査研究

目的

生物多様性の高い琉球列島では、特異な生物相が形成されており、絶滅の危機にある希少種も多く含まれる。本研究では、在来希少種に関する生息域内外での生態調査や飼育下繁殖技術の確立により、琉球列島および海洋博公園における生物多様性の保全に資することを目的とする。

事業内容および結果

- ・ヨナグニスバトカゲの初繁殖に成功し、産卵数や孵化までの日数、幼体サイズなど繁殖生態に関する論文が学術誌に掲載された。
- ・ヤエヤマハラブチガエルについては、昨年度初繁殖に成功したものが、JAZA による初繁殖認定を受け、生まれた幼体の展示を実施した。
- ・ミヤコトカゲの飼育下繁殖に初めて成功し、交尾から産卵までの日数や孵卵温度と孵卵日数の関係などが明らかとなった。
- ・飼育下繁殖の技術の確立に向け、継続的に飼育・繁殖に取り組んでいるクロイウトカゲモドキについて、本年度は飼育下で生まれた個体による繁殖に初めて成功した。また、飼育個体の野生復帰について検討するため、約1年飼育した個体を公園内に放野したところ、4か月後に野外での生存が確認され、その有用性が示唆された。
- ・ミヤコカナヘビでは生息域内での野外調査に基づき、早熟で短命な生活史特性を持つことや個体が集中分布する特性を持つことを明らかにし、その論文が学術誌に掲載された。
- ・沖縄の在来淡水魚であるヒョウモンドジョウ、ミナミメダカ、タウナギ、キバラヨシノボリは、これまでに生息域外での系統の維持や飼育技術の確立を目的に飼育を継続しており、ヒョウモンドジョウとミナミメダカについては飼育下繁殖にも成功した。
- ・沖縄在来の希少陸産貝類であるアマノヤマタカマイマイについて、JAZA による初繁殖認定を受けた。



ヨナグニスバトカゲの孵化幼体



アマノヤマタカマイマイ繁殖個体

稀少板鰓類の保全に関する調査研究

目的

沖縄美ら海水族館は、稀少板鰓類の持続的な飼育管理と保全に向けた研究を推進している。国際的に保護対象とされるこれらの種の飼育下繁殖を視野に、適切に管理するためには、生理・行動・健康管理などに関する知見が不可欠である。飼育下と野外での調査を通じて生態情報を広く収集し、将来の保全技術の開発に活かしている。

事業内容および結果

健康管理と行動解析

- ・ジンベエザメやマンタ類のエコー検査や血液検査を実施し、消化状態や健康状態をモニタリング、血液生化学値や性ホルモン濃度の測定を定期的に行った。
- ・水槽のビデオデータを解析することで、ジンベエザメやマンタ類の性行動の周年モニタリングを行った。

野外調査と標識放流

- ・サンシャインコースト大学、バイオピクセル財団との共同研究を行い、オーストラリア海域における野生マンタ類の妊娠調査を行った。
- ・長崎大学、総合研究大学院大学と共同で、アオザメ、ナンヨウマンタ、トラフザメのバイオロギング調査を行い、これらの種類の部分内温性を検証、国際学術誌に発表した。

生息域外保全と国際連携

- ・サメの人工子宮装置の改良を行った。胎仔の飼育容器の底にゲル物質を敷くことにより、胎仔皮膚の擦過傷を軽減し、より安定的な育成を行った。
- ・サメの人工子宮技術に圧力治療技術を組み合わせることにより、胎仔ではない深海性板鰓類の長距離輸送技術や浸透圧治療技術の開発を行った。これらの技術の有効性について現在検証を行なっている。



擦過傷を軽減する人工子宮装置



トラフザメのバイオロギング調査

新規展示種の輸送および飼育技術開発

目的

黒潮流軸に生息する多様な魚類群は、沖縄県の産業振興や水産資源として重要な役割を担っている。飼育展示を通じた水産重要種や希少種の生態解明や普及啓発に向けた活動が必要とされ、生物への負担を軽減した採集から輸送の実現および飼育技術開発が急務である。本事業では、展示の充実と顧客満足度向上などを目指し、飼育困難種の採集および輸送技術の開発に取り組む。

事業内容および結果

- ・ 来館者からの知名度が極めて高く、水産重要種でもあるカマスサワラ（サワラ類の一種）について、外洋性種の輸送に挑戦した。前年度に実施したヨコシマサワラの輸送実績を踏まえ、改良した手網の使用及び潜水採集技術の向上、さらに船舶の広い池間を活用した漁業者との輸送体制を構築し、日本初となる展示を達成した。なお、搬入個体のうち1個体については、「黒潮の海」大水槽における餌付けにも成功した。
- ・ 定置網での採集努力量を増やすことで、マグロ類の中で稀種とされるコシナガ及び輸送が困難とされるヒラソウダの採集・輸送・飼育に成功した。これら2種については、2025年現在、国内唯一の展示施設となっている。また、本年度は11年ぶりとなるクロヘリメジロザメの展示にも成功した。コシナガやメジロザメ類は種同定が難しく、定置網に入網しても食用として水揚げされることが多い。そのため、このような同定困難種を確保するには、定置網における採集努力量の増加が重要である。
- ・ 10年ぶりに定置網へシロシュモクザメが入網した。入網個体は全長約50cm、生後間もない（生後～約1か月齢と推定）幼魚3個体であった。このうち生残していた1個体を翌日に当館へ輸送し飼育を試みた。しかしながら、船舶の生け間で長時間収容されていた影響により、擦過傷等が認められ、搬入時の状態は不良であった。当該個体は搬入当日に死亡したため、標本として保存した。本事例から、漁業者との密な連絡体制の構築および、定置網操業時の乗船対応の重要性が改めて示された。



カマスサワラ



コシナガ



ヒラソウダ



ヤシャカマス

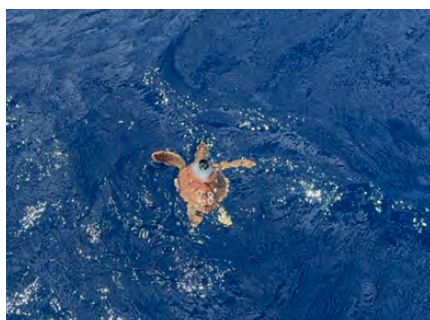
ウミガメに関する調査研究

目的

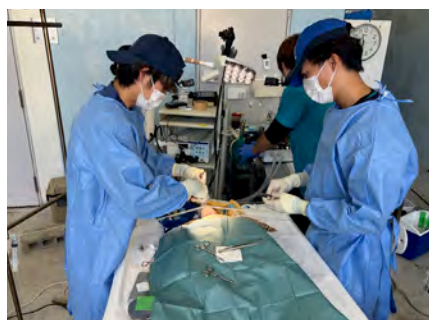
世界中の海洋に広く分布するウミガメ類の生息数は、自然環境の悪化等により近年著しく減少しているとされ、IUCN（国際自然保護連合）のレッドリストにも全種が掲載されている。本調査では、ウミガメ類の西太平洋個体群の動態や生態の把握、人工繁殖技術の確立による野生個体に依存しない飼育・展示個体の確保によって、ウミガメ類の保全に寄与することを目的とする。

事業内容および結果

- ・本部半島周辺でのウミガメの産卵痕跡調査を実施し、アカウミガメおよびアオウミガメの産卵を、各々 28 および 35 回確認した。
- ・海岸に死亡漂着したウミガメ類を調査し、アカウミガメ、アオウミガメおよびタイマイの計 24 例を確認した。
- ・回遊経路調査のため、飼育下で繁殖し、1 年間飼育したアカウミガメ、アオウミガメ、タイマイの計 70 個体に標識を装着し、放流を行った。このうち、2025 年 6 月に放流した 1 歳齢のアカウミガメ 1 個体が 2025 年 12 月に青森県にて再発見された。Sea Turtle Ecology Lab および Upwell Turtles と共同で、衛星標識を装着したアカウミガメ幼体 12 個体の回遊経路を調査している。
- ・日本ベッコウ協会と共同で、飼育タイマイにおけるセレン添加と血中セレン濃度のモニタリングを継続実施し、血中濃度上昇につながるセレン添加量を確認した。
- ・緊急保護したフィブロパピロマ症に罹患したアオウミガメの腫瘍切除手術を実施した。
- ・衰弱したウミガメ類 8 個体を緊急保護し、そのうち 2 個体について内視鏡による除去が困難であった消化管内の釣り針を外科処置により摘出した。また、過去に保護した個体も含め、治療により回復した 3 個体を野生復帰した。
- ・高知大学との共同研究で、アカウミガメおよびアオウミガメについて、孵卵温度の日内変動が± 1℃程度で変動する条件が、孵化率や孵化仔の遊泳能力に望ましいことを確認した。
- ・前肢の一部を失ったタイマイにおいて、野生復帰後 28 か月以上にわたり、正常な成長および採餌行動が確認された。



衛星標識装着個体の放流



釣り針を摘出する様子



フィブロパピロマ症罹患個体

水生哺乳類の繁殖及び健康管理に関する調査研究

目的

水生哺乳類の種の保全や、水族館での持続的な飼育展示を行うため、動物福祉に基づいた飼育管理や健康管理および繁殖技術の開発を行うことを目的とする。

事業内容および結果

- ・バンドウイルカにおいて、人工授精による妊娠の確認（2026年5月出産予定）と、自然繁殖による妊娠を確認した（2026年7月出産予定）。
- ・オキゴンドウにおいて、冷蔵による精液輸送方法を検討した。また、ホルモン剤投与による排卵誘起の検討を実施した。
- ・小型鯨類の呼吸器疾患の新たな確定診断手技として、CT画像検査と気管支内視鏡検査をあわせた検査方法の検討を開始した。
- ・非結核性抗酸菌症に罹患したオキゴンドウについて日本結核・非結核性抗酸菌学会にて発表を行い、医師から検査や診察手法等のアドバイスを受けた。
- ・連携協定を締結している帝京大学医真菌センターより講師を招聘し、真菌同定検査やサンプリング手法等の研修を行った。
- ・マナティーの行動解析のためのエソグラムを作成し、人的介入による行動変化などの評価を開始した。ストレスの定量化を目的とした糞中コルチゾルの定量手法の開発を前進させた。
- ・希少動物の診療協力（4施設）及び、検査協力を行った。
- ・バンドウイルカ1頭を陸上輸送と船舶輸送により香川県から沖縄県に移動し搬入した。
- ・酪農学園大学と獣医学的研究などにおける包括連携協定を締結した。



帝京大学による真菌検査研修の様子



バンドウイルカ胎子の超音波画像

ザトウクジラ等鯨類調査

目的

当事業では、南西諸島周辺に生息する、ザトウクジラを含む鯨類に関する調査研究を実施し、生物多様性および海洋生態系の保全、飼育鯨類の繁殖、飼育技術に役立てるとともに展示の充実や地域産業振興の発展に寄与することを目的に以下の取り組みを実施した。

事業内容および結果

- ・北太平洋全域 40 組織共同でザトウクジラの海洋熱波による餌生物の減少と摂餌域への固執性に関する研究成果を国際誌に投稿した。
- ・豪州 Griffith 大学、米国 Pacific Whale Foundation、県内地元事業者と共同で実施したホエールウォッチング、スイムツアーの影響評価調査結果を学会にて発表した。
- ・沖縄周辺にて洋上調査を実施し、のべ約 300 頭のザトウクジラ尾びれ写真を収集した。
- ・ドローンを利用してザトウクジラの呼気から DNA データを収集する調査を東海大学と共同で実施し、計 4 群分のデータを収集した。この結果から、呼気より DNA 収集が可能であることを実証し、同結果について学会発表および学術誌に投稿した。
- ・南西諸島周辺にて計 4 科 4 種の鯨類ストランディング調査を実施し、国や県へ報告した。
- ・飼育鯨類より得られたデータを野外個体の保全に還元する国際的プロジェクトの一環として、米国ハワイ州やスペイン、帝京科学大学等の研究者と共同で、飼育オキゴンドウの代謝率に関する調査研究を実施し、関連成果を国際学術誌に投稿し受理された（共同）。
- ・科研費（基盤研究 B）助成事業の一環として、東京大学等の研究機関と共同で、全ゲノム解析をはじめとする DNA 解析手法を用い、沖縄および小笠原海域間における遺伝的多様性の比較や集団構造の解明を目的とした研究プロジェクトを開始した。
- ・MUFG 生物多様性保全助成事業の一環として、バイオロギング技術やドローンによる非侵襲的 DNA 採取法を導入した調査研究を開始した。
- ・沖縄県、環境省、関連事業者らと連携した第 2 回沖縄ザトウクジラワークショップを開催し、調査成果報告やザトウクジラ保全に関わるルール化に向けた具体的な議論を行った。
- ・成果の普及を目的に、教育機関等での鯨類に関する依頼講演を約 30 件実施。また、ザトウクジラの来遊期に合わせ、沖縄美ら海水族館での企画展「ザトウクジラ展」、魚類課教育普及係と連携した学習観察会（1 回）、地元企業と連携した学習会（1 回）を実施した。



野生下鯨類への心電図、行動記録計装着



飼育鯨類の代謝と野外個体の保全に関する共同調査

海洋文化に関する調査

目的

沖縄（琉球列島）を含むアジア・オセアニア地域の海洋文化について学術的な調査研究を行うとともに、海洋博公園内における「海と人との関わり」に関する展示や普及啓発の充実を図ることを目的に実施した。

事業内容および結果

- ・表-1 の通り、現地にて写真撮影と聞き取り調査を行い、過疎による人口減少、高齢化などにより伝統行事の継承が影響を受けていることが分かった。
- ・調査成果を、海洋文化館などの財団が管理する施設での催事や展示に活用した。
- ・施設への誘客を促進するとともに、文化財化や新たな利用方法の提案などを通して地域の伝統行事の継承に寄与した。
- ・調査時に撮影した写真、映像データについては、各地域の公民館等に提供した。

表-1 現地調査実施状況一覧

調査地	行事名	時 期	特 徴
名護市 嘉陽地区	アブシバレー	5月12-13日	田畑の害虫を舟に乗せて海に流す豊作祈願
名護市 安部地区	アブシバレー	8月18日	田畑の害虫を舟に乗せて海に流す豊作祈願
名護市 安部地区	ウニホーヤー	6月6日	仮面の来訪神ウニホーヤーの神事
名護市 嘉陽地区	稲刈り・脱穀	7月14日	足踏み脱穀機を用いて作業を行う（名護市立緑風学園 授業）
名護市 嘉陽地区	大綱引き	8月3日	区内の水田稲作による稲わらで綱をつくり、海岸で綱引きをおこなう
名護市 嘉陽地区	豊年祭	9月7日	公民館の舞台で多種の演目が披露される
名護市 安部地区	ハーリー船油塗り	9月26日	ハーリー船のメンテナンス、油塗りを行う
名護市 嘉陽地区	ウシデーク シーシー誕生祭	10月7日	アスイナー（遊場・集落の広場）で女性たちが踊りを披露する神事
名護市 嘉陽地区	菊酒	10月27日	女性たちによる健康祈願
名護市 嘉陽地区	二十日水撫でい	11月9日	ウイグスク（上城）で行われる神事
名護市 嘉陽地区	カーウガミ （ハチウーガミ）	1月29日	旧正月元旦に女性たちが集落内の井戸や川を回る神事
石垣市	アダン・カジノキ等 植物利用調査	2月7-12日	アダンの食文化、葉の利用、カジノキ、アオガンビ等植物利用の調査



嘉陽区の稲刈り・脱穀



嘉陽区の大綱引き



安部区のアブシバレー

動物福祉評価

目的

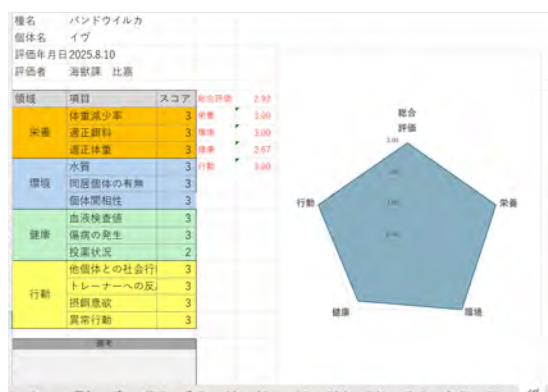
本事業では、沖縄美ら海水族館および水族館関連施設における全飼育生物を対象に、動物福祉評価を実施し、動物福祉の向上に資することを目的とする。

事業内容および結果

- 令和7年4月25日に、動物福祉に関する学識経験者である、村田浩一園長（よこはま動物園ズーラシア）と成島悦雄 JAZA（日本動物園水族館協会）顧問を外部評価委員として招聘し、令和6年度に実施した動物福祉自己評価結果に対する外部評価及び水族館関連施設の視察を実施した。
- 総評として、水流ポンプの設置による環境エンリッチメントの強化や、動物福祉の5領域（栄養・環境・健康・行動・精神状態）を指標としたレーダーチャートによる個体評価の試行など、動物福祉向上に向けた取り組みについて高い評価を得た。
- 今後は、評価の客観性向上や治療方針の検討、職員教育の充実について助言を受けた。
- 令和7年10月10日から10月15日にかけて、令和7年度分の動物福祉自己評価を行った。この自己評価結果については、令和8年6月に外部評価を行う予定である。



外部評価の様子



レーダーチャートによる評価

調査研究事業等の外部評価について

概要

当水族館では、事業の適正な運営を図るため、調査研究を中心とした各種事業に対し、毎年外部の専門家による評価を実施している。この外部評価は、水族館の活動が科学的・社会的に適切であるかを検証し、運営改善や研究の発展に資する重要なプロセスと位置付けられる。令和7年度は、国内外の専門家4名を研究顧問として迎え、事業について客観的な視点から評価を受けた。評価結果をもとに、さらなる発展を目指し、調査研究の質の向上と社会への貢献を強化する。

表 令和7年度 外部評価委員会の評価

事業名	評価コメント（要約）
造礁サンゴ生態系調査	サンゴ礁モニタリングの長期データの蓄積を踏まえ、論文としての成果公表を期待する。イシサンゴの産卵・繁殖技術は水族館が先導する分野であり、生物学的知見の集積と展示への応用に資する研究として継続が望まれる。八放サンゴ類（ムレヤギ）の生活史研究も進化研究の観点から重要であり、今後の成果に期待する。
ザトウクジラ等鯨類調査	南西諸島のザトウクジラおよび鯨類生態系の保全を目的とした研究として適切に位置づけられ、種と生息環境の保護という観点と整合している。野外研究の成果を飼育管理や普及活動、地域産業との連携に結びつけている点も評価できる。一方で、成果の実践的活用をより具体的に示すことや、ザトウクジラ以外の鯨類や生態系レベルでの位置づけの整理が求められる。
水生哺乳類の繁殖及び健康管理に関する調査研究	水生哺乳類の繁殖および健康管理を通じて、域外繁殖の強化と遺伝的多様性の保全に貢献している。自然・人工繁殖の進展や診断技術の向上、ストレス評価の導入により、繁殖管理と動物福祉の両面で成果が認められる。学術発表や機関間連携による知識共有も評価できる。一方で、長期的な遺伝管理戦略や福祉指標の整理を明確にすることで、研究の戦略性の向上が期待される。
ウミガメ个体群の保全、飼育个体の繁殖・健康管理の研究・技術開発	多分野にわたり成果を上げている点は高く評価され、長年の飼育・研究の蓄積によるものと考えられる。ウミガメ3種の卵と幼体を保有する稀有な施設として、その特性を活かした独自研究の展開が期待される。沖縄のアカウミガメ（Cタイプ）の系統関係や日本个体群の保全、オサガメの飼育技術の解明への取組にも期待される。
在来希少種の保全に関する研究	在来希少種を対象とした多様な分類群の保全研究は着実に進展しており、論文発表や行政・関係機関との連携を通じて社会的責任も果たしていると評価できる。海洋博公園という特異な環境を活かした研究は独創性が高く、DNAリスク分散保存や外来種対策も意義が大きい。限られた予算の中で高い成果を挙げており、今後は目標の具体化により評価基準の明確化が期待される。
海洋生物に関する自然史研究	水族館の採集活動および所蔵標本を基盤とした自然史研究は、新種記載や日本初記録、環境DNA研究など多面的な成果を挙げており、水族館研究の中核として高く評価できる。科研費の複数採択からも研究水準の高さがうかがわれる。標本基盤研究および環境DNA研究は将来性が高く、方向性や目標の明確化によりさらなる発展が期待される。
大型板鰐類の繁殖と生理に関する調査研究	ナンヨウマンタに関する新規国際共同研究では、水中エコー技術を活かした繁殖生態の解明が期待される。一方、継続してきた野生ジンベエザメの国際共同研究については、進展や成果の報告が望まれる。今年度は、ゲノム解析や人工子宮技術の発展など、大型板鰐類の生理・生態解明や飼育技術の将来的発展に資する成果が得られており、高く評価できる。全体として、成果の公表・論文文化に積極的に取り組んでおり、今後の継続が期待される。

令和7年度 研究発表実績

令和6年度に当財団職員が発表した動物系の学術論文、書籍、および動物研究室職員による学会等での発表実績を紹介する。本年度は42報の学術論文および4件の書籍を発表した。なお、リスト中の当財団職員の名前は太字 + 下線で示した。

【学術論文】

1. 饗場空璃・**宮本圭**・**芦田裕史**. 2025. 沖縄島近海から得られた日本初記録のハナダイ科魚類 *Sacura parva* タスキサクラダイ (新称) および本種の標徴の再整理. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 59, 18-23.
2. **Asato H**, Toda M. 2025. Precocious maturation and semi-multivoltine lifecycle in a subtropical grass lizard, *Takydromus toyamai*. *Current Zoology*, 71: 184-195.
3. **Asato H**, Toda M. 2025. Spatial distribution pattern of free-ranging Miyako grass lizards (*Takydromus toyamai*) and its causal factors. *Herpetological Conservation and Biology*, 20: 174-186.
4. Bastian C・McGuire B・Stoney P・町田宗久・桑江直洋・山口有紀子・**河津勲**. 2025. 沖縄島における逸失漁網に羅網した死亡アオウミガメの初記録. *うみがめニュースレター*, 113: 6-7.
5. Cheeseman T, Barlow J, Acebes JM, Audley K, Bejder L, Birdsall C,...**Kobayashi N**, Lammers M, Lyman E, ...**Okabe H**,...Clapham P. North Pacific humpback whales display strong site fidelity to feeding grounds despite severe prey shortages from a multi-year marine heatwave. *Royal society Open Science*. In press
6. Fujishima K, **Higashiji T**, Sinniger F, Harii S. 2025. Observations of marine elapid snakes in the mesophotic zone in the Ryukyu Islands, Japan, with the deepest records for three species. *Marine Biology*. In press
7. **福地伊美映**・佐伯智史・畑 晴陵・今井秀行・立原一憲. 2025. 日本から得られたボラ科 *Planiliza cf. subviridis* type A sensu Yoshigou (2022) アンピンボラと *P. cf. subviridis* type B sensu Yoshigou (2022) タキツボメナダ(新称) の分布記録ならびに形態に関する知見. *Ichthy*, 62: 1-16.
8. **福地伊美映**・田中翔太・本田康介・和田英敏. 2026. 相模湾から得られたタイワンメナダ. *神奈川自然誌資料(受理済み)*
9. **Hanahara N**, **Higashiji T**, **Sugimoto H**, **Okamoto J**, **Morota H**, **Soeya R**. 2025. First Japanese records of two commensal gobies, *Lobulogobius omanensis* and *Pleurosicya annandalei* (Teleostei: Gobiidae), collected using remotely operated vehicle. *Species Diversity*, 30(2): 155-163.
10. **Higa S**, **Takahashi S**, **Nakashima E**, **Kurosu Y**, **Ikeshima H**, Yagi R, Adachi N, **Ueda K**, Umeyama H, Yamamoto H, Nakakita Y, Tochigi K, Kagawa T, **Oka S**. 2026. Rehabilitation outcomes following tail-fluke amputation in an Indo-Pacific bottlenose dolphin: a welfare-centered approach. *PlosONE*. In press
11. Hisata K, Nagata T, Kanai M, Sinniger F, **Nagata F**, Suwa M, Yoshioka M, Harii S, **Nonaka M**, Fukami H, Arakaki S, Fujie M, Arakaki N, Zayas Y, Narisoko H, Noda T, Koseki A, Nishitsuji K, Inoue J, Shinzato C, Satoh N. 2025. An eDNA metabarcoding system for detecting scleractinian corals to the generic level along the Japanese coast. *Galaxea, Journal of Coral Reef Studies*, 27: 13-29.
12. 今原幸光・岩瀬文人・**野中正法**. 2025. 日本産八放サンゴ類(花虫亜門八放サンゴ綱)の学名と和名リスト. *Fauna Ryukyuana*, 75: 1-84.
13. 伊藤亘・伊藤真理奈・Bastian C・**河津勲**. 2025. 沖縄島におけるフィブロパピロマに罹患したアオウミガメの初記録. *うみがめニュースレター*, 113: 8-9.
14. Kawaguchi WY, **Matsumoto R**, Kuraku S. 2026. Improved genome assembly of whale shark, the world's biggest fish: revealing intragenomic heterogeneity in molecular evolution. *GigaScience*. In press

15. Kawazu I, Hamabata T, Maeda K, Sasai T, Mizuochi K. First Documented Case of Fertilized Green Turtle Eggs Laid Outside the Breeding Season in Okinawa, Japan. Journal of Japanese Association of Zoos and Aquariums. in press
16. Kawazu I, Suzuki M, Kino M, Maeda K, Maeda K. 2026. Long-term monitoring of swimming and feeding behaviors related to reproductive cycles in captive loggerhead turtles, *Caretta caretta*. Current Herpetology, 45: 106–113.
17. Kent JB, Dawson KW, Fukada S, Makabe M, Kawazu I, Maeda K, Valverde RA. 2026. Biomarkers of foraging and reproduction in captive adult female hawksbill sea turtles (*Eretmochelys imbricata*). Conservation Physiology, 14(1). <https://doi.org/10.1093/conphys/coag003>.
18. Kishida T, Keboushi R, Sasai T, Toda M. 2025. Genomics Reveals Recent Rapid Speciation of Sea Snakes of the Genus *Hydrophis* (Reptilia, Squamata, Elapidae). Ecology and Evolution, 15: e71627.
19. Kobayashi S, Asato H, Nakata K, Nagata J, Watari Y. Foraging of endangered and endemic plant species by a non-native sika deer found in the northern part of Okinawa-jima Island, Japan: Evidence from fecal DNA metabarcoding analysis. Mammal Study. In press
20. Laso-Jadart R, Corrigan SL, Yang L, Lee S-H, Gay EJ, Fedrigo O, Lowe CG, Skomal G, Cliff G, Padilla MH, Huveneers C, Lyons K, Sato K, Glancy J, Lesturgie P, Mona S, Naylor GJP. 2025. A genomic test of sex-biased dispersal in white sharks. Proceedings of the National Academy of Sciences, 122(32): e2507931122.
21. Lendvay B, Cartier LE, Sato A, Krzemnicki MS, Nonaka M, Yasuda N, Takata K, Hayashibara T, Morf NV, Iwasaki N. 2025. Genetic Testing of a High-End ‘Angel Skin’ Precious Coral Necklace Identifies a Species New to the Precious Coral Trade and Potentially New to Science. Diversity, 17: 395.
22. Lendvay B, Morf NV, Cartier LE, Krzemnicki MS, Nonaka M. 2025. Trace DNA from a century-old holotype specimen resolves taxonomic uncertainties: the case of the Hawaiian pink precious coral (*Pleurocorallium secundum*), a CITES-listed species used in jewelry. Coral Reefs, 44: 1211–1225.
23. 真栄田賢・中島愛理・前田好美・河津勲. 2025. タイマイにおける布マスクの誤飲から排泄までの期間. うみがめニュースレター, 113: 10–11.
24. 前田好美・木野将克・笹井隆秀・河津勲. 2025. アカウミガメ幼体の適正初期餌料の検討. 動物園水族館雑誌. 67 (2): 49–56.
25. 三好美音・比嘉克・植草康浩・植田啓一・岡慎一郎. 2026. ミナミバンドウイルカにおける協力的口腔内治療のためのハズバンドリートレーニング. 動物園水族館雑誌. 印刷中
26. Narisoko H, Nagata F, Hisata K, Fujie M, Yoshioka Y, Nonaka M, Satoh N, Nishitsuji K. 2025. Efficiency of Scleractinian Specific eDNA Metabarcoding Using Specimens from Okinawa Churaumi Aquarium, Japan. Zoological Science, 43(2).
27. Nomura L, Uechi T, Kobayashi Y, Miyamoto K, Wada H, Miyazaki Y. Sexual dimorphism and protogeny in two species of *Selenanthias* (Serranidae: Anthiinae) collected from Japanese water. Ichthyological Research. In press
28. Nonaka M, Takata K, Yasuda N. 2025. A new species of the genus *Hemicorallium* (Cnidaria: Octocorallia: Scleractyonacea: Coralliidae) collected from Okinawa Island, Species Diversity, 30: 193–206.
29. Omura A, Oka S, Tomita T, Takano H, Funabara D. 2026. Embryonic development of the paintpot cuttlefish (*Ascarosepion tullbergi*), with emphasis on benthic traits during organogenesis. Journal of the Marine Biological Association of the United Kingdom, 106: e20, 1–14.
30. Oka S. 2026. The largest coconut crab *Birgus latro* recorded from a northernmost reproductive population in Okinawa Island, Japan. Fauna Ryukyuna. in press

31. Osada Y, Miya M, Araki H, Oka S, Kondo M. 2026. Large-scale environmental DNA survey reveals niche axes of a regional coastal fish community. *Scientific Reports*, 16: 3276.
32. Saito T, Miyake K, Sasai T, Kayo M, Maeda K, Fukada S, Makabe M, Kawazu I. 2026. Effect of Diurnal Incubation Temperature Fluctuation on Hatch, Size, and Motility in Green and Loggerhead Turtles. *Current Herpetology*, 45: 87–99.
33. Shimizu M, Nagata F, Yamashiki Y. 2025. Establishing an Oceanic Environment in Space: A “Core-Biome” for Isolated Ecosystems. *International Conference on Environmental Systems (ICES 2025)*.
34. 笹井隆秀・山崎啓・真栄田賢・水落夏帆・木野将克・河津勲. 2025. 沖縄島近海のクロウミガメ *Chelonia agassizii* における人工物の摂食状況. *うみがめニュースレター*, 113: 1–5.
35. Takata K, Hayashibara T, Yasuda N, Nonaka M. 2025. Micro-CT observation of the final developmental stages of oocytes in white precious coral *Pleurocorallium konojoi*, *Galaxea*, *Journal of Coral Reef Studies*, 27: 154–157.
36. Tokunaga S, Chiang W-C, Nakamura I, Matsumoto R, Watanabe YY. 2025. Enhanced thermoregulation abilities of shortfin mako sharks as the key adaptive significance of regional endothermy in fishes. *Journal of Animal Ecology*, 94: 2178–2189.
37. Tomita T, Takaoka H, Hanahara N. 2025. Urea water bath: A novel treatment for monogenean parasite infections in hagfish (Agnatha: Myxiniformes: Myxinidae). *MethodsX*, 15: 103518.
38. Toshino S, Tanimoto M. 2025. First Japanese record of *Versuriga anadyomene* (Scyphozoa: Rhizostomeae) from the Ryukyu Archipelago, *Biogeography*, 27: 86–92.
39. Ushio M, Ozawa S, Oka S, Sado T, KIsERO RO, Porter L, Matrai E, Miya M. 2025. μ Ceta: A Set of Cetacean - Specific Primers for Environmental DNA Metabarcoding With Minimal Amplification of Non - Target Vertebrates. *Environmental DNA*, 7(5): e70193.
40. Wu Q, Nakano T, Isida S, Komai T, Fujiwara Y, Yoshida T, Kawato M, Oka S, Fujikawa K, Miya M, Minamoto T. 2025. Development of universal PCR primers for the environmental DNA metabarcoding of cephalopod (Mollusca) diversity. *Marine Environmental Research*, 208: 107094.
41. Yamamoto H, Sasaki A, Kanna T, Mitsunaga Y, Torisawa S. 2025. Estimating Whale Shark, *Rhincodon typus*, Length Using Multi-Stereo-Image Measurement. *Fishes*, 10: 513.
42. 山里周・笹井隆秀・平野和己・徳武浩司. 2025. 飼育下ヨナグニスバトカゲの産卵特性および幼体成長の記載. *Akamata*, (34): 9–13.

【書籍】

1. 東地拓生 (分担執筆). 2025. 動物の行動と心の辞典. 朝倉書店, 東京.
2. Kawaguchi M, Iida A, Sato K. 2026. Pregnancy and Parturition: Teleost Fishes and Elasmobranchs, pp. 566–573. In: Skinner MK (ed) *Encyclopedia of Reproduction*, 3e, vol. 6. Academic Press, Elsevier.
3. 富田武照・佐藤圭一. 2025. 知られざるサメの世界 海の覇者、その生態と進化. 講談社, 東京.
4. 横山季代子 (分担執筆). 2025. 動物園教育で子どもたちと対話しよう! 持続可能性に向けたプログラムのデザインと評価. 学校図書, 東京.

【学会発表】

(※：筆頭演者)

1. 第19回日本刺胞・有櫛動物研究談話会 (5月21～22日)
 - ・オオツクシクラゲの採集と飼育の試み
飼育が困難なオオツクシクラゲについて、採集から飼育展示までの試みを報告した。
※**谷本都・金子篤史**
2. 第100回日本結核・非結核性抗酸菌症学会学術講演会 (6月5～7日)
 - ・治療に難渋したオキゴンドウの母仔における非結核性抗酸菌症
オキゴンドウの母仔において発生した非結核性抗酸菌症の診断、治療、経過について細菌学および病理学的検査結果を交えて報告した。
※**中島愛理・金城武士・鍋谷大二郎・新垣若子・山本和子・植田啓一**
3. 日本動物分類学会 第60回大会 (6月7～8日)
 - ・水産資源種を含むサンゴ科 (Octocorallia: Scleractinia) 3属は ISSR 領域を用いた縮約ゲノム解析で種判別できるのか
サンゴ科のうち硬い骨軸を持つ3属について、ゲノムワイドに核 ISSR 領域を抽出する、MIGseq 法を用いて、遺伝的な種の境界が形態学的情報に基づく結果と一致するか検証した。
高田健司・野中正法・安田仁奈
4. Indo-Pacific Fish Conference (IPFC) 12th (6月9～13日)
 - ・Development of an Artificial Uterus System for Long-Term Incubation of Viviparous Deep-Sea Sharks
胎生サメ胚を長期育成する人工子宮を開発し、深海性のヒレタカフジクジラ胚を最大1年間維持した手法を発表した。
※**金子篤史・富田武輝・戸田実・村雲清美・佐藤圭一**
5. 第27回西日本動物園水族館両生爬虫類会議 (6月10～11日)
 - ・両生類爬虫類展示エリアのリニューアルオープンと天然素材を用いたクワイフトカゲモドキ展示作製の紹介
2025年4月より、水族館出口周辺の「琉球弧の水辺エリア」において、両生類爬虫類展示をリニューアルオープンした。その内容紹介と、特にクワイフトカゲモドキの天然素材を用いたレイアウト作製の手法について紹介した。
※**平野和己・山里周・笹井隆秀**
6. Indo-Pacific Fish Conference (IPFC) 12th Satellite Symposium in Okinawa (6月15日)
 - ・Can acoustic telemetry be used inside mangrove habitats?
マングローブ湾内で音響テレメトリーが使用できるかを検証し、その受信範囲を調べ、さらに板鰐類に発信機を取り付けた事例を紹介した。
※**Kanno S, Heupel M, Simpfendorfer C**
7. Bringing Colors to the Blue World :Visual Adaptation of Deep-sea Fishes
 - ・トワイライズゾーンに生息する魚類がもつ色彩の機能について紹介した。
※**Miyamoto K**
8. Australian Society of Herpetologists (6月17～20日)
 - ・Fine-scale diving behavior of the ornate reef sea snake (*Hydrophis ornatus*) in Okinawa, Japan
沖縄島周辺で深度ロガーを用いてクロボシウミヘビの潜水行動を記録し、最大潜水深度、潜水時間などを確認した。
Fujishima K, **Sasai T**, Nishizawa H, Mori A
9. 日本哺乳類学会 2025年度 (札幌) 大会 (8月22～25日)
 - ・ホエールウォッチング・スイムツアーによるザトウクジラへの短期的影響評価
沖縄でのホエールウォッチングおよびホエールスイムはザトウクジラの行動に有意な変化をもたらし、特にスイム中は潜水時間と呼吸回数が増加し終了後も影響が持続、船の接近で変化が増大することを示唆した。
小林希実・Stack S・尾澤幸恵・岡部晴菜
10. 伊豆諸島御蔵島と沖縄諸島奄美群島のミナミハンドウイルカにおける腹部斑点模様の出現に関する個体群間差異
ミナミハンドウイルカの腹部斑点の出現様式を奄美群島由来個体と御蔵島個体群で比較した結果、若齢個体で分布範囲や密度に差が認められ、個体群間差異が確認された。斑点による年齢推定の汎用化には検討が必要。
八木原風・青木拓哉・小笠原樹・比嘉克・小林希実

11. 2025 年日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会 (9 月 9 ~ 12 日)

- ・トワイライトゾーンの八放サンゴ群集のモニタリング手法として環境 DNA は有効か種判別できるのか
琉球列島から九州沖合の水深 100-300m の 27 地点から海水を採取し、検出された遺伝子配列を参照したところ、全体として 79 の ASV を検出した。その中で目視での分類が容易な宝石サンゴを含む 2 属に注目した結果、ROV の映像と eDNA の在不在の結果が一致した。

※高田健司・林原毅・野中正法・長井敏・目崎拓真・古井戸樹・西島美由紀・井口亮・安田仁奈

12. 一般社団法人日本動物看護学会第 34 回大会 (9 月 13 ~ 14 日)

- ・沖縄美ら海水族館における動物看護師の役割と傷病個体の能力評価について
沖縄美ら海水族館では展示生物の健康管理に加え保護活動も行っており、治療が終了した右前肢欠損ヒメウミガメの放流に向けたバイオリングを用いた遊泳能力の評価を実施。治療分野以外でも愛玩動物看護師の活躍の場があることを示唆した。

※高橋沙矢香

13. 第 64 回日本両生類爬虫類学会台北大会 (9 月 21 ~ 22 日)

- ・沖縄島周辺海域より得られたヒメウミガメの分子系統地理学的検討
非産卵地である沖縄近海に來遊したヒメウミガメ 14 個体の由来を、mtDNA D-loop 領域 400bp を解析することで調べた。その結果、大西洋を除く様々な海域由来のヒメウミガメが來遊していることが判明した。

※平野和己・宮本圭・花原望・河津勲

14. ・琉球におけるミヤコトカゲの分布、出現環境、利用微環境について

宮古島沿岸 69 地点でミヤコトカゲの分布調査を行った結果、転石が多い南岸や礁池内岩礁に多く出現し、干潮時には潮間帯を利用することが明らかになった。

戸田守・笹井隆秀・安里瞳・山本拓海

15. ・沖縄美ら海水族館におけるミヤコトカゲの域外保全

沖縄美ら海水族館でミヤコトカゲ 3 ペアを飼育し、繁殖記録を収集した。飼育下での産卵時期や産卵間隔、孵化日数など、本種の繁殖生態に関する基礎的知見を得た。

※笹井隆秀・山里周・平野和己

16. ・ミヤコカナヘビの密度依存的な生活史特性と保全への示唆

生息密度の異なる生息地間で繁殖や生存に関わる生活史パラメータを比較した結果、複数の生活史パラメータにおいて、高密度でより高い値が示され、この密度依存的な特性が本種の個体群維持に影響している可能性が示された。

※安里瞳・高橋洋生・三村昌史・戸田光彦・戸田守

17. ・絶滅危惧種ミヤコカナヘビのハビタット要件の探索

ミヤコカナヘビの好適ハビタット要件を、植生の状態、昆虫等の量、湿度について検討した結果、より湿度を高く保たれることが重要であることが明らかになった。

高橋洋生・三村昌史・寺田剛・安里瞳・戸田守

18. ・クロボシウミヘビ (*Hydrophis ornatus*) の潜水パターンおよび環境要因との関係

沖縄島周辺でクロボシウミヘビ 3 個体の潜水行動を長期記録した結果、最大潜水深度 129 m、潜水時間 5.4 時間を記録し、昼夜で異なる潜水パターンが明らかになった。

藤島幹汰・笹井隆秀・西澤秀明・森哲

19. 第 31 回日本野生動物医学会大会 (9 月 26 ~ 27 日)

- ・バンドウイルカおよびミナミバンドウイルカにおける凍結精液保存
既製品の精液保存液と作成した精液保存液を用いて凍結保存したバンドウイルカおよびミナミバンドウイルカの凍結解凍前後の精液性状について報告した。

※中島愛理・小俣万里子・植田啓一

20. ・バンドウイルカ (*Trusiops truncatus*) の門脈シャントの一例

生後 65 日齢で死亡したバンドウイルカについて、死後剖検と CT 画像診断検査により腸捻転などの機械的閉塞が確認されたことに加えて、血液肝機能マーカー上昇と門脈体循環シャントとの関連が示唆された症例として報告した。

山本桂子・木嶋祥子・川口博明・植田啓一

21. 第 20 回日本バイオログング研究会シンポジウム (10 月 11 ~ 13 日)

- ・野外におけるホシザメの心拍数測定を試み

深海性小型サメ・ホシザメにタグを装着し野外で心拍数を計測した結果、水温変化に伴い心拍数が変動し、鉛直移動による代謝変化を推定できる可能性が示された。

※内盛真音李・高岡博子・諸田大海・村雲清美・松本瑠偉・中村乙水

22. 北太平洋海洋科学機関 (PICES) 2025 年次会合 (11 月 8 ~ 16 日)

- ・Evaluating the effectiveness of eDNA for assessing the diversity of octocoral communities in the twilight zone, including fisheries-important species.

琉球諸島と九州沖合の 27 か所の底層水サンプルから 79 のアンプリコン配列変異が特定された。視覚的に識別可能な 2 属については、eDNA の有無が 19 か所の *Corallium* および 22 か所の *Pleurocorallium* の ROV 調査と一致した。

※ Takata K, Hayashibara T, **Nonaka M**, Nagai S, Mezaki T, Koido T, Iguchi A, Yasuda N

23. 第 35 回日本動物園水族館両生類爬虫類会議 (11 月 12 ~ 13 日)

- ・沖縄島周辺海域より得られたヒメウミガメの分子系統地理学的検討

非産卵地である沖縄近海に來遊したヒメウミガメ 14 個体の由来を、mtDNA D-loop 領域 400bp を解析することで調べた。その結果、大西洋を除く様々な海域由来のヒメウミガメが來遊していることが判明した。

※平野和己・宮本圭・花原望・河津勲

24. 33rd SEAZA Conference (11 月 15 ~ 19 日)

- ・A New JAZA Research Grant Program to Promote Integrated In-Situ and Ex-Situ Conservation Efforts

JAZA が三菱 UFJ フィナンシャルグループの助成により創設した生物多様性保全研究に関する研究助成制度について紹介した。

※ **Sato K**

25. 日本 DNA 多型学会 2025 年度大会 (第 34 回学術集会) (11 月 20 ~ 21 日)

- ・野生下鯨類からの噴気由来 DNA 獲得を目指したスワブの検討

野生ザトウクジラの噴気を FLOQSwabs で採取し、7 回中 2 検体で mtDNA 配列を検出、個体 R-81 由来 DNA 取得に成功し野外適用性が示唆された。

北夕紀・岡部晴菜・尾澤幸恵・小林希実

26. 第 51 回海獣技術者研究会 (11 月 21 日)

- ・飼育下鯨類における福祉状態の客観的評価手法の開発

水族館で飼育する鯨類の状態を動物福祉としての観点からスコア化、視覚化して客観評価する仕組みを紹介した。

安達二尋・岡慎一郎・比嘉克・中島愛理

27. 2025 年度日本魚類学会年会シンポジウム (11 月 21 日)

- ・生物多様性研究から地域の持続的振興まで：沖縄美ら海水族館の多面的アプローチ

生国立沖縄自然史博物館の設立の必要性和課題について、過去の事例を参考に解説を行った。

※佐藤圭一

28. 日本水産増殖学会 第 23 回大会 (11 月 21 ~ 22 日)

- ・グルクマ *Rastrelliger kanagurta* の飼育下繁殖と人工授精の試み

屋外の角型水槽で飼育していたグルクマの自然産卵と、得られた仔魚の育成について報告した。また、成熟卵巣を用いた HCG 刺激による排卵誘導と人工授精の試みについても報告した。

※田中優・金澤正悟・越後楓・鈴木聡・漢那朝樹・高村洸介・中村将

29. 沖縄で水揚げされたアカマンボウ *Lampris megalopsis* の成熟について

沖縄で水揚げされたアカマンボウ 136 個体について、外部形態・生殖腺の収集・観察を行い、繁殖期・成熟サイズ・性的二型について報告した。

※松崎章平・野津了・宮本圭・富田武照・金澤正悟・漢那朝樹・中村将

30. 2025 年度日本魚類学会年会 (11 月 21 ~ 24 日)

- ・日本初記録となる *Odontanthias chrysostictus* を含む日本産イッテンサクラダイ属魚類における体色の蛍光様式
- 日本産イッテンサクラダイ属魚類における体色の蛍光様式と水深との関係について報告した。

黒柳匡・岡隼斗・饗場空璃・松尾怜・野村玲偉・林ひより・宮本圭・宮崎佑介

31. 日本動物行動学会第 44 回大会 (11 月 22 日)

- ・フグの破碎摂餌を支える強靱な咬合力

フグ類の咬合力を総合的に比較し、その形態や機能と実際の咬合力との関係を主横断的に考察。

荻本啓介・久志本鉄平・岡慎一郎

32. 第 36 回日本ウミガメ会議 (11 月 28 ~ 30 日)

- ・沖縄島周辺のウミガメ類消化管から検出された微細人工物の材質・形状および色の分析

沖縄周辺のウミガメ類の消化管内人工物を解析し、繊維状人工物が中心で、セロファンやポリエチレンが多く検出されることを示した。

荻野寧々・真栄田賢・水落夏帆・前田好美・笹井隆秀・河津勲

33. ・沖縄美ら海水族館におけるウミガメ類の緊急保護および診療の現状

沖縄美ら海水族館に搬入されたウミガメ類 112 個体の治療成績を解析し、回復率は 46.4% で、死亡は搬入後 10 日以内に集中することを示した。

※千原周・植田啓一・小俣万里子・中島愛理・真栄田賢・水落夏帆・荻野寧々・芦田耀・河津勲

34. ・沖縄島における繁殖期外に産卵されたアオウミガメ受精卵の初確認

沖縄本島で繁殖期外に産卵されたアオウミガメ卵を人工孵化し、日本で初めて受精卵の孵化を確認するとともに、mtDNA 解析からミクロネシア周辺海域由来の可能性を示した。

河津勲・浜端朋子・真栄田賢・笹井隆秀・水落夏帆

35. ・南西諸島に生息するアオウミガメの年齢構成の推定

南西諸島で死亡漂着したアオウミガメの上腕骨を組織学的に解析し、年齢構成と若齢個体の成長特性を明らかにした。

奥山隼一・吉田奈緒・塚越佳充・水落夏帆・河津勲

36. ・アカウミガメおよびアオウミガメにおける孵卵温度の日内変動が胚発生に及ぼす影響

アカウミガメとアオウミガメで孵卵温度の日内変動の影響を比較し、孵化率や形態への影響に種差があることを示した。

松田日那・河津勲・真栄田賢・笹井隆秀・水落夏帆・荻野寧々・平野和己・芦田耀・千原周・山里周・嘉陽宗幸・瀬慶治・斉藤知己

37. 日本サンゴ礁学会第 28 回大会 (11 月 28 日 ~ 12 月 1 日)

- ・短期的な水温変動刺激によるサンゴ放卵日の制御

照明周期・水温管理に加え短期的な水温刺激で、*Acropora microphthalma* の指定タイミング放卵を非侵襲的に誘導できることを確認、ポスター発表した。

※永田史彦・藤巻翔・木野紗由莉・野中正法

38. ・東南極リュツォ・ホルム湾における八放サンゴ類の種多様性と分布

第 65 次南極地域観測隊がリュツォ・ホルム湾において採集した八放サンゴ試料 35 群体を用い、オオキンヤギ科ホソウミヒバ属 8 種とジュズヤギ属 1 種、Mopseidae 科 *Primnois* 属 2 種、所属科不明の *Bayergorgia* 属とみられる 1 種を記録した。

※高橋拓暉・徳田悠希・野中正法・自見直人・岩谷北斗・松井浩紀・柴田大輔・石輪健樹・菅沼悠介・山縣広和・巻俊宏・板木拓也

39. 日本動物園水族館協会第 24 回種保存会議 (12 月 5 ~ 7 日)

- ・クロウミウマの繁殖

IUCN レッドリストにおいて危急種に分類されているクロウミウマについて、水族館での繁殖状況や育成の課題等について報告した。

※東地拓生・田中直美

40. 板鰓類シンポジウム 2025 (12 月 7 日)

- ・バイオロギングを用いた飼育下ジンベエザメのエネルギー収支の推定

バイオロギングにより取得した飼育下のジンベエザメの行動データを基に、エネルギー収支の推定を行い、その結果について報告した。

※漢那朝樹・高橋沙矢香・ヒョンウンドク・山城篤・松本瑠偉・鳥澤真介・光永靖

41. 第 11 回水族館シンポジウム「水生生物研究機関としての水族館。その将来像を探る。」 (12 月 15 日)

- ・基調講演 沖縄のソフトパワーをめざす — 沖縄美ら海水族館の研究がもたらしたパラダイムシフト
水族館における調査研究のあり方およびその他の活動との関連性について論じた。

※佐藤圭一

42. 令和 7 年度沖縄県博物館協会秋の研修会 (1 月 22 日)

- ・水族館の新たなパラダイム：科学研究を通じた持続可能な地域社会の創出をめざして
博物館としての水族館における調査研究のあり方およびその他の活動との関連性について論じた。

※佐藤圭一

43. 沖縄美ら海水族館におけるデジタルアーカイブの構築について

- ・沖縄美ら海水族館の博物館機能の強化と業務効率化を目的に構築を開始したデジタルアーカイブについて、現状と今後の課題等について紹介した。

※前田好美

44. すべての人に開かれた水族館教育：研究成果と学習機会の社会的共有モデル

- ・沖縄美ら海水族館における教育普及活動の一環として、当館独自の取り組みである触察プログラムおよび遠隔授業について、その概要とこれまでの成果を紹介した。

※横山季代子

45. 第 73 回動物園技術者研究会 (2 月 3 ~ 5 日)

- ・教育普及プログラム「遠隔授業」の取り組みについて
遠隔授業の取り組みについて、その開発の背景や目的、実施方法を含めた概要と、これまでの実施実績や利用者からの評価、教育的効果などの成果について紹介した。

※横山季代子・佐藤圭一

46. 令和 7 年度九州沖縄ブロック飼育技術者研究会 (2 月 9 ~ 10 日)

- ・沖縄美ら海水族館におけるバックヤードツアーの体験価値と推奨意向の評価
沖縄美ら海水族館におけるバックヤードツアーにて実施したアンケート結果を発表した。

※村田香

47. 2026 年ネットワーク科学研究会 (2 月 17 ~ 19 日)

- ・繁殖海域・沖縄に来遊するザトウクジラのネットワーク解析
2014 ~ 2023 年に沖縄周辺で観測されたザトウクジラ 1143 頭の共観測データから社会ネットワークを構築し、繁殖海域での個体関係を解析した。オスはメスより次数・強度・媒介中心性が有意に高く、特定のオス同士の関係性や雌雄で異なる繁殖戦略の反映が示唆された。

毛防子璃奈・小林希実・岡部晴菜・尾澤幸恵・島田尚

48. 2025 年度第 7 回動物園水族館大学シンポジウム (2 月 22 ~ 23 日)

- ・沖縄美ら海水族館におけるウミガメ類の緊急保護および野生復帰
沖縄美ら海水族館の治療および人工孵化技術によるウミガメ類の野生復帰事例を紹介した。

※河津勲

49. 日本産トカゲモドキ属の生息域外保全に向けた沖縄美ら海水族館の取り組み

- ・2025 年における当館の取り組みで、クロイトカゲモドキの野外調査において過去に放野した 2 個体の生存を確認した。また初の F2 個体が誕生した。以上の成果から、飼育下のクロイトカゲモドキが野外で生存できることと、累代繁殖ができることが示された。

※平野和己・徳武浩司・山崎啓・笹井隆秀・山里周

50. ハタゴイソギンチャクの飼育下繁殖及び、野生復帰

- ・ハタゴイソギンチャクの飼育下繁殖と、野生復帰に向けた取り組みについて紹介した。

※和仁屋樹・鈴村真由・谷本都・小俣万里子・中島愛理・村雲清美・松崎章平・東地拓生

51. 第 36 回生物試料分析科学会年次学術集会 (2 月 17 ~ 19 日)

- ・進化医学の視点から考える新しい医療：ワクチンの開発・ヌタウナギ科心臓と血検系の解析
進化医学の研究の一環として、循環器系・呼吸器系疾患の理解を目的としたヌタウナギ科動物の心臓および血管系の構造解析について報告した。

西口慶一・赤坂華和・渡邊大高・宇井麻伶亜・小沼夕月・川名秀知・新垣知輝・神谷貞浩・芝清隆・伊藤正紀・富田武照・金子篤史・植田啓一・佐藤圭一・渭原博・木内幸子・五郎丸(新海)美智子・黒田潤

52. 令和 8 年度日本魚病学会春季大会 (3 月 7 ~ 8 日)

- ・不動態抗原 (iAg) の配列解析から推測される 海産白点虫 *Cryptocaryon irritans* の血清型多様性
海産白点虫の iAg 遺伝子取得法を開発し全国 32 株を解析。白点虫 iAg は血清型多様性が高く汎用ワクチンは困難だが、血清型が限定される環境 (水族館等) の水槽単位でのワクチン戦略に可能性が示唆された。
※岩附利英・吉井啓亮・原川翔伍・小池博希・木野紗由莉・高岡博子・野中太緒・谷保文野・井分達郎・竹内久登・今城雅之・本領智記・Amal B・白樫正・北村真一・伊藤直樹・渡邊勇歩

53. 海と地球のシンポジウム 2025 (3 月 10 ~ 11 日)

- ・南海トラフおよび小笠原諸島深海域における生物多様性調査 Ocean Census “Shinkai” 航海
2025 年 6 月に、南海トラフと小笠原諸島海域の七曜海山列の 2 海域を調査を実施した。この海域ではこれまでに 14 種の生物が報告されていたが、今回の調査で同調査点を再調査したところ、少なくとも 70 種の生物の分布を確認することができた。
※渡部裕美・矢吹彬憲・波々伯部夏美・Chen C・荻田善之・自見直人・白木祥貴・Fleming J・岡西政典・伊勢優史・小林格・櫛田優花・Reimer J・野中正法・岡慶斗・佐藤萌衣・長岡毅朗・Downey R・Nye V・Areas B・Satchel P・Hogan J・Taylor M

54. 令和 8 年度日本水産学会春季大会 (3 月 26 ~ 29 日)

- ・イルカ腎臓の糖再吸収能
イルカが糖質に乏しい餌環境に適応するため、腎臓でのグルコース再吸収能を高めて糖恒常性を維持していることについて報告した。
浅井天音・小俣万里子・比嘉克・植田啓一・前田ひかり・金治佑・鈴木美和

IV 業務報告

(2) 教育普及活動

職場体験学習

目的

総合学習の一環として広く取り入れられている「職場体験学習」は、県内においても一般企業の協力の下で実施されている。当財団もこの趣旨に賛同し、県内の主に小学生、中学生、高校生を対象に受け入れを行う。

概要

- ・小学校 11 校 27 名、中学校 7 校 26 名、計 18 校 53 名の職場体験及びジョブシャドウを実施した。教育普及担当者が生徒の指導を行った。名護市内でのジョブシャドウの件数が増えたことから、全体の件数が増加した。

	実施日	学校名	学年	人数
1	令和7年5月21日	名護市立真喜屋小学校 (※)	6	6
2	令和7年6月4日	名護市立久辺小学校 (※)	6	3
3	令和7年6月5日	名護市立屋部小学校 (※)	6	3
4	令和7年6月6日	名護市立安和小学校 (※)	6	3
5	令和7年6月10日・11日	伊平屋村立伊平屋中学校	2	2
6	令和7年6月12日	名護市立名護小学校 (※)	6	3
7	令和7年6月20日	名護市立屋我地ひるぎ学園 (※)	6	2
8	令和7年6月27日	名護市立大北小学校 (※)	6	3
9	令和7年7月4日	名護市立緑風学園 (久志小学校) (※)	6	2
10	令和7年7月11日	本部町立伊豆味小学校 (※)	5・6	3
11	令和7年9月26日	名護市立瀬喜田小学校 (※)	6	1
12	令和7年10月28日・29日	名護市立久辺中学校	2	4
13	令和7年11月11日・12日	名護市立大宮中学校	2	6
14	令和7年11月26日・27日	名護市立名護中学校	1	6
15	令和7年12月9日・10日	今帰仁村立今帰仁中学校	2	1
16	令和8年1月20日	名護市立大宮小学校 (※)	6	3
17	令和8年1月27日・28日	名護市立屋部中学校	1	4
18	令和8年2月4日・5日	名護市立緑風学園 (久志中学校)	1	3

(※) ジョブシャドウ実施

水族館飼育実習

目的

自然科学系専攻の主として大学生及び専門学校生を対象とした飼育実習を通し、実践的教育活動を提供する。

概要

- ・魚類課および海獣課にて専門学校生 21 名、大学生 22 名の計 43 名の飼育実習を受け入れ、7 日間の現場対応を行った。

	実施日	学校名	学年
1	令和7年4月2日～4月8日	TCA 東京 ECO 動物海洋専門学校	2
2	令和7年4月9日～4月15日	専門学校福岡ビジョナリーアーツ	2
3	令和7年4月16日～4月22日	専門学校福岡ビジョナリーアーツ	2
4	令和7年4月23日～4月29日	TCA 東京 ECO 動物海洋専門学校	2
5	令和7年5月7日～5月13日	福岡ECO 動物海洋専門学校	2
6	令和7年5月14日～5月20日	アジア動物専門学校	2
7	令和7年5月21日～5月27日	島根大学	3
8	令和7年5月28日～6月3日	埼玉動物海洋専門学校	2
9	令和7年6月4日～6月10日	大阪ECO 動物海洋専門学校	2
10	令和7年6月11日～6月17日	大阪ECO 動物海洋専門学校	2
11	令和7年6月19日～6月23日	岡山理科大学	5
12	令和7年6月25日～7月1日	沖縄ペットワールド専門学校	2
13	令和7年7月2日～7月8日	名古屋ECO 動物海洋専門学校	2
14	令和7年7月9日～7月15日	大阪ECO 動物海洋専門学校	2
15	令和7年7月16日～7月22日	岡山理科大学	5
16	令和7年7月23日～7月29日	大阪ECO 動物海洋専門学校	2
17	令和7年7月30日～8月5日	沖縄ペットワールド専門学校	2
18	令和7年8月6日～8月12日	東海大学	3
19	令和7年8月27日～9月2日	酪農学園大学	4
20	令和7年9月3日～9月9日	長崎大学	3
21	令和7年9月10日～9月16日	長浜バイオ大学	3
22	令和7年9月17日～9月23日	沖縄ペットワールド専門学校	2
23	令和7年9月24日～9月28日	長崎大学	3
24	令和7年10月1日～10月7日	沖縄ペットワールド専門学校	2
25	令和7年10月8日～10月14日	沖縄ペットワールド専門学校	2
26	令和7年10月15日～10月21日	沖縄ペットワールド専門学校	2
27	令和7年10月29日～11月4日	東海大学	3
28	令和7年11月5日～11月11日	専門学校福岡ビジョナリーアーツ	2
29	令和7年11月12日～11月18日	兵庫県立大学	2
30	令和7年11月26日～12月2日	日本大学	3
31	令和7年12月3日～12月9日	日本大学	3
32	令和7年12月10日～12月16日	仙台ECO 動物海洋専門学校	2
33	令和8年1月7日～1月13日	北海道大学院	修1
34	令和8年1月14日～1月20日	福井大学	2
35	令和8年1月21日～1月27日	TCA 東京 ECO 動物海洋専門学校	2
36	令和8年1月28日～2月3日	日本大学	3
37	令和8年2月4日～2月10日	東海大学	2
38	令和8年2月11日～2月17日	東京海洋大学	2
39	令和8年2月28日～3月3日	東海大学	3
40	令和8年3月4日～3月10日	日本大学	3
41	令和8年3月11日～3月17日	北海道大学	2
42	令和8年3月18日～3月24日	日本大学	3
43	令和8年3月25日～3月31日	北里大学	3

水族館博物館実習

目的

博物館法施行規則第1条に定める「博物館実習」の単位を当公園で習得しようとする学生を受け入れる。

概要

- ・自然科学系専攻の学生を対象とし、8名の大学生を受け入れた。実習は幅広い知識及び技術を習得のために、沖縄美ら海水族館、イルカ周辺施設、熱帯・亜熱帯都市緑化植物園、熱帯ドリームセンター、総合研究センターにて実施した。
- ・実施期間：第1回（夏期）令和7年8月20日-8月27日 8日間（休日1日を含む）
第2回（秋期）令和7年11月19日-11月26日 8日間（休日1日を含む）
- ・夏期秋期とも各期間中、魚類課は4日間、海獣課は1日の日程で現場対応をおこなった。

	実施日	学校名	学年	人数
1	第1回（夏期） 令和7年8月20日～8月27日	東京農業大学	4	1
2		日本大学	4	1
3		中部大学	4	1
4		近畿大学	4	1
5		鹿児島大学	4	1
6	第2回（秋期） 令和7年11月19日～11月26日	東京海洋大学	4	1
7		東京農業大学	4	1
8		高知大学	4	1

その他教育普及活動

目的

海洋環境についての学習意欲は昨今非常に高くなっており、県内外の児童生徒から一般の方々にいたるまで、多様な教育普及活動の依頼がある。これに応えるべく、インタビュー対応、バックヤード見学対応などを行い、普及啓発に努める。

概要

- 1.インタビュー学習：小学校2校2名、中学校3校16名、高等学校9校24名、大学5校7名、計19件49名の実施
- 2.講師派遣：幼稚園1件10名、小学校13校807名、中学校6校264名、高等学校7校329名、専門学校5件150名、大学2校450名、その他関連団体13件1,054名、計47件3,064名の実施
- 3.バックヤード：幼稚園1園22名、小学校16校326名、中学校7校174名、高等学校29校897名、大学5校131名、専門学校8校176名、特別支援学校5校113名、学童2施設81名、その他関連団体7件160名、合計80件2,080名の実施
- 4.生きもの観察プログラム：小学校1件200名、その他関連団体4件655名、計5件855名の実施
- 5.オンライン講座：小学校7校205名、中学校1校40名、高等学校2校202名、専門学校3校210名、その他7件346名、計20件1,003名の実施
- 6.紙芝居読み聞かせ：保育園2件121名、幼稚園2件68名、小学校5件154名、その他3件49名の実施
- 7.映像貸出：病院3件、計3件の実施



実施の様子（バックヤード見学）

視覚特別支援学校に対する教育普及活動「触察プログラム」

目的

視覚障害者対応を充実させるため、視覚特別支援学校や当館に来館する視覚障害者を対象に、プラスチック標本など当館所蔵の標本を活用した触察プログラムを提供する。

概要

1. 水族館において触察を実施した。

豊中市立第二中学校

5月29日 2名

筑波大学附属視覚特別支援学校

11月26日 24名

計2件 26名

2. 視覚特別支援学校において出張授業を実施した。

兵庫県立視覚特別支援学校 科学ヘジャンプ・イン・兵庫 2025

8月22日 8名

広島県立広島中央特別支援学校 科学ヘジャンプ・イン・広島 2025

11月23日 7名

筑波大学附属視覚特別支援学校 科学ヘジャンプ・イン・東京 2025

11月30日 9名

計3件 24名

3. 触察用標本の貸出を実施した。

認定こども園 遺愛旭岡幼稚園

10月15日

計1件



実施の様子

病院および特別支援学校に対する教育普及活動「遠隔授業」

目的

外部との接触が困難な子どもを対象に、ライブ配信による「遠隔授業」を実施した。入院中の子どもや特別支援学校の児童・生徒等を対象とし、学びや外部との交流機会の提供を目的とした。ジンベエザメ・深海生物・サンゴ礁の生き物・イルカ・ウミガメ・マナティーの6つのテーマで授業を行った。

概要

1. 病院向けに遠隔授業を実施した。

計 56 件 1,248 名

2. 特別支援学校（院内学級含む）向けに遠隔授業を実施した。

計 14 件 412 名

3. 国外（カンボジア・ウズベキスタン）の病院・小学校等向けに遠隔授業を実施した。

計 13 件 270 名



実施の様子（テーマ：イルカ）

ふれあい水族館・美ら海移動水族館

目的

沖縄県内の医療機関・福祉施設（老人福祉関係等）を対象に、レクリエーション・普及啓発及び水族館の広報を目的とした活魚運搬車輛（以下「活魚車」）展示を「ふれあい水族館」として無償にて行う。また、地域連携および収益事業の一環として、希望する沖縄県内各施設（離島を含む）において、活魚車を使用した「移動水族館」で生体展示を有償で実施し、財団の知財等を利用した海洋生物についての正しい知識の普及啓発を行う。あわせて、県民の利用促進と、水族館における保全活動などへの協力や理解の促進を図る。

事業内容および結果

- ・① 活魚車水槽での魚類展示
- ・② その他（ぬりえ、シール等配布）
- ・ふれあい水族館は5件実施した。

また、美ら海移動水族館を12件実施し、両プログラムを合わせた参加総数は12,918人となった。

ふれあい水族館

	実施日	施設名	参加人数
1	令和7年5月19日	琉和の森	82
2	令和7年5月20日	百穂苑	190
3	令和7年7月15日	桜野特別支援学校	71
4	令和7年7月16日	アワセ第一デイサービス	122
5	令和7年9月16日	琉球の街真嘉比	72

美ら海移動水族館

	実施日	施設名	参加人数
1	令和7年6月15日	株式会社メイクマン	525
2	令和7年9月27・28日	一般財団法人沖縄美ら島財団	1,991
3	令和7年10月18日	公益社団法人沖縄県トラック協会	736
4	令和7年11月1日	一般社団法人iitoco	215
5	令和7年11月3日	一般財団法人沖縄美ら島財団	1,264
6	令和7年11月30日	一般財団法人沖縄美ら島財団	574
7	令和7年12月6日	うるま市環境政策課	1,046
8	令和7年12月7日	沖縄市生涯学習課	1,186
9	令和7年12月14日	JAおきなわ豊見城支店	1,398
10	令和8年1月17・18日	一般社団法人北谷町観光協会	2,353
11	令和8年2月8日	北谷町教育委員会	877
12	令和8年3月24日	社会福祉法人まつみ福祉会 さくらキッズ3号館	216



ふれあい水族館



美ら海移動水族館

地域学校教育への環境学習

目的

地域の学校を対象に水族館施設を利用した学習プログラムを提案・実施し、県内の学校教育における環境学習・体験学習機会や内容の充実を図る。併せて、水族館の活動や調査研究成果などの周知を図る。

概要

・学校や教育委員会と連携し、水族館や地域環境に関する学習プログラムを提供した。令和7年度は、水族館のウミガメに関する取り組みを題材とし、以下の通り実施した。

1. ウミガメから学ぶ環境学習：小学3-4年生を対象に実施（年9回）
 - ①事前学習（ウミガメの生態、生息環境の変化について）
 - ②飼育学習（孵化幼体の計測や給餌、水槽掃除等）
 - ③野外観察（砂浜で産卵環境の解説、前年度参加者による標識放流）
 - ④まとめ学習（ポスター・スライド作成、ウミガメ館内での掲示）
 - ⑤3校合同発表会(本部町内の参加学校2校と名護市立小中一貫教育校緑風学園が参加し、学習内容の発表)

対象

沖縄県内小中学校（年間、複数回来館可能な学校に限る）

実績

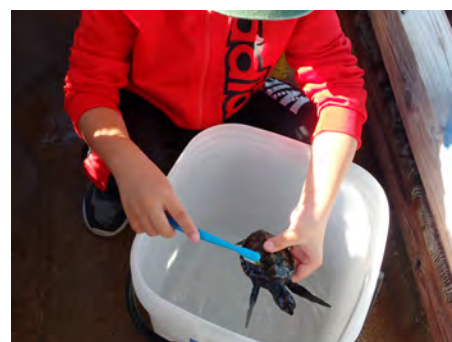
1. 本部町立瀬底小学校 小学3年生9名（全11回）、小学4年生8名（全1回）
2. 上本部学園 小学3年生28名（全9回）、小学4年生36名（全1回）



事前学習の様子



ウミガメ飼育実習（給餌）



ウミガメ飼育実習（甲羅掃除）



砂浜観察



標識放流の実施



合同発表の様子

「海の危険生物展」

目的

行楽などで海へ出かける機会が多くなるシーズンに向け、来場者に海の危険生物に関する情報を得る機会を提供する。

期間および場所

・令和7年4月26日(土)～5月6日(火) 11日間

概要

- ・これまでに製作した貴重な標本を活用することで、パネルと併せて展示に見入る方が多く、より効果的に危険生物に関して普及啓発することができた。
- ・5/7以降も7月末まで展示期間を延長し、より多くの来館者へ情報提供を行った。



パネルと標本展示

ミナミバンドウイルカ「オキちゃん」「ムク」飼育 50 周年記念事業

目的

国内飼育鯨類の最長飼育記録を更新し続けるミナミバンドウイルカ「オキちゃん」および「ムク」が、令和 7 年 5 月 1 日に飼育 50 周年を迎えたことを契機に、本事業を実施した。本事業では、これまで動物飼育を通して地元沖縄の人々とともに歩んできた半世紀の歴史と成果を来館者へ伝えるとともに、「未来に繋ぐ、これまでと・これから」をコンセプトに掲げ、オキちゃん劇場および沖縄美ら海水族館周辺施設において各種イベント、教育普及活動、広報事業を展開した。これにより、地域連携の強化および観光振興の推進を図ることを目的とした。

概要

本事業は、記念式典や特別プログラムの実施に加え、教育普及活動、展示企画、広報施策、地域連携事業など、多角的な取り組みとして展開した。オキちゃん劇場を中心としたイベント展開により、来館者に対して長期飼育個体の価値や鯨類の魅力を発信するとともに、学校教育との連携や地域団体との協働を通じて、水族館の社会的役割を再認識する機会を創出した。また、特設ホームページや新聞広告などの広報媒体を活用し、県内外へ広く情報発信を行った。

実施内容

1. 記念式典および関連イベント

令和 7 年 5 月 5 日には、オキちゃん劇場において飼育 50 周年達成記念式典を開催した。県知事をはじめとする来賓の出席のもと、長年の飼育の歩みや地域との関係性を紹介し、節目としての意義を広く発信した。また、地元高校生との共演を取り入れるなど、地域連携の強化にも寄与した。さらに、本部警察署および名護海上保安署と連携し、一日警察署長および一日海上保安署長への任命イベントを実施した。これらの取り組みでは、防犯や水難事故防止に関する啓発活動を行い、地域社会への貢献を図った。

2. 展示および体験型プログラム

水の階段レストハウスにおいて、ミナミバンドウイルカ飼育 50 周年パネル展示会を開催し、長期飼育を通じて得られた知見や歴史を紹介した。展示では来館者参加型のウォールアートも実施し、多くの来館者が参加するなど、双方向的な学習機会の創出につながった。50 周年にちなみ 40-50 代の参加者を募集した「ほぼオキちゃんショー!」では、4 週間にわたる長期間の参加を通して長期飼育や水族館運営へのより深い理解を得る取り組みを行った。また、イルカ施設を巡るスタンプラリーやバックヤードツアーを実施し、鯨類の生態や個体の特徴、飼育現場の取り組みについて理解を深める機会を提供した。特にバックヤードツアーでは、長期飼育を支える技術や動物福祉への取り組みについて直接解説を行い、来館者の関心を高めた。

3. 教育普及活動

北部地区の小中学校を対象とした出張授業を実施し、オキちゃんとムクの 50 年の歩みを題材として、鯨類の生態やトレーニング方法について講話を行った。これにより、地域の児童・生徒に対して海洋生物への理解を深める教育的効果が得られた。さらに、オキちゃんの歩みをまとめた絵本の制作を行い、今後の教育普及活動における教材としての活用が期待される。

4. ショープログラムおよび参加型企画

期間限定で実施したダイバーショーでは、ミナミバンドウイルカ「ムク」とダイバーの共演により、水中での行動や能力を紹介した。また、一般参加型のイルカショー企画では、参加者が飼育体験やトレーニング理論を学び、実際のショーに出演する機会を提供した。これらの取り組みにより、来館者の体験価値を高めるとともに、飼育技術への理解促進を図った。

5. 地域連携および施設活用

オキちゃん劇場を地域団体に開放し、演舞や活動発表の場として活用する取り組みを実施した。これにより、地域文化の発信と施設の有効活用を同時に実現し、多くの来館者が地域活動に触れる機会を創出した。

6. 広報および関連施策

特設ホームページを開設し、50年の歴史や長期飼育の取り組みについて継続的に情報発信を行った。また、新聞広告の掲載により、県内外に向けて本事業の周知を図った。あわせて、記念グッズおよびノベルティの制作・配布を実施し、来館者サービスの向上とともに、事業の認知拡大に寄与した。

総括

本事業を通じて、オキちゃんおよびムクが持つ歴史的価値と長期飼育の意義について、多くの来館者に対して発信することができた。特に、50年という長期にわたる飼育実績は極めて希少であり、水族館における鯨類飼育の到達点の一つとして認識される契機となった。

また、記念式典や地域連携事業、教育普及活動を通じて、沖縄県をはじめとする関係機関・団体とのつながりを改めて示すとともに、地域社会との関係性を強化する成果が得られた。さらに、各種メディアに取り上げられるなど広報面においても高い効果が見られ、本事業は観光振興および水族館の社会的認知向上に寄与した。加えて、来館者参加型の企画や体験型プログラムにより、鯨類の生態や飼育技術への理解が深まり、水族館の教育的役割を再認識する機会となった。



記念式典の様子



パネル展の様子



50周年記念ロゴ



オキちゃんの絵本

ジンベエザメ「ジンタ」飼育 30 年記念 旅するジンタプロジェクト

目的

世界最長飼育記録を更新中のジンベエザメ「ジンタ」が、2025 年 3 月に飼育 30 年を迎えたことを記念し、教育普及プログラム「遠隔授業」を活用しているカンボジアおよびウズベキスタンの病院に入院中の子どもたちを対象として、「ジンタ飼育 30 年」に関連する特別企画展を実施した。

概要

1. ジンタぬりえ展示

期間：2025 年 8 月 1 日（金）～ 8 月 31 日（日） 開館時間内 31日間

場所：「サンゴの海」水槽前

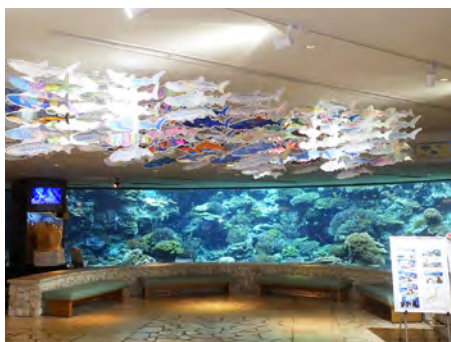
カンボジアのジャパンハート・アジア小児医療センターおよびウズベキスタンの小児白血病病院の子どもたちが制作した「ジンタぬりえ」約 100 点を、「サンゴの海」水槽前に展示した。あわせて、本展示を通じて当館の教育普及活動について来館者への周知を図った。

2. ジンタぬりえオンラインお披露目会

実施日：2025 年 8 月 15 日（金） 14:30～15:10

カンボジアおよびウズベキスタンの各病院と当館をオンラインで接続し、ぬりえを制作した子どもたちを対象に、展示の様子を紹介した。あわせて、「黒潮の海」水槽における給餌時に、エサで作成したジンタケーキをジンタに与える様子の中継した。

本企画を通じて、海外の病院に入院中の子どもたちが制作した作品を水族館で展示し、その様子を本人たちと共有することで、子どもたちの参加意欲や達成感の醸成につながった。また、来館者に対して当館の教育普及活動の取り組みを広く周知する機会となり、遠隔授業の意義や重要性について理解促進を図ることができた。



ジンタぬりえ展示の様子



オンラインお披露目会の様子

夏休み特別企画「美ら海まる見え！可視化展～見えないものが視えてくる～」

目的

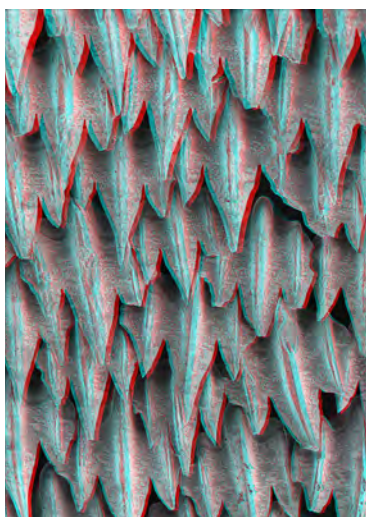
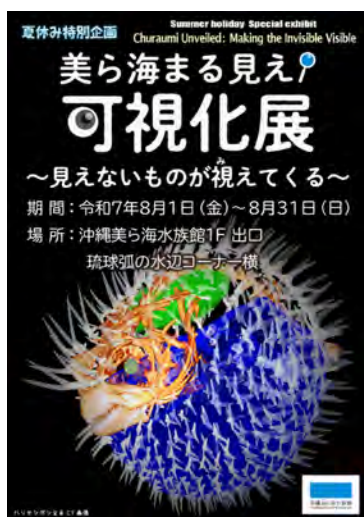
当館では、調査研究や健康管理などの取り組みの中で、CT スキャナー、電子顕微鏡、超音波診断装置などを用いて生物の体内構造や微細な表面の様子を可視化した膨大な画像・映像を蓄積してきた。本展では、これらのビジュアル資料を活用し、沖縄の生き物の体の構造を視覚的に紹介することで、生物への理解と普及啓発を図る。

期間および場所

- ・令和6年8月1日（金）～8月31日（月） 開館時間内 31日間
- ・沖縄美ら海水族館1階 琉球弧の水辺エリア横

概要

- ・①パネル：CT 画像、電子顕微鏡画像を主としたパネル展示を行った。
 - ・②プラスティネーション標本展示：パネルと併せた標本を展示することで構造理解の深化を図った。
 - ・③サメ楕鱗標本展示：サメ楕鱗標本と拡大模型を展示し、微小なサメ楕鱗の形状を分かり易く紹介した。
 - ・④アナグリフ画像パネル：赤青メガネを用いて写真を立体的に視認できる立体画像のパネルを展示。
- ・実施期間中にアンケート調査（有効回答 90 人）を実施した結果、本企画展への関心度については「とても興味を持った」「どちらかと言えば興味がある」で全体の 84%を占めた。
- また、印象に残った展示物については、「パネル展示」と「プラスティネーション標本・サメ楕鱗展示」がそれぞれ共に 34%、「アナグリフ画像展示」が 21%という結果となった。
- 感想として、CT 画像で見る生物の形態美やサメ楕鱗の形状の多様性への驚きを伝える声が多くあった。
- ・インパクトの強い CT 画像や標本展示と合わせて、体験できるアナグリフ画像の展示で娯楽要素を加えたことにより、楽しみながら展示内容を来場者へ伝え、生物への関心を高める普及啓発ができた。



展示の様子

CT 画像を用いたイベントポスター ジンバエザメ楕鱗のアナグリフ画像

JAXA（宇宙航空研究機構）との共催展示「深海と宇宙 - ふたつのフロンティア -」

目的

沖縄美ら海水族館におけるジンベエザメ飼育 30 年および JAXA の地球観測研究センター（EORC/地球観測研究センター）設立 30 周年の節目を機に、これまでの両者の功績や研究成果を広く来場者に伝える。

期間および場所

- ・2025 年 8 月 23 日（土）～ 8 月 31 日（日）9 日間
- ・沖縄美ら海水族館 4 階イベントホール

概要

①パネル展示

パネルにて水族館における衛星データを活用した調査・研究成果、教育普及活動への貢献、繁殖への取り組みを紹介した。また、JAXA による衛星打ち上げを通じた宇宙科学・技術への貢献についてのパネルや機材、デジタル地球儀や模型の展示、動画の放映を行った。

期間中来場者：約 4,000 人

②スタンプラリー

展示イベント会場への誘致を図るため、ゴールをイベント会場に設定したスタンプラリーを実施。

参加者へ JAXA、沖縄美ら海水族館それぞれがデザインしたオリジナルステッカーを配布した。

ステッカー配布枚数：合計 2,686 枚（JAXA：1,374 枚 水族館：1,312 枚）

③工作ワークショップ

来場者参加による、地球をモチーフとした“風鈴づくりキット（JAXA 製作）”の工作体験。

参加者数：4 日間合計 90 人

④トークショー

JAXA 研究開発員・吉澤 枝里氏と、水族館管理センター・佐藤 圭一館長によるトークショー。

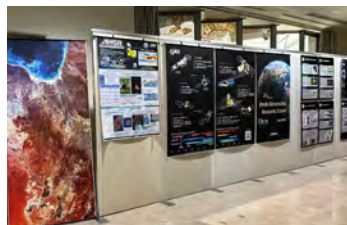
衛星打ち上げのプロセスや裏話、衛星データから読み取れる日常生活への活用および水族館でのデータの活用方法などについて対談した。

開催：8 月 30 日（土） 参加者数：60 人

メディア取材：5 社（琉球新報、沖縄タイムス、NHK、RBC、OTV）



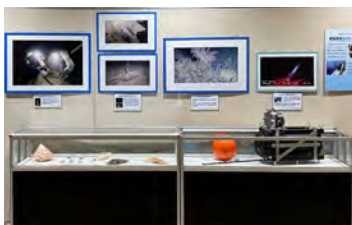
ステッカー各種（JAXA:左 水族館:右）



JAXA パネル展示



人工衛星の紹介パネル



水族館のパネルと標本・資材の展示



工作ワークショップの様子



トークショーの様子

季節に応じた館内特別水槽展示

目的

水族館内で旬な生き物の生体展示や季節に応じた水槽装飾を施し、来館者への海洋生物に関する普及啓発ならびに空間演出により満足度向上につながる特別展示を行う。

期間および場所

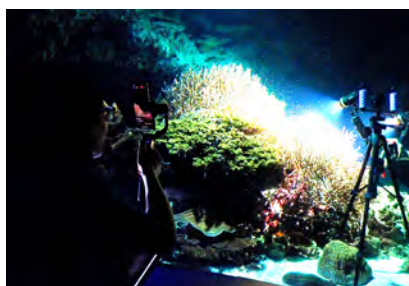
1. 「サンゴ産卵ライブ配信」：令和7年6月5日（木）22時頃

サンゴの海水槽において、24年連続となる一斉産卵の様子をライブ配信し、SNSを通じてサンゴの繁殖生態および当館の魅力を発信した。

また、ライブ配信実施前の約1か月間にわたり、SNSのフォローおよび投稿を促進するキャンペーンを実施し、認知度の向上を図った。



水槽内産卵の様子



ライブ配信の様子



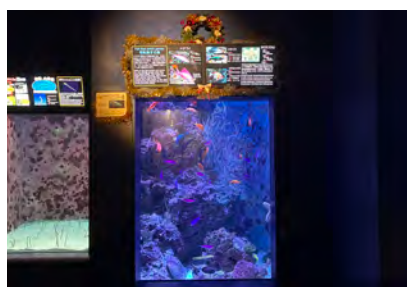
SNSキャンペーンの様子

2. 「クリスマス水槽」：令和7年12月1日（月）～12月25日（木）全25日間

英名に「クリスマス」を含むリュウグウベラを展示し、あわせて水槽周辺にクリスマス装飾を施すことで、季節感を演出した水槽展示を実施した。



リュウグウベラ



水展示槽の様子

3. 「正月水槽」：令和8年1月1日（木）～令和8年1月31日（土）全31日間

2026年の干支「午」にちなんだタツノオトシゴの仲間「クロウミウマ」について生態解説を行った他、お正月にちなんだ生き物の特別展示を実施。また正月装飾を行い季節感・特別感の演出を行った。



水槽展示の様子

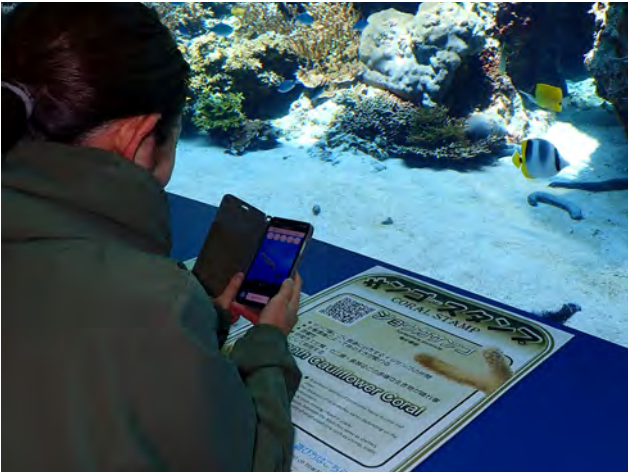


クロウミウマ展示の様子



生態解説の様子

4.「美ら海サンゴ DAYS2026」令和8年3月1日(日)～4月4日 全35日
沖縄県主催の「サンゴ礁 Week」に合わせ、水族館内においてサンゴに関連する生物を活用したデジタルスタンプラリーおよび飼育サンゴの骨格を活用した工作体験を実施し、サンゴの生態や環境保全に関する普及啓発を行った。



スタンプラリーの様子



スタンプラリーのノベルティ配布の様子



サンゴ水槽見学の様子



工作体験の様子

令和 7 年度「沖縄美ら海水族館☆ナイトガイドツアー」

目的

本事業では解説を伴う閉館後の水族館見学やウミガメの標識放流体験を通し、更なる水族館の魅力発信と海洋生物に関する普及啓発を目的とした。

期間および場所

- ・令和 7 年 7 月 12 日（土）、13 日（日） 18：30～1 時間 30 分
- ・令和 7 年 7 月 26 日（土）、27 日（日） 20：00～1 時間 30 分
- ・沖縄美ら海水族館およびウミガメ館、亀の浜

概要

- ・閉館後の水族館探検
- ・ウミガメの生態レクチャー
- ・ウミガメの標識放流
- ・総参加者数：10 名
- ・台風の悪天候により 7 月 26 日（土）、27 日（日）は中止



館内ガイドツアーの様子



ウミガメを観察する様子



ウミガメの標識放流

令和7年度「～年間パスポート会員様限定～美ら海オトナ塾」

目的

本事業では高校生以上の水族館年間パスポート会員を対象に、当館が行っている調査研究成果の発信および海洋生物に関する知識の普及および水族館ファン層の獲得を目的とした。

期間および場所

- ・令和7年10月18日、11月15日、12月20日、令和8年1月17日、2月21日（全土曜日実施）
全5回 13:30～14:30
- ・沖縄美ら海水族館4階イベントホール

概要

- ・以下のテーマで講演を実施した。

	実施日	講演タイトル	講師
1	令和7年10月18日	未来に繋ぐ、これまでとこれから ～オキちゃん和ムクが歩んだ50年～	海獣課 古網 雅也
2	令和7年11月15日	沖縄美ら海水族館の人気者"ジンタ"の行動を科学する ～記録計から見えてきた日々の暮らし～	魚類課 黒潮展示係 漢那 朝樹
3	令和7年12月20日	沖縄美ら海水族館の両生類爬虫類保全 ～琉球列島に生息する稀少種の飼育と調査研究～	海獣課 保全生物係 平野 和己
4	令和8年1月17日	マイクロプラスチックゴミ問題 ～ウミガメの消化管から見えてきたこと～	海獣課 保全生物係 荻野 寧々
5	令和8年2月21日	沖縄の海に暮らすイルカ・クジラの不思議 ～豆知識から最新研究成果まで～	動物研究室 小林 希実

- ・総参加者数：114名の申込中96名の参加、4名予約なし参加 総計100名参加
第1回：申込人数21名、不参加2名、最終参加人数19名
第2回：申込人数23名、不参加1名、予約なし参加者2名、最終参加人数24名
第3回：申込人数27名、不参加5名、最終参加人数22名
第4回：申込人数18名、不参加2名、予約なし参加者2名、最終参加人数18名
第5回：申込人数19名、不参加2名、最終参加人数17名



実施の様子



標本を観察する様子



講演に聞き入るオトナたち

スペシャルバックヤードツアー ～「黒潮の海」の生き物を間近で観察しよう!～

目的

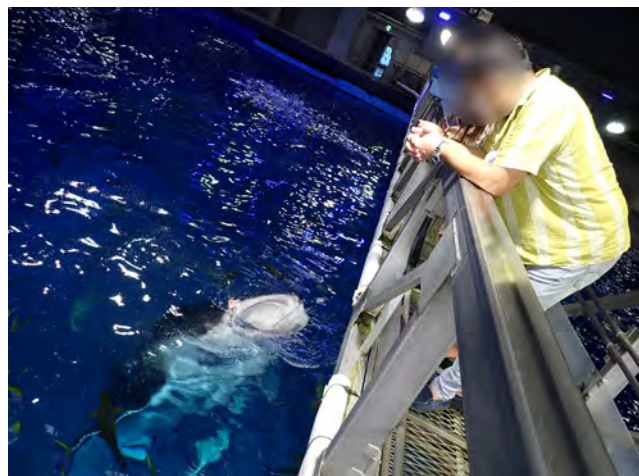
本事業では小学生以上を対象に、既存の「裏側まるごとウォッチング」の冬休み特別バージョンとして実施する。黒潮の海大水槽での給餌シーンを間近で見学できる機会を設けることで、参加者の生物への関心と理解を一層深め、満足度向上を図る。また、飼育現場の工夫や管理の様子を紹介し、海洋生物や海の環境への理解促進および普及啓発につなげることを目的とする。

期間および場所

- ・令和7年12月20日(土)～令和8年1月4日(日)全16日間
- ・1日4回実施(合計64回)
- ・水族館3階バックヤード

概要

- ・令和7年12月20日(土)～12月31日(水)47回、164名
- ・令和8年1月1日(木)～1月4日(日)16回、55名
- ・合計実施回数63回、合計参加人数は219名となった。



実施の様子

沖縄美ら海水族館デジタルアーカイブ構築事業

目的

沖縄美ら海水族館の登録博物館としての機能向上を目的に、水族館が有する画像・動画・音声資料等のデジタル化を図り、それらを保存・管理するデジタルアーカイブのシステムおよび管理体制の構築を行った。

概要

1. デジタルアーカイブ運用体制の構築

令和7年8月に各課より担当スタッフを選出し、組織横断的な運用体制を構築した。あわせて、資料登録・管理・提供等に関する運用方針およびルールマニュアルを策定した。

2. 資料整理・登録

R7年度は広報業務や教育普及事業での活用を想定し、主に静止画像を中心に素材選定を行い、3月末までに合計1,066点の画像および動画データをクラウド上に登録した。各データには資料検索情報（メタ情報）を付与し、検索性および利便性の向上を図った。

3. 公開・発信

令和8年2月にデジタルアーカイブ公開ページを開設し、一般ユーザー向けに120点の画像を公開した。あわせて公式ホームページと連携し閲覧導線を確認するとともに、外部プラットフォーム（ジャパンサーチ）との連携を進めた。

4. 人材育成・体制強化

アーカイブの管理運営に長けた外部事業者（日テレ AXON）と連携し、運用に関する研修および実務演習を実施。各課における資料管理スキルの向上と運用体制の定着を図った。

5. 補助金の獲得

文化庁補助金「令和7年度 博物館機能強化推進事業 InnovateMUSEUM 事業」の採択を受けクラウドストレージの初期投資および外部プラットフォームとの連携事業を行った。

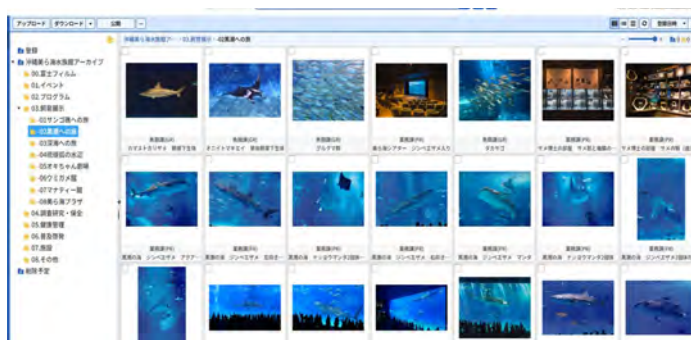
実績

本事業により、館内に分散していた資料の一元管理体制が構築されたことで、素材検索や提供に要する時間の短縮など、業務効率化の効果が期待される。また、これまで把握されていなかった資料の存在や未活用資源の規模が明らかとなり、今後の利活用拡大に向けた基盤整備に繋がった。さらに、組織横断的な体制のもとで事業を推進したことにより、職員間の情報共有や相互理解が進み、資料保存に対する意識向上に寄与した。

引き続き新規素材のアーカイブ登録を進めるとともに、公開コンテンツの拡充および外部連携の推進を行うことで、教育・研究資源としての更なる活用と発信力の強化を図る。



各課担当者と日テレ AXON による会議



「IMAGE WORKS」を利用したデジタルアーカイブ管理画面

令和 7 年度国立沖縄自然史博物館誘致事業

目的

日本初の国立自然史博物館の沖縄誘致を目的とした県の事業を、県内外の関連団体と共に受託した。国立自然史博物館の役割や沖縄に設立する意義、海外の自然史博物館の紹介等をパネルや映像で紹介するとともに公式 SNS 等での情報発信を行い、県民や国民の理解促進に繋げる。

期間および場所

期間：令和 7 年 7 月 23 日（水）～令和 8 年 3 月 20 日（金） 241 日間 開館時間中

場所：沖縄美ら海水族館 イベントホール

概要

- ・① 企画展示：国立自然史博物館設立を推進している沖縄県と連携し、自然史博物館の役割や沖縄に設立する意義、国際研究拠点として機能する欧米の博物館について、解説パネルや模型等を用いて紹介。
- ・② 配布物：企画展示会場において、周知ツール（パンフレット、QR カード）を配布。
- ・③ アンケート等：開催期間中、展示会場においてアンケートを実施。
回答者にはオリジナルステッカーをプレゼント。
- ・④ 告知等：公式 HP や SNS、美ら海通信を利用した情報発信。
- ・期間中の入場者数は約 71,100 名であった。展示会場内に設置したアンケートの結果、沖縄県の国立自然史博物館誘致活動を「知っている」「よく知っている」と答えた方が 21.1%、誘致活動を「ぜひ応援したい」「応援したい」と答えた方が 87.6% であった。応援する理由として「自然科学に興味がある」「アジアにない事を初めて知った」「国による自然科学の研究促進が期待される」「未来の地球、子ども達に必要なだと感じた」といった声が寄せられた。併せて「若年層向けのプロモーションを工夫し、若者の研究を支えたい」「想定する場所や利用料金想定があるとより具体的。各地の博物館との連携なども考えてもらえるとより良い」といった要望も寄せられた。応援しない理由としては観光客が増えることでの混雑等を危惧する声があった一方、観光客の誘致を期待する声もあった。



会場入り口



展示の様子①



展示の様子②

環境保全活動支援エコクーポン事業

目的

市民による環境保全活動の支援および地域との連携強化による社会貢献を目的とし、平成 20 年度より継続実施している。

事業内容

1. 概要：沖縄県において「希少動植物の保護」「海岸等清掃」「赤土流出抑制」などに関する実践的活動を 2 時間以上実施した団体に対し、参加者 1 名当たり 1 枚のエコクーポン（沖縄美ら海水族館入館チケット／有効期限 1 年）を発行した。
2. 対象：沖縄県に「活動の本拠地」を有し、環境保全活動を行っている特定非営利活動法人、法人格を持たない任意団体又は非営利の民間団体等とした。

実績

1. 令和 7 年度支援実績

24 団体の申請に対し 1,556 枚のエコクーポンを発行した（件数前年比 150.0%、枚数同 150.3%）。新規団体は 8 団体であった。申請団体が、他の団体にも紹介を行う等利用者間での情報共有が新規団体増に繋がっている側面がある。また、新規団体のうち 1 団体は外来種駆除活動を実施している団体であった。エコクーポンの利用状況は、令和 8 年 3 月末時点で、571 人の沖縄美ら海水族館入館があった。さらなる新規利用者の獲得を目的に、教育委員会などを通じて広く周知を図るとともに、沖縄県対策外来種に基づく外来種駆除活動等にも対象活動を広げ、沖縄県の環境活動の普及啓発を図る。

2. 活動実績の一例

支援団体名：世界自然遺産推進共同企業体

支援活動名：外来種駆除イベント

活動場所：国頭村内（道の駅ゆいゆい国頭・具志堅農園）

活動日時：令和 7 年 11 月 29 日 13:00 ~ 16:30

活動概要：特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」の駆除活動。専門家による外来植物に関する座学を実施後、具志堅農園内に生息する「ナガエツルノゲイトウ」駆除活動を実施した。ビニールハウス 2 棟にて活動を行い、燃えるゴミ袋 20 袋を回収した。



V 附属資料

(1) 飼育生物一覧 (令和7年12月31日現在) Animal inventory December 31, 2025

界 門 綱 目 科 和名 学名

界 門 綱 目 科 和名 学名

動物界 Animalia
 海綿動物門 Porifera
 六放海綿綱 Hexactenellida
 カイロウドウケツ目 Lyssacinosa
 カイロウドウケツ科 Euplectellidae
 マーシャルカイロウドウケツ *Euplectella marshalli*
 刺胞動物門 Cnidaria
 鉢虫綱 Scyphozoa
 旗口クラゲ目 Semaestomeae
 ミズクラゲ科 Ulmaridae
 ミズクラゲ *Aurelia coerulea*
 ナンヨウミズクラゲ *Aurelia malayensis*
 根口クラゲ目 Rhizostomeae
 サカサクラゲ科 Cassiopeidae
 サカサクラゲ *Cassiopea* sp.
 タコクラゲ科 Mastigiidae
 タコクラゲ *Mastigias albipunctata*
 花虫綱 Anthozoa
 ウミトサカ目 Alcyonacea
 ウミトサカ科 Alcyoniidae
 ミナベトサカ *Minabea ozakii*
 ウミキノコ属の一種 *Sarcophyton* sp.
 ヤナギカタトサカ *Sinularia flexibilis*
 トゲトサカ属の一種 *Dendronephthya* sp.
 オオミナベトサカ属の一種 *Paraminabea* sp.
 ウミアザミ科 Xeniidae
 ウミアザミ属の一種 *Xenia* sp.
 サンゴ科 Coralliidae
 シロサンゴ *Pleurocorallium konojoi*
 トゲヤギ科 Acanthogorgiidae
 ウミウチワ属の一種 *Anthogorgia* sp.
 アカザヤギ属の一種 *Muricella* sp.
 ウチワヤギ科 Gorgoniidae
 ムレヤギ *Rumphella aggregata*
 ムチャヤギ科 Ellisellidae
 ムチャヤギ属の一種 *Ellisella* sp.
 トクササンゴ科 Isidinae
 セキコクヤギ *Isis hippuris*
 ウミエラ目 Pennatulacea
 ウミサボテン科 Veretillidae
 ミナミウミサボテン *Cavernulina orientalis*
 トゲウミサボテン科 Echinoptillidae
 トゲウミサボテン属の一種その1 *Echinoptilum* sp.1
 コンボウウミサボテン科 Kophobelemnidae
 アイオイウミサボテン *Sclerobelemnon burgeri*
 ヤナギウミエラ科 Virgulariidae
 ヤナギウミエラ科の一種 *Virgulariidae* sp.

ウミエラ科 Pennatulidae
 ウミエラ科の一種 *Pennatulidae* sp.
 ハナギンチャク目 Ceriantharia
 ハナギンチャク科 Cerianthidae
 ハナギンチャク科の一種 *Cerianthidae* sp.
 イシサンゴ目 Scleractinia
 ハナヤサイサンゴ科 Pocilloporidae
 ハナヤサイサンゴ *Pocillopora damicornis*
 ヘラジカハナヤサイサンゴ *Pocillopora eydouxi*
 イボハダハナヤサイサンゴ *Pocillopora verrucosa*
 フトトゲサンゴ *Seriatopora caliendrum*
 トゲサンゴ *Seriatopora hystrix*
 ショウガサンゴ *Stylophora pistillata*
 ミドリイシ科 Acroporidae
 ハイスギミドリイシ *Acropora acuminata*
 ムギノホミドリイシ *Acropora cerealis*
 ココビミドリイシ *Acropora digitifera*
 ミドリイシ属 *donei* *Acropora donei*
 マルツツミドリイシ *Acropora elseyi*
 スギノキミドリイシ *Acropora muricata*
 オヤユビミドリイシ *Acropora gemmifera*
 ヤセミドリイシ *Acropora horrida*
 ミドリイシ属 *kirstyae* *Acropora kirstyae*
 ハナバチミドリイシ *Acropora cytherea*
 クシハダミドリイシ *Acropora hyacinthus*
 ナンヨウミドリイシ *Acropora hyacinthus*
 コエダミドリイシ *Acropora microphthalma*
 ハイマツミドリイシ *Acropora millepora*
 ハナガサミドリイシ *Acropora nasuta*
 トゲスギミドリイシ *Acropora intermedia*
 ミドリイシ属 *paniculata* *Acropora paniculata*
 タチハナガサミドリイシ *Acropora selago*
 ヤングミドリイシ *Acropora yongei*
 ウスエダミドリイシ *Acropora tenuis*
 ホソエダミドリイシ *Acropora valida*
 ミドリイシ属の仲間 *Acropora* spp.
 チヂミウスコモンサンゴ *Montipora aequituberculata*
 コモンサンゴ属の一種 *Montipora* sp.
 アナサンゴ科 Astreopora
 アナサンゴ属の一種 *Astreopora* sp.
 ヒラフキサンゴ科 Agariciidae
 リュウモンサンゴ *Pachyseris speciosa*
 サオトメシコロサンゴ *Pavona cactus*
 コモンシコロサンゴ *Pavona clavus*
 ミネシコロサンゴ *Pavona danai*
 シコロサンゴ *Pavona decussata*
 ハマシコロサンゴ *Pavona duerdeni*

ヤスリサンゴ科 Siderastreaeidae	アザミサンゴ科 Galaxeidae
アミメサンゴ <i>Psammocora profundacella</i>	アザミサンゴ <i>Galaxea fascicularis</i>
アミメサンゴ属の一種 <i>Psammocora</i> sp.	チョウジガイ科 Caryophylliidae
クサビライシ科 Fungiidae	ナガレハナサンゴ <i>Euphyllia ancora</i>
トゲクサビライシ <i>Ctenactis echinata</i>	チョウジガイ科の一種 <i>Caryophylliidae</i> sp.
ヒラタクサビライシ <i>Fungia concinna</i>	センスガイ科 Flabellidae
シタザラクサビライシ <i>Fungia fungites</i>	センスガイ <i>Flabellum distinctum</i>
マルクサビライシ <i>Lithophyllon repanda</i>	ハナサンゴ科 Euphyllidae
クサビライシ <i>Lobactis scutaria</i>	ハナサンゴ <i>Euphyllia glabrescens</i>
ノコギリクサビライシ <i>Danafungia horrida</i>	ミズタマサンゴ <i>Plerogyra sinuosa</i>
クサビライシ科の一種 Fungiidae sp.	キササンゴ科 Dendrophylliidae
カブトサンゴ <i>Halomitra pileus</i>	イボヤギ <i>Tubastraea coccinea</i>
キュウリイシ <i>Herpolitha limax</i>	ウネリスリバチサンゴ <i>Turbinaria frondens</i>
カワラサンゴ <i>Lithophyllon undulatum</i>	スリバチサンゴ <i>Turbinaria mesenterina</i>
ゾウリイシ <i>Pleuraetis paumotensis</i>	ヨコミゾスリバチサンゴ <i>Turbinaria reniformis</i>
ナミクサビライシ <i>Pleuraetis granulosa</i>	キササンゴ科の一種 Dendrophylliidae sp.
ヤエヤマカワラサンゴ <i>Podabacia crustacea</i>	イソギンチャク目 Actiniaria
イシナマコ <i>Polyphyllia talpina</i>	イソギンチャクモドキ科 Discosomatidae
ヘルメットイシ <i>Sandalolitha robusta</i>	オオイソギンチャクモドキ <i>Discosoma fenestrafera</i>
ハマサンゴ科 Poritidae	カワリギンチャク科 Halcuriidae
ユビエダハマサンゴ <i>Porites cylindrica</i>	オオカワリギンチャク <i>Halcurias levis</i>
パラオハマサンゴ <i>Porites rus</i>	リンゴカワリギンチャク <i>Halcurias levis</i>
ハマサンゴ属の一種 <i>Porites</i> sp.	ヤツバカワリギンチャク科 Actinernidae
サザナミサンゴ科 Merulinidae	セイタカカワリギンチャク <i>Synhalcurias elegans</i>
タバネサンゴ <i>Caulastrea tumida</i>	コビトセイタカカワリギンチャク <i>Synhalcurias kahakui</i>
エダトゲキクメイシ <i>Cyphastrea decadia</i>	チュラウミカワリギンチャク <i>Synactinernus churaumi</i>
トゲキクメイシ <i>Cyphastrea microphthalma</i>	クローバーカワリギンチャク <i>Synactinernus flavus</i>
フカトゲキクメイシ <i>Cyphastrea serailia</i>	マミレイソギンチャク科 Isophelliidae
トゲキクメイシ属の一種 <i>Cyphastrea</i> sp.	リュウグウノゴテン <i>Telmatactis profundigigantica</i>
オオリユウキュウキッカサンゴ <i>Echinopora gemmacea</i>	カワリセトモノイソギンチャク科 Exocoelactiidae
キクメイシ <i>Dipsastraea speciosa</i>	ドフラインイソギンチャク <i>Exocoelactis actinostoloides</i>
キクメイシ属の仲間 <i>Dipsastraea</i> spp.	ハタゴイソギンチャク科 Stichodactylidae
カメノコキクメイシ属の一種 <i>Favites</i> sp.	サンゴイソギンチャク <i>Entacmaea quadricolor</i>
パリカメノコキクメイシ <i>Goniastrea aspera</i>	シライトイソギンチャク <i>Radianthus crispus</i>
トゲイボサンゴ <i>Hydnophora exesa</i>	センジュイソギンチャク <i>Radianthus ritteri</i>
エダイボサンゴ <i>Hydnophora rigida</i>	ハタゴイソギンチャク <i>Stichodactyla gigantea</i>
イボサンゴ属の一種 <i>Hydnophora</i> sp.	イボハタゴイソギンチャク <i>Stichodactyla haddoni</i>
ミダレナガレサンゴ <i>Leptoria irregularis</i>	アラビアハタゴイソギンチャク <i>Stichodactyla mertensii</i>
ノウサンゴ <i>Platygyra lamellina</i>	ハナブサイソギンチャク科 Actinodendronidae
ウスサザナミサンゴ <i>Merulina scabricula</i>	ハナブサイソギンチャク <i>Actinodendron arboreum</i>
ダイオウサンゴ科 Diploastreaeidae	スナギンチャク目 Zoanthinaria
ダイオウサンゴ <i>Diploastrea heliopora</i>	イワスナギンチャク科 Sphenopidae
オオトゲサンゴ科 Mussidae	ダルマスナギンチャク <i>Sphenopus marsupialis</i>
マルハナガタサンゴ <i>Lobophyllia corymbosa</i>	ツノサンゴ目 Antipatharia
オオハナガタサンゴ <i>Lobophyllia hemprichii</i>	ウミカラマツ科 Antipathidae
ハナガタサンゴ <i>Lobophyllia robusta</i>	ススキカラマツ <i>Antipathes densa</i>
ウミバラ科 Pectiniidae	ムチカラマツ <i>Cirripathes anguina</i>
ウスカミサンゴ <i>Mycedium elephantotus</i>	Cuppressopathes 属の一種 <i>Cuppressopathes abies</i>
レースウミバラ <i>Pectinia paeonia</i>	Stylopathidae 科 Stylopathidae
	ケツノサンゴ <i>Stylopathes tenuispina</i>

ハウチワツノサンゴ科 Schizopathidae
 ハウチワツノサンゴ科の一種 Schizopathidae sp.
 Aphanipathidae 科 Aphanipathidae
 Aphanipathidae 科の一種 Aphanipathidae sp.
 有櫛動物門 Ctenophora
 有触手綱 Tentaculata
 クシヒラムシ目 Platyctenida
 コトクラゲ科 Lyroctenidae
 コトクラゲ *Lyrocteis imperatoris*
 腹足綱 Gastropoda
 古腹足目 Vetigastropoda
 ニシキウズガイ科 Trochidea
 サラサバテイ *Tectus niloticus*
 吸腔目 Sorbeoconcha
 ソデボラ科 Strombidae
 スイジガイ *Harpago chiragra*
 クモガイ *Lambis lambis*
 盤足目 Discopoda
 クマサカガイ科 Xenophoridae
 ウスクマサカガイ *Xenophora tenuis*
 吸腔目 Sorbeoconcha
 ハナヅトガイ／ハナヅトガイ科 Velutinidae
 ホネガイ *Murex pecten pecten*
 ナギレホネガイ *Murex spicatus*
 タカラガイ科 Cypraeidae
 ホシダカラ *Cypraea tigris*
 新紐舌目 Neotaenioglossa
 フジツガイ科 Cymatiidae
 クビレマツカワガイ *Biprex pulchra*
 ホラガイ *Charonia tritonis*
 新腹足目 Neogastropoda
 アッキガイ科 Muricidae
 オガサワラツブリ *Haustellum gallinago*
 サツマツブリ *Haustellum gallinago*
 エゾバイ科 Buccinidae
 アラレバイ属タイワンアラレバイ近縁種 *Nassaria* sp.
 ヒメトクサバイ *Phos naucratoris*
 ムシロガイ科・オリイレヨフバイ科 Nassariidae
 オリイレヨフバイ属 *houbricki* *Nassarius houbricki*
 マクラガイ科 Olividae
 クチジロマクラ *Oliva hirasei*
 イモガイ科 Conidae
 クロミナシ *Conus (Conus) bandanus*
 ニシキミナシ *Conus (Pionoconus) striatus*
 アンボイナ *Conus geographus*
 マイマイ目 Helicidae
 オカミミガイ科 Ellobiidae
 ヒメヒラシイノミガイ *Pythia nana*
 カサマイマイ科 Trochomorphidae
 ツヤカサマイマイ *Videnoida cathcartae*

オナジマイマイ科 Bradybaenidae
 ヘソアキアツマイマイ *Nesiohelix omphalina omphalina*
 オオアガリマイマイ *Nesiohelix omphalina bipyramidalis*
 ナンバンマイマイ科 Camaenidae
 アマノヤマタカマイマイ *Satsuma amanoi*
 ヨナグニマイマイ *Satsuma caliginosa picta*
 イッシキマイマイ *Satsuma caliginosa caliginosa*
 クロイワヒダリマキマイマイ *Coniglobus yaeyamensis*
 キセルガイ科 Clausiliidae
 リュウキュウギセルガイ *Stereophaedusa inclyta*
 ダイトウノミギセル *Zptyx daitoujimana*
 クビキレガイ科 Truncatellidae
 クビキレガイ *Truncatella cf. guerinii*
 頭足綱 Cephalopoda
 コウイカ目 Sepiida
 コウイカ科 Sepiidae
 コブシメ *Sepia latimanus*
 トラフコウイカ *Sepia pharaonis*
 ツツイカ目 Teuthoidea
 ヤリイカ科 Loliginidae
 アオリイカ *Sepioteuthis lessoniana*
 タコ目 Octopoda
 マダコ科 Octopodidae
 オオマルモンダコ *Hapalochlaena lunulata*
 マダコ科の一種 Octopodidae sp.
 二枚貝綱 Bivalvia
 カキ目 Ostreoida
 イタボガキ科 Ostreidae
 トサカガキ *Lapha cristagalli*
 ミノガイ目 Limoida
 ミノガイ科 Limidae
 ウコンハネガイ *Ctenoides ales*
 マルスダレガイ目 Veneroidea
 シャコガイ科 Tridacnidae
 シラナミ *Tridacna maxima*
 ザルガイ科 Cardiidae
 ヒレシャコ *Tridacna squamosa*
 ヒメジャコガイ *Tridacna crocea*
 環形動物門 Annelida
 多毛綱 Polychaeta
 イソメ目 Eunicida
 ナナテイスメ科 Onuphidae
 イバライソメ *Paradiopatra willemoesii*
 節足動物門 Arthropoda
 軟甲綱 Malacostraca
 口脚目 Stomatopoda
 フトユビシャコ科 Gonodactylidae
 フトユビシャコモドキ *Gonodactylus falcatus*
 ハナシャコ科 Odontodactylidae
 モンハナシャコ *Odontodactylus scyllarus*

トラフシヤコ科 <i>Lysiosquillidae</i>	コブセミエビ <i>Scyllarides haanii</i>
トラフシヤコ <i>Lysiosquilla maculata</i>	セミエビ <i>Scyllarides squamosus</i>
等脚目 Isopoda	ヨロンエビ科 <i>Synaxidae</i>
スナホリムシ科 <i>Cirrolanidae</i>	ヨロンエビ <i>Palinurellus wieneckii</i>
オオグソクムシ <i>Bathynomus doederleini</i>	ヤドカリ科 <i>Diogenidae</i>
十脚目 Decapoda	ユビワサンゴヤドカリ <i>Calcinus elegans</i>
ドウケツエビ科 <i>Spongecolidae</i>	オオベニワモンヤドカリ <i>Ciliopagurus alcocki</i>
ドウケツエビ <i>Spongicola venusta</i>	ワモンヤドカリ属の一種 <i>Ciliopagurus babai</i>
オトヒメエビ科 <i>Stenopodidae</i>	ワモンヤドカリ属の一種 <i>Ciliopagurus major</i>
オトヒメエビ <i>Stenopus hispidus</i>	イボアシヤドカリ <i>Dardanus impressus</i>
バイオレットボクサーシュリンブ <i>Stenopus tenuirostris</i>	ケスジヤドカリ <i>Dardanus arrosor</i>
ヌマエビ科 <i>Atyidae</i>	キスジヤドカリ <i>Dardanus brachyops</i>
ヤマトヌマエビ <i>Caridina multidentata</i>	コモヤドカリ <i>Dardanus megistos</i>
サラサエビ科 <i>Rhynchocinetidae</i>	サメハダイトヒキヤドカリ <i>Nematopagurus spinulosensoris</i>
オオサンゴサラサエビ <i>Cinetorhynchus striatus</i>	イトヒキヤドカリ属の一種 <i>Nematopagurus sp.</i>
テナガエビ科 <i>Palaemonidae</i>	ヒメヨコバサミ属の一種 <i>Paguristes aulacis</i>
ソリハシコモシエビ <i>Urocaridella sp.</i>	ヒメヨコバサミ属の一種 <i>Paguristes macrops</i>
ミナミテナガエビ <i>Macrobrachium formosense</i>	ヒメヨコバサミ属の一種 <i>Paguristes anntenarius</i>
ヒラテナガエビ <i>Macrobrachium japonicum</i>	ユビナガワモンヤドカリ <i>Ciliopagurus krempfi</i>
コンジテナガエビ <i>Macrobrachium lar</i>	ベニワモンヤドカリ <i>Ciliopagurus strigatus</i>
ネツタイテナガエビ <i>Macrobrachium placidulum</i>	ヤスリヤドカリ <i>Strigopagurus boreonotus</i>
オニヌマエビ <i>Atyopsis spinipes</i>	オカヤドカリ科 <i>Coenobitidae</i>
イソギンチャクエビ <i>Periclimenes brevicarpalis</i>	ヤシガニ <i>Birgus latro</i>
モエビ科 <i>Hippolytidae</i>	オカヤドカリ <i>Coenobita cavipes</i>
リュウグウモエビ <i>Parhippolyte misticia</i>	ムラサキオカヤドカリ <i>Coenobita purpureus</i>
アカシマシラヒゲエビ <i>Lysmata amboinensis</i>	オオナキオカヤドカリ <i>Coenobita brevimanus</i>
フシウデサンゴモエビ <i>Saron marmoratus</i>	オキヤドカリ科 <i>Parapaguridae</i>
イソギンチャクモエビ <i>Thor amboinensis</i>	カノコユメオキヤドカリ <i>Paragiopagurus boletifer</i>
モエビ科 <i>Hippolytidae</i>	ワラエビ科 <i>Chirostylidae</i>
マルゴシミノエビ <i>Theterocarpus laevigatus</i>	ムギワラエビ <i>Chirostylus dolichopus</i>
ミノエビ属の一種 <i>Heterocarpus corona</i>	シマツノコシオリエビ <i>Eumunida balteipes</i>
アカザエビ科 <i>Nephropidae</i>	カニダマシ科 <i>Porcellanidae</i>
サガミアカザエビ <i>Metanephrops sagamiensis</i>	アカホシカニダマシ <i>Neopetrolisthes ohshimai</i>
シヨウグンエビ科 <i>Enoplometopidae</i>	カイカムリ科 <i>Dromiidae</i>
クミシヨウグンエビ <i>Enoplometopus chacei</i>	カイカムリ <i>Lauridromia dehaani</i>
シヨウグンエビ <i>Enoplometopus occidentalis</i>	オオカイカムリ <i>Tumidodromia dormia</i>
イセエビ科 <i>Palinuridae</i>	ホモラ科 <i>Homolidae</i>
タイワンリョウマエビ <i>Nupalirus chani</i>	トウヨウホモラ <i>Homola orientalis</i>
ハコエビ <i>Linuparus trigonus</i>	イケダホモラ <i>Homola ikedai</i>
アマミイセエビ <i>Panulirus femoristriga</i>	オオホモラ <i>Paromola japonica</i>
ケブカイセエビ <i>Panulirus homarus</i>	ウィリアムホモラ <i>Lamoha williamsi</i>
カノコイセエビ <i>Panulirus longipes</i>	ケブカミズヒキガニ科 <i>Poupiniidae</i>
ニシキエビ <i>Panulirus ornatus</i>	ケブカミズヒキガニ <i>Poupinia hirsuta</i>
ゴシキエビ <i>Panulirus versicolor</i>	アサヒガニ科 <i>Raninidae</i>
イッカクワグエビ <i>Palinustus unicornutus</i>	アサヒガニ <i>Ranina ranina</i>
セミエビ科 <i>Scyllaridae</i>	カラッパ科 <i>Calappidae</i>
ウチワエビ <i>Ibacus ciliatus</i>	マルソデカラッパ <i>Calappa calappa</i>
オオバウチワエビ <i>Ibacus novemdentaris</i>	コブカラッパ <i>Calappa gallus</i>
ミナミゾウリエビ <i>Parribacus antarcticus</i>	ソデカラッパ <i>Calappa hepatica</i>
ゾウリエビ <i>Parribacus japonicus</i>	ヤマトカラッパ <i>Calappa japonica</i>

クモガニ科 Majidae
 モクスシヨイ *Camposcia retusa*
 コノハガニ *Huenia heraldica*
 ハリツノガニ属の一種 *Rochinia* sp.
 ケブカガニ科 Pilumnidae
 ゼブラガニ *Zebrida adamsii*
 ヒシガニ科 Parthenopidae
 カルイシガニ *Daldorfia horrida*
 メンコヒシガニ科 Aethridae
 ヒメメンコヒシガニ *Aethra edentata*
 オウギガニ科 Xanthidae
 スバスマンジュウガニ *Atergatis floridus*
 ユウモンガニ *Carpilius convexus*
 アカモンガニ *Carpilius maculatus*
 マツバガニ *Hypothalassia armata*
 キンチャクガニ *Grapse tessellata*
 サンゴガニ科 Trapeziidae
 アシボソベニサンゴガニ *Quadrella coronata*
 アミメサンゴガニ *Trapezia rufopunctata*
 オオアカホシサンゴガニ *Trapezia rufopunctata*
 エンコウガニ科 Goneplacidae
 ナキエンコウガニ *Psopheticus stridulans*
 エンコウガニ科 Progeryon 属の一種 *Progeryon* sp.
 顎脚綱 Maxillopoda
 有柄目 Pedunculata
 トゲエボシ科 Oxynaspididae
 トゲエボシ科の一種 *Oxynaspidae* sp.
 ヒメエボシ科 Poecilasmatidae
 ヒメエボシ *Poecilasma kaempferi*
 棘皮動物門 Echinodermata
 ウミユリ綱 Crinoidea
 ゴカクウミユリ目 Isocrinida
 ゴカクウミユリ科 Isocrinidae
 オオウミユリ *Saracrinus nobilis*
 ヒトデ綱 Asteroidea
 アカヒトデ目 Valvatida
 イトマキヒトデ科 Asterinidae
 サメハダヒトデ属の一種 *Nepanthia* sp.
 ゴトウサメハダヒトデ *Pseudonepanthia gotoi*
 ゴカクヒトデ科 Goniasteridae
 チュラウミゴカクヒトデ *Churaumiastra hoshi*
 アミメジュズベリヒトデ *Fromia indica*
 アカヒメジュズベリヒトデ *Fromia milleporella*
 ジュズベリヒトデ *Fromia monilis*
 アカモンヒトデ *Neoferdina cumingi*
 ハダカアカモンヒトデ *Neoferdina antigorum*
 ホウキボシ科 Ophiasteridae
 トガリアライボヒトデ *Gomophia egyptiaca*
 アオヒトデ *Linckia laevigata*
 オキアカヒトデ *Heteronardoa diamantinae*

イボヒトデ *Nardoa tuberculata*
 コブヒトデ科 Oreasteridae
 カワテブクロ *Choriaster granulatus*
 マンジュウヒトデ *Culcita novaeguineae*
 コブヒトデモドキ *Pentaceraster alveolatus*
 コブヒトデ *Protoreaster nodosus*
 オニヒトデ科 Acanthasteridae
 オニヒトデ *Acanthaster planci*
 ニチリンヒトデ目 Spinulosida
 ニチリンヒトデ科 Solasteridae
 サボテンニチリンヒトデ *Seriaster regularis*
 ヒメヒトデ目 Spinulosida
 ヒメヒトデ科 Echinasteridae
 ルソンヒトデ *Echinaster luzonicus*
 ルソンヒトデ属の一種 *Echinaster* sp.
 ウデボソヒトデ目 Brisingida
 シワウデボソヒトデ科 Brisingidae
 カンムリヒグルマヒトデ *Brisingaster robillardii*
 クモヒトデ綱 Ophiuridea
 ツルクモヒトデ目 Euryalida
 ユウレイモヅル科 Euryalidae
 ツルタコクモヒトデ *Trichaster flagellifer*
 テヅルモヅル科 Gorgonocephalidae
 セノテヅルモヅル *Astrocladus confusus*
 サメハダテヅルモヅル *Astroboa arctos*
 クモヒトデ目 Ophiurida
 クモヒトデ科 Ophiuridae
 ワモンクモヒトデ *Ophiolepis superba*
 トラフクモヒトデ *Ophioplocus giganteus*
 フサクモヒトデ科 Ophiocomidae
 オニクモヒトデ *Ophiomastix janualis*
 ウニ綱 Echinoidea
 オウサマウニ目 Cidaroida
 オウサマウニ科 Cidaridae
 トゲザオウニ属の一種 *Gonicidaris* sp.
 モモノキウニ *Chondrocidaris brevispina*
 オウサマウニ科の一種 *Cidaridae* sp.
 フクロウニ目 Echinothuroidea
 フクロウニ科 Echinothuriidae
 オーストンフクロウニ *Araeosoma owstoni*
 フクロウニ科の一種 *Echinothuriidae* sp.
 ガンガゼ目 Diadematoida
 ガンガゼ科 Diadematidae
 ガンガゼ *Diadema setosum*
 トックリガンガゼモドキ *Echinothrix calamaris*
 アスナロウニ目 Arbacioida
 アスナロウニ科 Arbaciidae
 ベンテンウニ *Coelopleurus maculatus*

Camarodonta目 Camarodonta
 サンショウウニ科 Temnopleuridae
 ヒオドシウニ属の一種 *Salmacis* sp.
 キリコウニ *Microcyphus excentricus*
 ホンウニ目 Echinoida
 ラッパウニ科 Toxopneustidae
 シラヒゲウニ *Tripneustes gratilla*
 ナガウニ科 Echinometridae
 ツマジロナガウニ *Echinometra* sp.B
 リュウキュウナガウニ *Echinometra* sp.C
 パイプウニ *Heterocentrotus mammillatus*
 ナガウニモドキ科 Parasaleniidae
 ナガウニモドキ *Parasalenia gratiosa*
 ナマコ綱 Holothuroidea
 マナマコ目 Aspidochirotida
 クロナマコ科 Holothuriidae
 トゲクリイロナマコ *Actinopyga echinites*
 ヨコスジナマコ *Actinopyga lecanora*
 クリイロナマコ *Actinopyga mauritiana*
 ジャノメナマコ *Bohadschia argus*
 フタスジナマコ *Bohadschia bivittata*
 クロエリナマコ *Personothuria graeffei*
 チズナマコ *Bohadschia vitiensis*
 クロナマコ *Holothuria atra*
 フクロアシナマコ *Holothuria dura*
 ニセクロナマコ *Holothuria leucospirata*
 ハネジナマコ *Holothuria scabra*
 シカクナマコ科 Stichopodidae
 ヨコスジオオナマコ *Stichopus hermanni*
 バイカナマコ *Thelenota ananas*
 アデヤカバイカナマコ *Thelenota anax*
 クラゲナマコ科 Pelagothuriidae
 ユメナマコ *Erypniastes eximia*
 無足目 Apodida
 イカリナマコ科 Synaptidae
 オオイカリナマコ *Synapta maculata*
 脊索動物門 Chordata
 海鞘綱 Ascidiacea
 マボヤ目 Stolidobranchia
 シロボヤ科 Styelidae
 クロボヤ属 cf. *clavata* *Polycarpa* cf. *clavata*
 ヌタウナギ綱 Myxini
 ヌタウナギ目 Mixiniformes
 ヌタウナギ科 Myxinidae
 ムラサキヌタウナギ *Eptatretus okinoseanus*

軟骨魚綱 Chondrichthyes
 テンジクザメ目 Orectolobiformes
 クラカケザメ科 Parascylliidae
 クラカケザメ *Cirrhoscyllium jaijponicum*
 ジンベエザメ科 Rhincoodontidae
 オオテンジクザメ *Nebrius ferrugineus*
 トラフザメ *Stegostoma tigrinum*
 ジンベエザメ *Rhincodon typus*
 メジロザメ目 Carcharhiniformes
 トラザメ科 Scyliorhinidae
 ナヌカザメ *Cephaloscyllium umbratile*
 ナガサキトラザメ *Halaelurus buergeri*
 イモリザメ *Parmaturus pilosus*
 イズハナトラザメ *Scyliorhinus torazame*
 ドチザメ科 Triakidae
 ホシザメ *Mustelus manazo*
 ヒョウザメ *Proscyllium venustum*
 メジロザメ科 Carcharinidae
 ツマジロ *Carcharhinus albimarginatus*
 オオメジロザメ *Carcharhinus leucas*
 カマストガリザメ *Carcharhinus limbatus*
 ドタブカ *Carcharhinus obscurus*
 ヤジブカ *Carcharhinus plumbeus*
 ホウライザメ *Carcharhinus sorrah*
 レモンザメ *Negaprion acutidens*
 ネムリブカ *Triaenodon obesus*
 ツノザメ目 Squaliformes
 カラスザメ科 Etmopteridae
 ヒレタカフジクジラ *Etmopterus molleri*
 ツノザメ科 Squalidae
 ヒゲツノザメ *Cirrhigaleus barbifer*
 ツマリツノザメ *Squalus brevirostris*
 トガリツノザメ *Squalus japonicus*
 ノコギリザメ目 Pristiophoriformes
 ノコギリザメ科 Pristiophoridae
 ノコギリザメ *Pristiophorus japonicus*
 トンガリサカタザメ目 Rhynchobatiformes
 トンガリサカタザメ科 Rhynchobatidae
 シノノメサカタザメ *Rhina ancylostoma*
 トンガリサカタザメ *Rhynchobatus australiae*
 トビエイ目 Myliobatiformes
 アカエイ科 Dasyatidae
 ヤッコエイ *Neothygon yakkoiei*
 ウシエイ *Bathytoshia lata*
 オグロオトメエイ *Himantura fai*
 ヒョウモンオトメエイ *Himantura leoparda*
 イバラエイ *Urogymnus asperimus*
 トビエイ科 Myliobatidae
 マダラトビエイ *Aetobatus ocellatus*
 ウシバナトビエイ *Rhinoptera javanica*

イトマキエイ科 <i>Mobulidae</i>	ヒメ目 <i>Aulopiformes</i>
ナンヨウマンタ <i>Mobula alfredi</i>	ヒメ科 <i>Aulopidae</i>
オニイトマキエイ <i>Mobula birostris</i>	エソダマシ <i>Aulopus damasi</i>
ヒメイトマキエイ <i>Mobula thurstoni</i>	ハタタテヒメ <i>Hime</i> sp.
イトマキエイ <i>Mobula mobular</i>	ホシノエソ <i>Synodus hoshinonis</i>
硬骨魚綱 <i>Osteichthyes</i>	アカエソ <i>Synodus ulae</i>
カライワシ目 <i>Elopiformes</i>	ギンメダイ目 <i>Polymixiiformes</i>
カライワシ科 <i>Elopidae</i>	ギンメダイ科 <i>Polymixiidae</i>
カライワシ <i>Elops hawaiiensis</i>	アラメギンメ <i>Polymixia berndti</i>
イセゴイ科 <i>Megalopidae</i>	タラ目 <i>Gadiformes</i>
イセゴイ <i>Megalops cyprinoides</i>	チゴダラ科 <i>Moridae</i>
ウツボ科 <i>Muraenidae</i>	チゴダラ <i>Physiculus japonicus</i>
キカイウツボ亜科の一種 <i>Channomuraena vittata</i>	アンコウ目 <i>Lophiiformes</i>
アミキカイウツボ <i>Uropterygius micropterus</i>	カエルアンコウ科 <i>Antennariidae</i>
シマアラシウツボ <i>Echidna polyzona</i>	ハナオコゼ <i>Histerio histerio</i>
ハワイウツボ <i>Gymnothorax berndti</i>	キンメダイ目 <i>Beryciformes</i>
ドクウツボ <i>Gymnothorax javanicus</i>	ヒカリキンメダイ科 <i>Anomalopidae</i>
ユリウツボ <i>Gymnothorax prionodon</i>	ヒカリキンメダイ <i>Anomalops katoptron</i>
ニセゴイシウツボ <i>Gymnothorax isingteena</i>	オオヒカリキンメ <i>Photoblepharon palpebratum</i>
ヤミウツボ <i>Gymnothorax monochros</i>	マツカサウオ科 <i>Cleidopus</i>
ミゾレウツボ <i>Gymnothorax neglectus</i>	マツカサウオ科の一種 <i>Cleidopus gloriamaris</i>
アミウツボ <i>Gymnothorax minor</i>	マツカサウオ <i>Monocentris japonica</i>
タビオカウツボ <i>Gymnothorax minor</i>	ヤマブキマツカサウオ <i>Monocentris chrysdamas</i>
ホラアナゴ科 <i>Synaphobranchidae</i>	ヒウチダイ科 <i>Trachichthyidae</i>
ヒレジロアナゴ <i>Meadia abyssalis</i>	ハシキンメ <i>Gephyroberyx japonicus</i>
ウミヘビ科 <i>Ophichthidae</i>	キンメダイ科 <i>Beryciidae</i>
カタグロウミヘビ <i>Ophichthus cephalozona</i>	キンメダマシ <i>Centroberyx druzhinini</i>
トンガリホタテウミヘビ <i>Ophichthus altipennis</i>	イットウダイ科 <i>Holocentridae</i>
アナゴ科 <i>Congridae</i>	ヒレグロイットウダイ <i>Neoniphon opercularis</i>
ニシキアナゴ <i>Gorgasia preclara</i>	ウケグチイットウダイ <i>Neoniphon sammara</i>
チンアナゴ <i>Heteroconger hassi</i>	クラカケエビス <i>Sargocentron caudimaculatum</i>
クロアナゴ属の一種 <i>Conger macrocephalus</i>	ニジエビス <i>Sargocentron diadema</i>
クロアナゴ属の一種 <i>Conger</i> sp.	ハナエビス <i>Sargocentron ensiferum</i>
ニシン目 <i>Clupeiformes</i>	テリエビス <i>Sargocentron ittodai</i>
ニシン科 <i>Clupeidae</i>	スミツキカノコ <i>Sargocentron melanospilos</i>
ヤマトミズン <i>Amblygaster leiogaster</i>	アヤメエビス <i>Sargocentron rubrum</i>
ネズミギス目 <i>Gonorynchiformes</i>	トガリエビス <i>Sargocentron spiniferum</i>
サバヒー科 <i>Chanidae</i>	アオスジエビス <i>Myripristis Sargocentron tiere</i>
サバヒー <i>Chanos chanos</i>	アカマツカサ <i>Myripristis berndti</i>
コイ目 <i>Cypriniformes</i>	キビレマツカサ <i>Myripristis chryseres</i>
コイ科 <i>Cyprinidae</i>	ツマリマツカサ <i>Myripristis greenfieldi</i>
ゼブラダニオ <i>Danio rerio</i>	クロオビマツカサ <i>Myripristis kuntee</i>
アカヒレ <i>Tanichthys albonubes</i>	セグロマツカサ <i>Myripristis violacea</i>
オイカワ <i>Opsariichthys platypus</i>	エビスダイ <i>Ostichthys japonicus</i>
ドジョウ科 <i>Cobitidae</i>	カイエビス <i>Ostichthys kaianus</i>
ヒョウモンドジョウ <i>Misgurnus</i> sp. OK	トゲウオ目 <i>Gasterosteiformes</i>
ナマズ目 <i>Siluriformes</i>	ウミテング科 <i>Pegasidae</i>
ゴンズイ科 <i>Plotosidae</i>	ウミテング <i>Eurypegasis draconis</i>
ゴンズイ <i>Plotosus japonicus</i>	

ヨウジウオ科 Syngnathidae	ホウボウ科 Neosebastidae
チゴヨウジ <i>Choeroichthys sculptus</i>	ソコカナガシラ <i>Lepidotrigla abyssalis</i>
イシヨウジ <i>Corythoichthys haematopterus</i>	ヒメソコホウボウ <i>Pterygotrigla multipunctata</i>
キシマイシヨウジ <i>Corythoichthys flavofasciatus</i>	リュウキュウソコホウボウ <i>Pterygotrigla ryukyuensis</i>
オイランヨウジ <i>Doryrhamphus (Dunckerocampus) dactyliophorus</i>	コチ科 Platycephalidae
テングヨウジ <i>Microphis(Oostethus) branchyus branchyus</i>	クロシマゴチ <i>Thysanophrys chiltonae</i>
イッセンヨウジ <i>Microphis (Coelonotus) leiaspis</i>	アカメ科 Latidae
クロウミウマ <i>Hippocampus kuda</i>	アカメモドキ <i>Psammoperca waigiensis</i>
ハラヤガラ科 Aulostomidae	ミハラハナダイ科 Giganthiidae
ハラヤガラ <i>Aulostomus chinensis</i>	ミハラハナダイ <i>Gianthias immaculatus</i>
ハコアユ科 Centriscidae	ハナダイ科 Serranidae
ハコアユ <i>Aeoliscus strigatus</i>	アヤメイズハナダイ <i>Plectranthias helenae</i>
タウナギ目 Synbranchiformes	マダラハナダイ <i>Odontanthias borbonius</i>
タウナギ科 Synbranchidae	イッテンサクラダイ <i>Odontanthias unimaculatus</i>
タウナギ属の一種 <i>Monopterus sp.</i>	イッテンサクラダイ属の一種 <i>Odontanthias chrysostictus</i>
ボラ目 Mugiliformes	バラハナダイ <i>Odontanthias katayamai</i>
ボラ科 Mugilidae	ボロサクラダイ <i>Odontanthias rhodopeplus</i>
オニボラ <i>Ellochelon vaigiensis</i>	アズマハナダイ <i>Plectranthias kelloggi azumanus</i>
タイワンメナダ <i>Moolgarda seheli</i>	オシアレハナダイ <i>Plectranthias pelicieri</i>
ダツ目 Beloniformes	チュラシマハナダイ <i>Plectranthias ryukyuensis</i>
メダカ科 Adrianichthyidae	キオビイズハナダイ <i>Plectranthias sheni</i>
ミナミメダカ <i>Oryzias latipes</i>	アマミハナダイ <i>Plectranthias yamakawai</i>
ダツ科 Belonidae	アカネハナゴイ <i>Nemanthias dispar</i>
テンジクダツ <i>Tylosurus acus melanotus</i>	スジハナダイ <i>Pseudanthias fasciatus</i>
オキザヨリ <i>Tylosurus crocodilus</i>	ケラマハナダイ <i>Pseudanthias hypselosoma</i>
カダヤシ目 Cyprinodontiformes	シロオビハナダイ <i>Pseudanthias leucozonus</i>
カダヤシ科 Poeciliidae	ハナゴイ <i>Pseudanthias pascalus</i>
グッピー <i>Poecilia reticulata</i>	イトヒキコハクハナダイ <i>Pseudanthias rubrolineatus</i>
ブラティ <i>Xiphophorus maculatus</i>	キンギョハナダイ <i>Pseudanthias squamipinnis</i>
スズキ目 Perciformes	サクラダイ <i>Sacura margaritacea</i>
メバル科 Sebastidae	タスキサクラダイ <i>Sacura parva</i>
ユメカサゴ <i>Helicolenus hilgendorfi</i>	ハタ科 Serranidae
ウツカリカサゴ <i>Sebastes tertius</i>	ホシヒメコダイ <i>Chelidoperca pleurospila</i>
フサカサゴ科 Scorpaenidae	アカイサキ <i>Caprodon schlegelii</i>
ホームカサゴ <i>Neomerinthe ignea</i>	ハナハタ <i>Cephalopholis aurantia</i>
カボチャフサカサゴ <i>Scorpaena pepo</i>	シマハタ <i>Cephalopholis igarashiensis</i>
ヒメサンゴカサゴ <i>Scorpaenodes parvipinnis</i>	アカハナ <i>Cephalopholis spiloparaea</i>
カスリフサカサゴ <i>Sebastes cyanostigma</i>	ニジハタ <i>Cephalopholis urodeta</i>
シマヒメヤマノカミ <i>Dendrochirus brachyptera</i>	マホロバハタ <i>Epinephelus insularis</i>
ネツタイミノカサゴ <i>Pteropterus antennata</i>	ツチホゼリ <i>Epinephelus cyanopodus</i>
ハナミノカサゴ <i>Pterois volitans</i>	アカハタ <i>Epinephelus fasciatus</i>
ヒレナガカサゴ <i>Neosebastes entaxis</i>	アカマダラハタ <i>Epinephelus fuscoguttatus</i>
ヒメキチジ <i>Plectrogenium nanum</i>	ヒレグロハタ <i>Epinephelus howlandi</i>
ハオコゼ科 Tetraogidae	タマカイ <i>Epinephelus lanceolatus</i>
ツマジロオコゼ <i>Ablabys taenianotus</i>	シロブチハタ <i>Epinephelus maculatus</i>
オニオコゼ科 Synanceiidae	カンモンハタ <i>Epinephelus merra</i>
ヒメオニオコゼ <i>Inimicus didactylus</i>	ホウキハタ <i>Epinephelus morrhua</i>
オニダルマオコゼ <i>Synanceia verrucosa</i>	マハタモドキ <i>Epinephelus octofasciatus</i>
キホウボウ科 Peristediidae	ナミハタ <i>Epinephelus ongus</i>
オニキホウボウ <i>Gargariscus prionocephalus</i>	マダラハタ <i>Epinephelus polyphekadion</i>

アカハタモドキ <i>Epinephelus retouti</i>	コバンザメ科 <i>Echeneidae</i>
ヒトミハタ <i>Epinephelus tauvina</i>	コバンザメ <i>Echeneis naucrates</i>
タテスジハタ <i>Gracila albomarginata</i>	クロコバン <i>Remora brachyptera</i>
ヤマブキハタ <i>Saloptia powelli</i>	スギ科 <i>Rachycentridae</i>
オジロバラハタ <i>Variola albimarginata</i>	スギ <i>Rachycentron canadum</i>
バラハタ <i>Variola louti</i>	シイラ科 <i>Coryphaenidae</i>
ルリハタ <i>Aulacocephalus temmincki</i>	シイラ <i>Coryphaena hippurus</i>
キハツク <i>Diploprion bifasciatum</i>	アジ科 <i>Carangidae</i>
ヌノサラシ <i>Grammistes sexlineatus</i>	コバンアジ <i>Trachinotus bailloni</i>
アゴハタ <i>Pogonoperca punctata</i>	マルコバン <i>Trachinotus blochii</i>
パラスズキ <i>Liopropoma aragai</i>	イケカツオ <i>Scomberoides lysan</i>
ツルグエ <i>Liopropoma latifasciatum</i>	ミナミイケカツオ <i>Scomberoides tol</i>
トゲハナスズキ <i>Liopropoma japonicum</i>	ツムブリ <i>Elagatis bipinnulata</i>
メギス科 <i>Pseudochromidae</i>	カンパチ <i>Seriola dumerili</i>
リュウキュウニセスズメ <i>Pseudochromis cyanotaenia</i>	ヒレナガカンパチ <i>Seriola rivoliana</i>
カワリハナダイ科 <i>Symphysanodontidae</i>	イトヒキアジ <i>Alectis ciliaris</i>
カワリハナダイ <i>Symphysanodon katayamai</i>	ウマツラアジ <i>Scyris indica</i>
ツキヒハナダイ <i>Symphysanodon typus</i>	マブタシマアジ <i>Alepes vari</i>
アゴアマダイ科 <i>Opistognathidae</i>	クロヒラアジ <i>Ferdauia indica</i>
ワニアマダイ <i>Opistognathus castelnaui</i>	ホシカイワリ <i>Turum fulvoguttatus</i>
イレズミアマダイ <i>Opistognathus decorus</i>	リュウキュウヨロイアジ <i>Atropus hedlandensis</i>
チョウセンバカマ科 <i>Banjosidae</i>	ナンヨウカイワリ <i>Ferdauia orthogrammus</i>
チョウセンバカマ <i>Banjos banjos</i>	ロウニンアジ <i>Caranx ignobilis</i>
キントキダイ科 <i>Pracanthidae</i>	カッポレ <i>Caranx lugubris</i>
チカメキントキ <i>Cookeolus japonicus</i>	カスミアジ <i>Caranx melampygus</i>
ホウセキキントキ <i>Priacanthus hamrur</i>	オニヒラアジ <i>Caranx papuensis</i>
ミナミキントキ <i>Priacanthus sagittarius</i>	イトウオニヒラアジ <i>Caranx heberi</i>
ミナミクルマダイ <i>Pristigenys refulgens</i>	ギンガメアジ <i>Caranx sexfasciatus</i>
クルマダイ <i>Pristigenys nipponia</i>	ミナミギンガメアジ <i>Caranx sexfasciatus</i>
テンジクダイ科 <i>Apogonidae</i>	コガネシマアジ <i>Caranx tille Cuvier</i>
アマミイシモチ <i>Apogon amboinensis</i>	オニアジ <i>Megalaspis cordyla</i>
サンギルイシモチ <i>Apogon sangiensis</i>	シマアジ <i>Pseudocaranx dentex</i>
ヤミテンジクダイ <i>Apogon semiornatus</i>	メアジ <i>Pseudocaranx dentex</i>
バンダイシモチ <i>Nectamia bandanensis</i>	オキアジ <i>Uraspis helvola</i>
ヨコスジイシモチ <i>Apogonichthyoides sialis</i>	インドオキアジ <i>Uraspis uraspis</i>
オオスジイシモチ <i>Ostorhinchus doederleini</i>	ハチビキ科 <i>Emmelichthyidae</i>
ミヤコイシモチ <i>Ostorhinchus ishigakiensis</i>	ハチビキ <i>Erythrocles schlegelii</i>
キンセンイシモチ <i>Ostorhinchus properuptus</i>	ロウソクチビキ <i>Emmelichthys struhsakeri</i>
ミナミフトスジイシモチ <i>Ostorhinchus nigrofasciatus</i>	フエダイ科 <i>Lutjanidae</i>
オニイシモチ <i>Coranthus polyacanthus</i>	イシフエダイ <i>Aphareus furca</i>
ヤライイシモチ <i>Cheilodipterus quinquelineatus</i>	オオグチイシチビキ <i>Aphareus rutilans</i>
スミツキアトヒキテンジクダイ <i>Taeniamia kagoshimanus</i>	アオチビキ <i>Aprion virescens</i>
イトヒキテンジクダイ <i>Zoramia leptacantha</i>	ハチジョウアカムツ <i>Etelis carbunculus</i>
タイワンマトイシモチ <i>Foa fo</i>	オオアカムツ <i>Etelis boweni</i>
ナハマトイシモチ <i>Fowleria isostigma</i>	ハマダイ <i>Etelis coruscans</i>
シボリ <i>Fowleria variegata</i>	オオクチハマダイ <i>Etelis radius</i>
ホロスジマンジュウイシモチ <i>Sphaeramia orbicularis</i>	アオダイ <i>Paracaesio caerulea</i>
キツネアマダイ科 <i>Malacanthidae</i>	シマアオダイ <i>Paracaesio kusakarii</i>
ヤセアマダイ <i>Malacanthus brevirostris</i>	ヨゴレアオダイ <i>Paracaesio sordida</i>
ハナアマダイ <i>Branchiostegus okinawaensis</i>	ウメイロ <i>Paracaesio xanthura</i>

ウスハナフエダイ <i>Pristipomoides amoenus</i>	アカタマガシラ <i>Parascolopsis akatamae</i>
ハナフエダイ <i>Pristipomoides argyrogrammicus</i>	エンピアカタマガシラ <i>Parascolopsis eriomma</i>
キマダラヒメダイ <i>Pristipomoides auricilla</i>	タマガシラ <i>Parascolopsis inermis</i>
キンメヒメダイ <i>Pristipomoides flavipinnis</i>	ヤクシマキツネウオ <i>Pentapodus aureofasciatus</i>
オオヒメ <i>Pristipomoides filamentosus</i>	キツネウオ <i>Pentapodus caninus</i>
ヒメダイ <i>Pristipomoides sieboldii</i>	イトタマガシラ <i>Pentapodus nagasakiensis</i>
ナガサキフエダイ <i>Pristipomoides multidentis</i>	ヒメタマガシラ <i>Scolopsis affinis</i>
イトヒキフエダイ <i>Symphorus nematophorus</i>	フタスジタマガシラ <i>Scolopsis bilineata</i>
ゴマフエダイ <i>Lutjanus argentimaculatus</i>	ハクセンタマガシラ <i>Scolopsis ciliata</i>
バラフエダイ <i>Lutjanus bohar</i>	ヨコシマタマガシラ <i>Scolopsis lineata</i>
アミメフエダイ <i>Lutjanus decussatus</i>	カメンタマガシラ <i>Scolopsis xenochrous</i>
ニセクロホシフエダイ <i>Lutjanus fulviflamma</i>	ヒメジ科 <i>Mullidae</i>
オキフエダイ <i>Lutjanus fulvus</i>	モンツキアカヒメジ <i>Mulloidichthys flavolineatus</i>
ヒメフエダイ <i>Lutjanus gibbus</i>	アカヒメジ <i>Mulloidichthys vanicolensis</i>
ヨスジフエダイ <i>Lutjanus kasmira</i>	ホウライヒメジ <i>Parupeneus ciliatus</i>
キンセンフエダイ <i>Lutjanus lutjanus</i>	オジサン <i>Parupeneus multifasciatus</i>
イッテンフエダイ <i>Lutjanus monostigma</i>	ハタンボ科 <i>Pempheridae</i>
ロクセンフエダイ <i>Lutjanus quinquelineatus</i>	ミナミハタンボ <i>Pempheris schwenkii</i>
ナミフエダイ <i>Lutjanus rivulatus</i>	ヒメツバメウオ科 <i>Monodactylidae</i>
クロホシフエダイ <i>Lutjanus russellii</i>	ヒメツバメウオ <i>Monodactylus argenteus</i>
センネンダイ <i>Lutjanus sebae</i>	マンジュウダイ科 <i>Ephippidae</i>
フエダイ <i>Lutjanus stellatus</i>	アカククリ <i>Platax pinnatus</i>
ワキグロアカフエダイ <i>Lutjanus timorensis</i>	ナンヨウツバメウオ <i>Platax orbicularis</i>
タテフエダイ <i>Lutjanus vitta</i>	ツバメウオ <i>Platax teira</i>
マダラタルミ <i>Macolor niger</i>	チョウチョウウオ科 <i>Chaetodontidae</i>
セダカタカサゴ <i>Pinjalo lewisi</i>	クラカケチョウチョウウオ <i>Chaetodon adiergastos</i>
タカサゴ科 <i>Caesionidae</i>	トゲチョウチョウウオ <i>Chaetodon auriga</i>
ササムロ <i>Caesio caerulea</i>	チョウチョウウオ <i>Chaetodon auripes</i>
ユメウメイロ <i>Caesio cuning</i>	ミカドチョウチョウウオ <i>Chaetodon baronessa</i>
ハナタカサゴ <i>Caesio lunaris</i>	ウミツキチョウチョウウオ <i>Chaetodon bennetti</i>
ウメイロモドキ <i>Caesio teres</i>	ゴマチョウチョウウオ <i>Chaetodon citrinellus</i>
タカサゴ <i>Pterocaesio digramma</i>	セグロチョウチョウウオ <i>Chaetodon ephippium</i>
クマササハナムロ <i>Pterocaesio tile</i>	ミゾレチョウチョウウオ <i>Chaetodon kleinii</i>
イサキ科 <i>Haemulidae</i>	ニセフウライチョウチョウウオ <i>Chaetodon lineolatus</i>
ホシミゾイサキ <i>Pomadasys argenteus</i>	チョウハン <i>Chaetodon lunula</i>
チョウチョウコシヨウダイ <i>Plectorhinchus chaetodonoides</i>	アケボノチョウチョウウオ <i>Chaetodon melannotus</i>
クロコシヨウダイ <i>Plectorhinchus gibbosus</i>	スミツキノサマダイ <i>Chaetodon plebeius</i>
ヒレグロコシヨウダイ <i>Plectorhinchus lessonii</i>	シチセンチョウチョウウオ <i>Chaetodon punctatofasciatus</i>
アジアコシヨウダイ <i>Plectorhinchus picus</i>	シテンチョウチョウウオ <i>Chaetodon quadrimaculatus</i>
タイ科 <i>Sparidae</i>	アミチョウチョウウオ <i>Chaetodon rafflesii</i>
キビリアカレンコ <i>Dentex abei</i>	レモンチョウチョウウオ <i>Chaetodon semeion</i>
フエフキダイ科 <i>Lethrinidae</i>	ミスジチョウチョウウオ <i>Chaetodon lunulatus</i>
ノコギリダイ <i>Gnathodentex aureolineatus</i>	スダレチョウチョウウオ <i>Chaetodon ulietensis</i>
サザナミダイ <i>Gymnocranius robinsoni</i>	イッテンチョウチョウウオ <i>Chaetodon unimaculatus</i>
イソフエフキ <i>Lethrinus atkinsoni</i>	フウライチョウチョウウオ <i>Chaetodon vagabundus</i>
ハマフエフキ <i>Lethrinus nebulosus</i>	フエヤッコダイ <i>Forcipiger flavissimus</i>
ヨコシマクロダイ <i>Monotaxis grandoculis</i>	カスミチョウチョウウオ <i>Hemitaurichthys polylepis</i>
カグツチヨコシマクロダイ <i>Monotaxis heterodon</i>	ハタタテダイ <i>Heniochus acuminatus</i>
イトヨリダイ科 <i>Nemipteridae</i>	ミナミハタタテダイ <i>Heniochus chrysostomus</i>
ソコイトヨリ <i>Nemipterus bathybius</i>	オニハタタテダイ <i>Heniochus monoceros</i>

ツノハタタテダイ <i>Heniochus varius</i>	フタスジリュウキュウスズメダイ <i>Dascyllus reticulatus</i>
キンチャクダイ科 <i>Pomacanthidae</i>	ミツボシクロスズメダイ <i>Dascyllus trimaculatus</i>
シテンヤッコ <i>Apolemichthys trimaculatus</i>	ロクセンスズメダイ <i>Abudefduf sexfasciatus</i>
ソメワケッコ <i>Centropyge bicolor</i>	オヤビツチャ <i>Abudefduf vaigiensis</i>
アカハラヤッコ <i>Centropyge ferrugata</i>	クラカオスズメダイ <i>Amblyglyphidodon curacao</i>
ヘラルドコガネヤッコ <i>Centropyge heraldi</i>	ルリスズメダイ <i>Chrysiptera cyanea</i>
ナメラヤッコ <i>Centropyge vrolikii</i>	ネズスズメダイ <i>Chrysiptera glauca</i>
チリメンヤッコ <i>Chaetodontoplus mesoleucus</i>	ミヤコキセンスズメダイ <i>Chrysiptera brownriggii</i>
タデジマキンチャクダイ <i>Pomacanthus imperator</i>	レモンスズメダイ <i>Chrysiptera rex</i>
サザナミヤッコ <i>Pomacanthus semicirculatus</i>	セナキルリスズメダイ <i>Chrysiptera starcki</i>
ロクセンヤッコ <i>Pomacanthus sexstriatus</i>	クロスズメダイ <i>Neoglyphidodon melas</i>
アデヤッコ <i>Pomacanthus xanthometopon</i>	リボンスズメダイ <i>Neopomacentrus taeniurus</i>
ニシキヤッコ <i>Pygoplites diacanthus</i>	イシガキスズメダイ <i>Plectroglyphidodon dickii</i>
カワビシャ科 <i>Pentacerotidae</i>	ルリメイシガキスズメダイ <i>Plectroglyphidodon johnstonianus</i>
ツボダイ <i>Pentaceros japonicus</i>	ルリホシスズメダイ <i>Stegastes lacrymatus</i>
メジナ科 <i>Girellidae</i>	モンツキスズメダイ <i>Pomacentrus alexanderae</i>
オキナメジナ <i>Girella mezinga</i>	ニセネッタイスズメダイ <i>Pomacentrus amboinensis</i>
ユゴイ科 <i>Kuhliidae</i>	メガネスズメダイ <i>Pomacentrus bankanensis</i>
ユゴイ <i>Kuhlia marginata</i>	ソラスズメダイ <i>Pomacentrus coelestis</i>
ギンユゴイ <i>Kuhlia mugil</i>	アサドスズメダイ <i>Pomacentrus lepidogenys</i>
オオクチユゴイ <i>Kuhlia rupestris</i>	ネッタイスズメダイ <i>Pomacentrus moluccensis</i>
ゴンベ科 <i>Cirrhitidae</i>	フィリピンスズメダイ <i>Pomacentrus philippinus</i>
サラサゴンベ <i>Cirrhitichthys falco</i>	ミナミイソスズメダイ <i>Pomacentrus sp.</i>
ヒメゴンベ <i>Cirrhitichthys oxycephalus</i>	オキナワズメダイ <i>Pomachromis richardsoni</i>
キリンゴンベ <i>Cirrhitichthys guicheroti</i>	ベラ科 <i>Labridae</i>
ウイゴンベ <i>Cyprinocirrhites polyactys</i>	アカホシキツネベラ <i>Bodianus rubrisos</i>
ベニゴンベ <i>Neocirrhites armatus</i>	スジキツネベラ <i>Bodianus leucosticticus</i>
メガネゴンベ <i>Paracirrhites arcatus</i>	シマキツネベラ <i>Bodianus masudai</i>
ホシゴンベ <i>Paracirrhites forsteri</i>	キツネダイ <i>Bodianus oxycephalus</i>
イレズミゴンベ <i>Paracirrhites hemistictus</i>	ズナガアカボウ <i>Bodianus tanyokidus</i>
カワスズメ科 <i>Cichlidae</i>	アカテンモチノウオ <i>Cheilinus chlorourus</i>
ジルテラピア <i>Coptodon zillii</i>	ヤシャベラ <i>Cheilinus fasciatus</i>
コンビクットシクリット <i>Amatitlania nigrofasciata</i>	カタグロホホスジモチノウオ <i>Oxycheilinus orientalis</i>
スズメダイ科 <i>Pomacentridae</i>	メガネモチノウオ <i>Cheilinus undulatus</i>
クマノミ <i>Amphiprion clarkii</i>	クラカケベラ <i>Choerodon jordani</i>
ハマクマノミ <i>Amphiprion frenatus</i>	シロクラベラ <i>Choerodon shoeneleini</i>
カクレクマノミ <i>Amphiprion ocellaris</i>	カンムリベラ <i>Coris aygula</i>
ハナビラクマノミ <i>Amphiprion perideraion</i>	スジベラ <i>Coris dorsomacula</i>
トウアカクマノミ <i>Amphiprion polymnus</i>	ツユベラ <i>Coris gaimard</i>
セジロクマノミ <i>Amphiprion sandaracinos</i>	ギチベラ <i>Epibulus insidiator</i>
アオバスズメダイ <i>Chromis atripectoralis</i>	クギベラ <i>Gomphosus varius</i>
アマミスズメダイ <i>Chromis chrysur</i>	ニシキキュウセン <i>Halichoeres biocellatus</i>
キホシスズメダイ <i>Chromis yamakawai</i>	コガネキュウセン <i>Halichoeres chrysur</i>
ナノハナスズメダイ <i>Chromis katoi</i>	カノコベラ <i>Halichoeres annularis</i>
デルタスズメダイ <i>Pycnochromis delta</i>	カザリキュウセン <i>Halichoeres melanurus</i>
シコクスズメダイ <i>Pycnochromis margaritifera</i>	ツキベラ <i>Halichoeres orientalis</i>
トウカイスズメダイ <i>Chromis mirationis</i>	ミツボシキュウセン <i>Halichoeres trimaculatus</i>
デバスズメダイ <i>Chromis viridis</i>	ソメワケベラ <i>Labroides bicolor</i>
タカサゴスズメダイ <i>Chromis weberi</i>	ホンソメワケベラ <i>Labroides dimidiatus</i>
ミスジリュウキュウスズメダイ <i>Dascyllus aruanus</i>	シチセンベラ <i>Choerodon fasciatus</i>

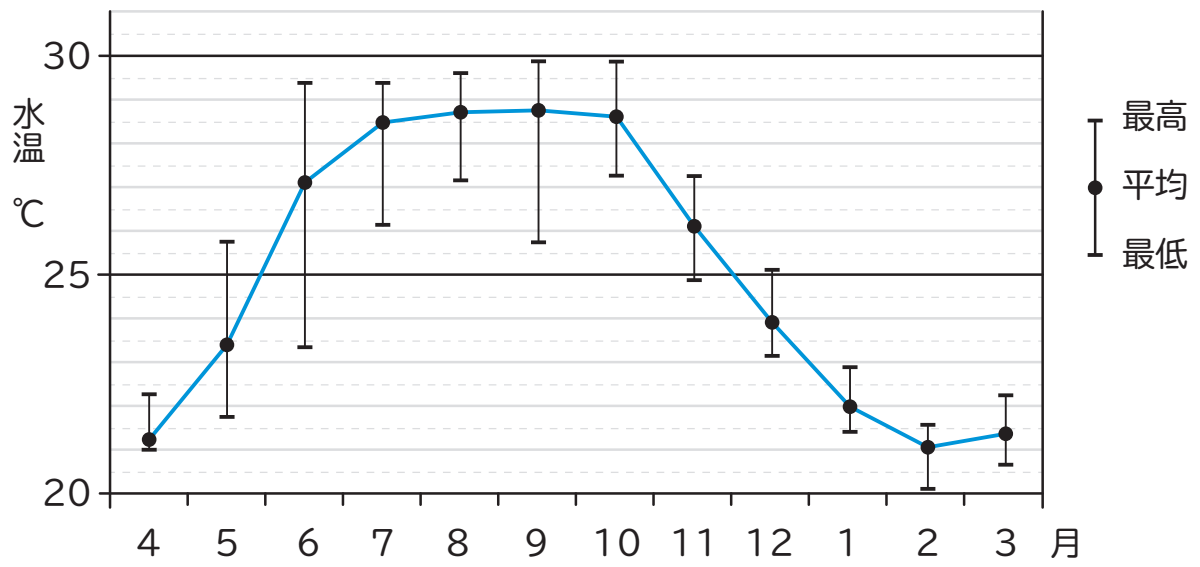
ノドグロベラ <i>Macropharyngodon meleagris</i>	テンジクカワアナゴ <i>Eleotris fusca</i>
オビテンスモドキ <i>Novaculichthys taeniourus</i>	タメトモハゼ <i>Ophieleotris</i> sp.
ヤマシロベラ <i>Pseudocoris yamashiroi</i>	ゴシキタメトモハゼ <i>Ophieleotris</i> sp.2
アカオビベラ <i>Stethojulis bandanensis</i>	ハゼ科 <i>Gobiidae</i>
コガシラベラ <i>Thalassoma amblycephalum</i>	ミナミハゼ <i>Awaous ocellaris</i>
セナスジベラ <i>Thalassoma hardwicke</i>	アカメハゼ <i>Bryaninops natans</i>
オトメベラ <i>Thalassoma lunare</i>	イワハゼ <i>Glossogobius celebius</i>
ヤマブキベラ <i>Thalassoma lutescens</i>	キイロサンゴハゼ <i>Gobiodon okinawae</i>
リュウグウベラ <i>Thalassoma trilobaum</i>	ホシカザリハゼ <i>Istigobius decoratus</i>
ホシテンス <i>Iniistius pavo</i>	ヨロイボウズハゼ <i>Lentipes armatus</i>
ヒノマルテンス <i>Iniistius twistii</i>	ヒノコロモボウズハゼ <i>Sicyopus auxillimentus</i>
ブダイ科 <i>Scaridae</i>	ナカモトイロウケハゼ <i>Lubricogobius dinah</i>
イロブダイ <i>Cetoscarus ocellatus</i>	クガニウミタケハゼ <i>Pleurosicya annandalei</i>
カムムリブダイ <i>Bolbometopon muricatum</i>	ウミシヨウブハゼ <i>Pleurosicya bilobata</i>
アミメブダイ <i>Scarus frenatus</i>	ヒナハゼ <i>Redigobius bikolanus</i>
ヒブダイ <i>Scarus ghobban</i>	チヒロハゼ属の一種 <i>Obliquogobius</i> sp.
シロオビブダイ <i>Scarus spinus</i>	ゴクラクハゼ <i>Rhinogobius similis</i>
ブチブダイ <i>Scarus niger</i>	アオバラヨシノボリ <i>Rhinogobius</i> sp. BB
ヒメブダイ <i>Scarus oviceps</i>	シマヨシノボリ <i>Rhinogobius nagoyae</i>
ニシキブダイ <i>Scarus prasiognathos</i>	アヤヨシノボリ <i>Rhinogobius</i> sp. MO
オウムブダイ <i>Scarus psittacus</i>	イシガキパイヌキバラヨシノボリ <i>Rhinogobius anumai ishigakiensis</i>
オビブダイ <i>Scarus schlegeli</i>	ルリボウズハゼ <i>Sicyopterus lagocephalus</i>
ナンヨウブダイ <i>Chlorurus microrhinos</i>	アカボウズハゼ <i>Sicyopus zosterophorus</i>
ハゲブダイ <i>Chlorurus sordidus</i>	カエルハゼ <i>Smilosicyopus leprurus</i>
タイワンブダイ <i>Calotomus carolinus</i>	タネカワハゼ <i>Stenogobius</i> sp.
キツネブダイ <i>Hipposcarus longiceps</i>	ヒスイボウズハゼ <i>Stiphodon alcedo</i>
トラギス科 <i>Pinguipedidae</i>	コンテリボウズハゼ <i>Stiphodon atropurpureus</i>
ヤマユリトラギス <i>Parapercis kentingensis</i>	ナンヨウボウズハゼ <i>Stiphodon percnopterygionus</i>
オグロトラギス <i>Parapercis pacifica</i>	ナガノゴリ <i>Tridentiger kuroiwaie</i>
トラギス属の一種 <i>Parapercis rufa</i>	アオギハゼ <i>Trimma grammistes</i>
イトヒキアイトラギス <i>Bembrops filifera</i>	サザナミハゼ <i>Valenciennea longipinnis</i>
イソギンポ科 <i>Blenniidae</i>	アカハチハゼ <i>Valenciennea randalli</i>
フタイロカエルウオ <i>Ecsenius bicolor</i>	サツキハゼ <i>Parioglossus dotui</i>
ヒトスジギンポ <i>Ecsenius lineatus</i>	ヨスジハゼ <i>Parioglossus formosus</i>
スジギンポ <i>Entomacrodus striatus</i>	クロユリハゼ科 <i>Ptereleotridae</i>
ヤエヤマギンポ <i>Salaris fasciatus</i>	クロユリハゼ <i>Ptereleotris evides</i>
ニセクロスジギンポ <i>Aspidontus taeniatus</i>	イトマンクロユリハゼ <i>Ptereleotris microlepis</i>
オウゴンニジギンポ <i>Meiacanthus atrodorsalis</i>	マンジュウダイ科 <i>Ephippidae</i>
マツバギンポ <i>Mimoblennius atrocinctus</i>	ミカツキツバメウオ <i>Platax boersii</i>
ニジギンポ <i>Petroscirtes breviceps</i>	ナンヨウツバメウオ <i>Platax orbicularis</i>
ハタタテギンポ <i>Petroscirtes mitratus</i>	アカククリ <i>Platax pinnatus</i>
ヨダレカケ <i>Andamia tetradactyla</i>	アイゴ科 <i>Siganidae</i>
ネズツボ科 <i>Callionymidae</i>	サンゴアイゴ <i>Siganus corallinus</i>
コウワンテグリ <i>Neosynchiropus ocellatus</i>	アイゴ <i>Siganus fuscescens</i>
ニシキテグリ <i>Pterosynchiropus splendidus</i>	ゴマアイゴ <i>Siganus guttatus</i>
ツバサハゼ科 <i>Rhyacichthyidae</i>	マジリアイゴ <i>Siganus puellus</i>
ツバサハゼ <i>Rhyacichtys aspro</i>	ヒフキアイゴ <i>Siganus unimaculatus</i>
カワアナゴ科 <i>Eleotridae</i>	ヒメアイゴ <i>Siganus virgatus</i>
タナゴモドキ <i>Hypseleotris cyprinoides</i>	ツノダシ科 <i>Zanclidae</i>
オウギハゼ <i>Bunaka gyrinoides</i>	ツノダシ <i>Zanclus cornutus</i>

ニザダイ科 <i>Acanthuridae</i>	ダルマガレイ科の一種 <i>Bothidae</i> spp.
ヒメテングハギ <i>Naso annulatus</i>	サザナミウシノシタ <i>Soleichthys heterorhinos</i>
オニテングハギ <i>Naso brachycentron</i>	フグ目 <i>Tetraodontiformes</i>
オニテングハギ <i>Naso brachycentron</i>	モンガラカワハギ科 <i>Balistidae</i>
ツマリテングハギ <i>Naso brevirostris</i>	クマドリ <i>Balistapus undulatus</i>
ミヤコテングハギ <i>Naso lituratus</i>	クロモンガラ <i>Melichthys vidua</i>
テングハギ <i>Naso unicornis</i>	アカモンガラ <i>Odonus niger</i>
サザナミトサカハギ <i>Naso vlamingii</i>	ムラサメモンガラ <i>Rhinecanthus aculeatus</i>
ナンヨウハギ <i>Paracanthurus hepatus</i>	ツマジロモンガラ <i>Sufflamen chrysopterus</i>
キイロハギ <i>Zebrasoma flavescens</i>	カワハギ科 <i>Monacanthidae</i>
ゴマハギ <i>Zebrasoma scopas</i>	フチドリカワハギ <i>Acreichthys tomentosus</i>
ヒレナガハギ <i>Zebrasoma veliferum</i>	ソウシハギ <i>Aluterus scriptus</i>
オスジクロハギ <i>Acanthurus blochii</i>	テングカワハギ <i>Oxymonacanthus longirostris</i>
ニセカンランハギ <i>Acanthurus dussumieri</i>	ノコギリハギ <i>Paraluteres prionurus</i>
ナミダクロハギ <i>Acanthurus japonicus</i>	ニシキカワハギ <i>Pervagor janthinosoma</i>
ニジハギ <i>Acanthurus lineatus</i>	キビレカワハギ <i>Thamnaconus modestoides</i>
ヒラニザ <i>Acanthurus mata</i>	ゴイシウマツラハギ <i>Thamnaconus tessellatus</i>
クロモンツキ <i>Acanthurus nigricauda</i>	ハコフグ科 <i>Ostraciidae</i>
ナガニザ <i>Acanthurus nigrofuscus</i>	コンゴウフグ <i>Ostracion cubicum</i>
モンツキハギ <i>Acanthurus olivaceus</i>	ミナミハコフグ <i>Ostracion cubicum</i>
シマハギ <i>Acanthurus triostegus</i>	ウチワフグ科 <i>Triodontidae</i>
クロハギ <i>Acanthurus xanthopterus</i>	ウチワフグ <i>Triodon macropterus</i>
クロハギ <i>Acanthurus xanthopterus</i>	フグ科 <i>Tetraodontidae</i>
コクテンサザナミハギ <i>Ctenochaetus binotatus</i>	サザナミフグ <i>Arothron hispidus</i>
サザナミハギ <i>Ctenochaetus striatus</i>	スジモヨウフグ <i>Arothron manilensis</i>
カマス科 <i>Sphyrnidae</i>	コクテンフグ <i>Arothron nigropunctatus</i>
タイワンカマス <i>Sphyrna flavicauda</i>	ワモンフグ <i>Arothron reticularis</i>
オオメカマス <i>Sphyrna forsteri</i>	センニンフグ <i>Lagocephalus sceleratus</i>
ホソカマス <i>Sphyrna helleri</i>	ホクロキンチャクフグ <i>Canthigaster inframacula</i>
オオカマス <i>Sphyrna putnamae</i>	シマキンチャクフグ <i>Canthigaster valentini</i>
オオヤマトカマス <i>Sphyrna forsteri</i>	イバラフグ <i>Tylerius spinosissimus</i>
ヤシャカマス <i>Sphyrna arabiansis</i>	ハリセンボン科 <i>Diodontidae</i>
トラカマス <i>Sphyrna jello</i>	イシガキフグ <i>Chilomycterus reticulatus</i>
サバ科 <i>Scombridae</i>	ハリセンボン <i>Diodon holocanthus</i>
グルクマ <i>Rastrelliger kanagurta</i>	ネズミフグ <i>Diodon hystrix</i>
ニジョウサバ <i>Grammatorcynus bilineatus</i>	ヒトヅラハリセンボン <i>Diodon liturosus</i>
ヨコシマサワラ <i>Scomberomorus commerson</i>	
イソマグロ <i>Gymnosarda unicolor</i>	
ヒラソウダ <i>Auxis thazard thazard</i>	
スマ <i>Euthynnus affinis</i>	
キハダ <i>Thunnus albacares</i>	
クロマグロ <i>Thunnus orientalis</i>	
コシナガ <i>Thunnus tonggol</i>	
ヒシダイ科 <i>Caproidae</i>	
ヒシダイ <i>Antigonia capros</i>	
ミナミヒシダイ <i>Antigonia rubicunda</i>	
カレイ目 <i>Pleuronectiformes</i>	
ダルマガレイ科 <i>Bothidae</i>	
トゲダルマガレイ <i>Bothus pantherinus</i>	
ダルマガレイ科の一種 <i>Engyprosopon</i> sp.	

両生綱 Amphibia
 イモリ目 Caudata
 イモリ科 Salamandridae
 オキナワイボイモリ *Echinotriton andersoni*
 シリケンイモリ *Cynops ensicauda*
 無尾目 Anura
 アマガエル科 Hylidae
 ハロウエルアマガエル *Hyla hallowellii*
 ヌマガエル科 Dicroglossidae
 ヌマガエル *Fejervarya kawamurai*
 サキシマヌマガエル *Fejervarya sakishimensis*
 アカガエル科 Ranidae
 ハナサキガエル *Odorrana narina*
 リュウキュウアカガエル *Odorrana narina*
 ヤエヤマハラブチガエル *Nidirana okinavana*
 アオガエル科 Rhacophoridae
 オキナワアオガエル *Zhangixalus viridis*
 ヤエヤマアオガエル *Zhangixalus owstoni*
 アイフィンガーガエル *Chirixalus eiffingeri*
 爬虫綱 Reptilia
 カメ目 Testudines
 ウミガメ科 Cheloniidae
 アカウミガメ *Caretta caretta*
 クロウミガメ *Chelonia agassizii*
 アオウミガメ *Chelonia mydas*
 タイマイ *Eretmochelys imbricata*
 ヒメウミガメ *Lepidochelys olivacea*
 イシガメ科 Geoemydidae
 セマルハコガメ *Cuora flavomarginata*
 リュウキュウヤマガメ *Geoemyda japonica*
 ミナミイシガメ *Mauremys mutica*
 ヌマガメ科 Emydidae
 ミシシッピーアカミミガメ *Trachemys scripta elegans*
 有隣目 Squamata
 ヤモリ科 Gekkonidae
 オンナダケヤモリ *Gehyra mutilata*
 トカゲモドキ科 Eublepharidae
 クロイワトカゲモドキ *Goniurosaurus kuroiwae*
 アガマ科 Agamidae
 オキナワキノボリトカゲ *Japalura polygonata polygonata*
 トカゲ科 Scincidae
 ミヤコトカゲ *Emoia atrocostata*
 イシガキトカゲ *Eumeces stimpsonii*
 オキナワバーバートカゲ *Plestiodon toyamai*
 イハヤバーバートカゲ *Plestiodon iheyaesilvae*
 ヨナグニスベトカゲ *Scincella dunan*
 セダカヘビ科 Pareidae
 イワサキセダカヘビ *Pareas iwasakii*
 コブラ科 Elapidae
 エラブウミヘビ *Laticauda semifasciata*

哺乳綱 Mammalia
 鯨目 Cetacea
 マイルカ科 Delphinidae
 オキゴンドウ *Pseudorca crassidens*
 シワハイルカ *Steno bredanensis*
 ミナミバンドウイルカ *Tursiops aduncus*
 バンドウイルカ *Tursiops truncatus*
 ミナミバンドウイルカ × バンドウイルカ *T. aduncus* × *T. truncatus*
 海牛目 Sirenia
 マナティー科 Trichechidae
 アメリカマナティー *Trichechus manatus*
 節足動物門 Arthropoda
 蛛形綱 ARACHNIDA
 サソリ目 Scorpiones
 コガネサソリ科 Scorpionidae
 ヤエヤマサソリ *Liocheles australasiae*
 昆虫綱 Insecta
 ナナフシ目 Phasmatodea
 ナナフシ科 Phasmatidae
 ヤエヤマツダナナフシ *Megacrana alpheus adan*
 カメムシ目 Hemiptera
 タイコウチ科 Nepidae
 タイワンタイコウチ *Laccotrephes grossus*
 植物界 Plantae
 維管束植物門 Tracheophyta
 被子植物綱 Magnoliopsida
 オモダカ目 Scleractinia
 トチカガミ科 Hydrocharitaceae
 ウミシヨウブ *Euhalis acoroides*
 リュウキュウスガモ *Thalassia hemprichii*
 緑藻植物門 Chlorophyta
 アオサ藻綱 Ulvophyceae
 ハネモ目 Bryopsidales
 サボテングサ科 Halimedaceae
 ミツデサボテングサ *Halimeda incrassata*
 ウチワサボテングサ *Halimeda discoidea*
 フササボテングサ *Halimeda borneensis*

(2) 取水海水温 Annual water temperature



月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
平均	21.6	23.4	27.1	28.5	28.7	28.7	28.6	26.1	23.9	22.0	21.1	21.4
最高	22.4	25.9	29.4	29.4	29.6	29.9	29.9	27.2	25.1	23.1	21.6	22.3
最低	21.0	21.6	23.4	26.1	27.1	25.7	27.2	24.9	23.2	21.4	20.1	20.7

(3) 水槽規格 Tank dimension

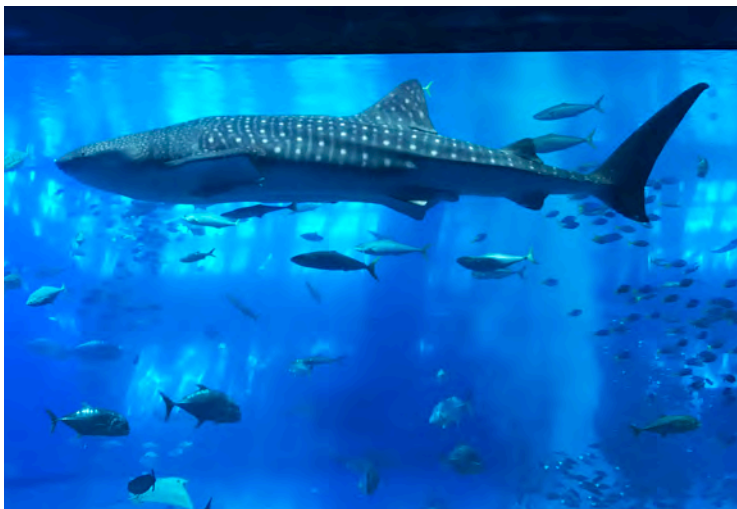
水族館

補給水：取水濾過海水 換水率：回/日

水槽	水槽寸法(m)			水量(m ³)			補給水		濾過循環		総換水	
	幅	奥行	水深	水量	数	総水量	m ³ /時	換水率	m ³ /時	換水率	m ³ /時	換水率
サンゴ礁への旅												
イノーの生き物たち	10	3.3	0.3	9.5	1	9.5	9.5	24			9.5	24
サンゴの海	7.5	15	3-3.5	300	1	300	300	24			300	24
熱帯魚の海	10.5	16.5	2.5-6.6	700	1	700	300	10.2	350	12	650	22.2
個水槽	1.7	1.5	2.9	6.6	1	6.6	6.6	24			6.6	24
〃	5.5	2.8	1.9	35.6	1	35.6	0	0	35.6	24	35.6	24
〃	1.5	1.2	1.9	3.2	4	12.8	3.2	24			3.2	24
〃	1.4	1.5	1.9	3.9	6	23.4	3.9	24			3.9	24
〃	0.5	0.4	0.6	0.1	18	1.8	0.3	24			0.1	24
サンゴの部屋	0.6	0.6	0.6	0.2	7	1.4	0.2	24			0.2	24
黒潮への旅												
黒潮の海	35	27	10	7,500	1	7,500	1,250	4	3,750	12	5,000	16
危険ザメの海	15	15	4.2	800	1	800	130	4	400	12	530	16
深海への旅												
個水槽	4.4	2.1	2.6	24	1	24	4	4	24	24	28	28
〃	1.3	1.4	1.9	3.4	4	13.6	2.3	4	13.52	24	16	28
〃	0.5	0.4	0.6	0.1	15	1.5	0.4	4	4.58	50	5	54
深層の海	10.3	8	3.6	230	1	230	38	4	300	24	338	28
海のプラナクトム	1.5	1.3	1.3	2.4	3	7.2	1.2	4	7.2	24	8	28
琉球弧の水辺												
4m水槽	4.0	0.8	0.5	1.6	1	1.6	0	0	6.0	90	6.0	90
琉球弧個水槽	0.36	0.3	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0
両生類爬虫類水槽	0.93	0.45	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0
両生類爬虫類個水槽	0.90	0.45	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
陸生貝類水槽	0.60	0.30	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
合計					85	9,269	2,049					

水槽アクリル情報

水槽	幅(m)	高さ(m)	厚さ(cm)
サンゴの海 曲面	18.136	2.95	18
熱帯魚の海 曲面	7.105	3.49	18
平面	6.5	3.45	18
黒潮の海 正面	22.5	8.2	60
カフェ側	2.6	7.4	20
アクアルーム 曲面	7.45	10.6	38
コーナー	3.3	2.87	10
美ら海シアター	6.4	3.45	20
水上観覧デッキ(強化ガラス)	3.75	3.75	3
危険ザメの海	4.3	3	15
深層の海	10.15	3.15	16



「黒潮の海」大水槽

蓄養棟

予備槽スペース：約 400m³ 補給水：取水未濾過海水 換水率：回/日

水槽	形状	水槽寸法(m)			水量(m ³)			補給水		総換水	
		幅	奥行	水深	水量	数	総水量	m ³ /時	換水率	m ³ /時	換水率
1F コンクリート水槽	方形	11	9	2.5	250	1	250	120	12	120	12
	円形	10		3	240	1	240	120	12	120	12
2F FRP水槽	方形	5	5	1	25	3	75	25	24	25	24
	方形	6	5	1	54	2	108	60	24	60	24
	方形	5	3	1.5	21	6	126	21	24	21	24
	方形	5	2	1	9	6	54	9	24	9	24

生け簀

網	形状	水量(m ³)	長径(m)	短径(m)	水深(m)	数
K-1	方形	9,000	20	30	15	1
K-2	方形	2,475	15	22	7.5	1
K-3	方形	4,950	15	22	15	1
M-1-4	円形	1,325	15	15	7.5	4

総水量：21,725m³ 囲い網：106×38×20m

イルカ周辺施設

ウミガメプール

プール	形状	容積(m ³)	長径(m)	短径(m)	水深(m)	補給水		濾過循環		総換水	
						m ³ /時	換水率	m ³ /時	換水率	m ³ /時	換水率
メインプール	長方形	336	16.8	10.5	2	56	4	25	2	81	6
A・Bプール	楕円形	23	3.8	3.4	2.2	23	24	0	0	23	24
Cプール	楕円形	4	3.25	2.85	0.5	2	24	0	0	2	24

給水システム：メインプール藩開放 A～Cプール解放 補給水：「黒潮の海」オーバーフロー水

メインプール産卵場：115.0m³

マナティー館

プール	形状	容積(m ³)	長径(m)	短径(m)	水深(m)	給水口	排水口	濾過器
メインプール	長方形	250	10.8	8	3	24	5	4
ホールディングプール	長方形	100	8	4.9	3	24	3	2
育児プール	円形	30	5	5	1.5	6	1	1

丸窓直径：1.2m 厚さ：4cm 材質：アクリル

給水システム：閉鎖 補給水：井水 換水率：24回/日

水温調整：チリングユニット 逆洗水槽：200m³ 補給水水槽：100m³

オキちゃん劇場

プール	形状	容積(m ³)	長径(m)	短径(m)	水深(m)	給水口	排水口	面積(m ²)
メインプール	楕円形	1750	25	15	6	3	3	292
水中ショープール	楕円形	500	17	10	3	2	1	176
繁殖用プール	円形	400	14	14	3	2	1	133
治療用プール	円形	500	15	15	3	2	1	166

メインプール客席数：980 収容人数：1300 水中ショープール客席数：87

給水システム：解放 補給水：「黒潮の海」オーバーフロー水 換水率：10回/日

イルカラグーンプール

プール	形状	容積(m ³)	長径(m)	短径(m)	水深(m)
教育用水槽	長方形	1200	24.25	16.25	4
繁殖用水槽	円形	500	15	15	3
予備イルカ水槽	円形	500	15	15	3
浅瀬	円形	40	—	—	0.5
水路	長方形	53.25	7.1	3.75	2

丸窓直径：1.2m 厚さ：4cm 材質：アクリル

給水システム：開放 換水率：4回/日

補給水：「サンゴの海」オーバーフロー水138m³・取水未濾過海水250m³

沖縄美ら海水族館年報 第22号 令和8年4月 作成

発行所 一般財団法人 沖縄美ら島財団

沖縄県国頭郡本部町字石川 888

電話 0980-48-3645 (代)

編集兼 / 発行人 湧川 盛順



ちゅ うみ
沖縄美ら海水族館
Okinawa Churaumi Aquarium

一般財団法人
沖縄美ら島財団
Okinawa Churashima Foundation